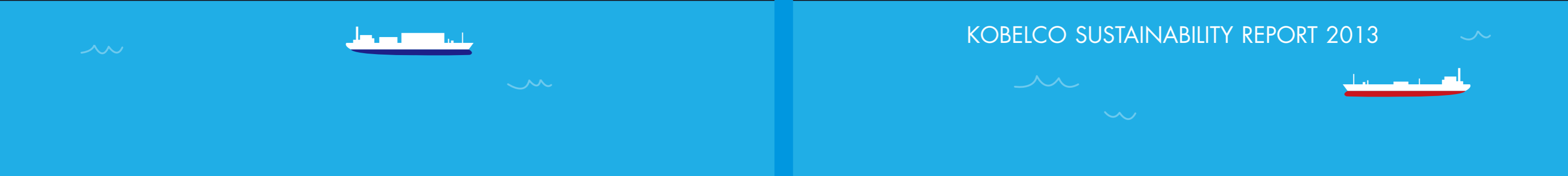
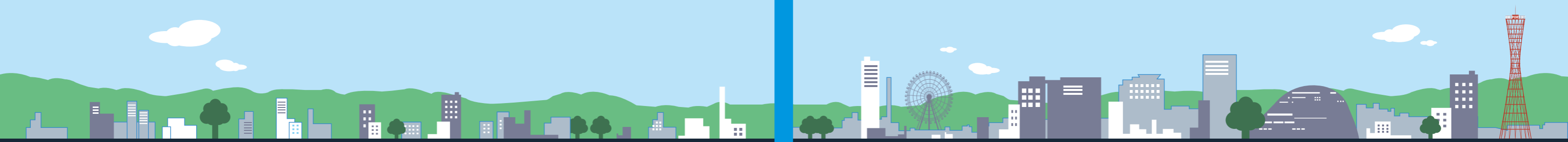




神戸製鋼グループ
環境・社会報告書 2013



KOBELCO SUSTAINABILITY REPORT 2013

KOBELCO

株式会社神戸製鋼所

神戸本社 〒651-8585 神戸市中央区脇浜海岸通2丁目2-4
東京本社 〒141-8688 東京都品川区北品川5丁目9-12

発行: (株) 神戸製鋼所 CSR委員会

ホームページはこちらをご覧ください。
http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/

KOBELCO

2013年度版の編集方針

本報告書は、CSR委員会下部組織の報告書作成部会が、各部門との議論を通じて、ステークホルダーの皆様にとって関心の高い事項や、事業活動としての重要性(マテリアリティ)を考慮し、3つの編集の視点から報告内容を選択して企画・構成しました。

事業活動を通じた環境への貢献

生産工程での環境配慮に加え、CO₂排出量の削減や未利用エネルギーの活用を実現する環境配慮型製品の提供などを通じた社会への貢献を報告します。

自動車の燃費を改善する高強度鋼板やアルミニウム合金の提供。



セミナーを通じたコンプライアンスの徹底。



コンプライアンスの徹底

コンプライアンスは、神戸製鋼グループが企業としての社会的責任を果たすための出発点です。コンプライアンスに基づく、公正で健全な企業活動について報告します。



神戸製鋼ラグビー部による、東日本大震災の復興支援活動。

ステークホルダーとのつながりづくり

株主・投資家様、お客様・お取引先様、地域社会の皆様、従業員など、多様なステークホルダーとのつながりを深めるための社会貢献活動を報告します。

神戸製鋼グループは、「ものづくり」を通じて環境と社会に貢献します。

1905年の創立以来、神戸製鋼グループは「ものづくり」を通じて産業と社会を支えてきました。

鉄鋼や溶接、アルミ・銅などの素材、産業・建設機械、エンジニアリング、環境ソリューション、電力卸供給、不動産、電子材料など、各時代の産業や社会が求める、独創的な付加価値を持つ製品や技術を提供してきました。

いま、環境負荷の低減をはじめ、未来に向けた多様で複雑な課題の解決が迫られる時代。神戸製鋼グループは、「ものづくり」の力で、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

本報告書は、「GRIガイドライン第3版」「ISO26000 社会的責任に対する手引」を参考にすると共に、「環境報告については「環境報告ガイドライン2012年版」を、また防災については2005年8月1日に公表された防災に関するPR文書(中央防災会議企業評価・業務継続ワーキンググループ)を参考に作成しました。

報告対象期間

本報告書は、2013年度版として2012年度(2012年4月1日から2013年3月31日まで)の、神戸製鋼グループの環境および社会に対する活動実績に基づいて作成しました(一部、対象期間外の内容を含みます)。環境への取り組みや社会貢献に関するの基本姿勢と、これまでの、そして現在、さらに将来の活動についても述べています。

報告対象組織

原則として、(株)神戸製鋼所および国内外グループ会社の活動を報告対象としています。

※環境データの集計対象会社は、当社ホームページに掲載しています。

Homepage http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2013/

主要な環境パフォーマンス一覧

神戸製鋼グループの主要な環境パフォーマンス一覧は、当社ホームページに掲載しています。

Homepage http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2013/



神戸製鋼グループは、「環境」イメージの浸透と従業員の「環境」マインドの醸成を狙いとして、環境シンボルマークを設定しています。フリーハンドの「青々と生い茂る木の葉」がナチュラルで優しいイメージを表現し、矢印と「ECOWAY」という言葉を組み合わせて「環境先進企業グループへの道を一歩ずつ確実に進んでいく企業姿勢」を表しています。

CONTENTS

社長メッセージ	3
神戸製鋼グループの概要	6
CSR活動の基本的な考え方	7
コンプライアンスの強化・徹底	9

環境報告

3つのVISIONに基づく環境経営で、「環境先進企業グループ」を目指します。

2012年度の活動ハイライト	11
環境経営基本方針と6つの実施事項	11
環境マネジメント	
環境中長期目標とその取り組み	13
環境活動 CLOSE UP	
KOBELCOのバリューチェーン	15
マテリアルバランス	17
環境活動・パフォーマンス	
あらゆる面で環境に配慮したものづくりの徹底	
地球温暖化対策	19
資源循環の促進	22
化学物質の適正管理	24
環境負荷の低減	25
環境会計	26
製品・技術・サービスでの環境への貢献	
製品を通じたCO ₂ 排出量削減	27
自動車軽量化への貢献	28
素材、機械、エンジニアリング分野での環境への貢献	29
研究開発による環境への貢献	31
環境関連情報の開示	32
社会との共生・協調	33
全員参加による取り組みの展開	34
リスク管理の徹底	35
海外事業所におけるリスク管理活動	36

社会性報告

多様なステークホルダーとの対話から、私たちの社会貢献活動は始まります。

2012年度の活動ハイライト	37
社会貢献活動の考え方	38
社会貢献活動 CLOSE UP	
スポーツを通じた社会への貢献	39
優れた製品・サービスの提供	41
株主・投資家の皆様との関わり	43
社会との共生	45
社員が働きやすい職場環境	49
防災への取り組み	51

各事業所の環境保全への取り組み	53
読者の皆様からの評価	57
第三者コメント	58

環境・社会貢献への取り組みは、 神戸製鋼グループの 未来への成長力です。

神戸製鋼グループの環境・社会貢献を、今後どのように進めていくのか。専務取締役として環境経営委員会の委員長を務め、2013年4月に新社長に就任した川崎博也が、神戸製鋼グループのこれからの活動についてお話しします。

「行動」に基づいて、 新たなビジョンを切りひらきます。

神戸製鋼グループは、創業以来、さまざまな分野のものづくりを通じて、環境負荷の低減や産業・社会の基礎を担ってきました。環境と社会への貢献は、神戸製鋼グループの事業活動そのものといえます。

神戸製鋼グループは、中長期経営ビジョン「**KOBELCO VISION “G”**」を推進しており、ものづくり力の強化や社会への貢献は重要な柱となっています。私は、「KOBELCO VISION “G”」の推進を自らのミッションと考え、グループのさらなる成長や環境・社会貢献につながる事業改革を進めます。

私の座右の銘は「行動」です。前社長（現・佐藤廣士会長）の考えである「**バリアフリー**」を受け継ぎ、組織の垣根を越えて自ら動いて相手を動かすことで、未来を切りひらきたいと思えます。

未来へのオンリーワンの貢献を可能にする、 ものづくり力の強化を進めます。

神戸製鋼グループには、鉄鋼、溶接、アルミ・銅など素材系の事業、産業・建設機械、エンジニアリング、環境ソリューションなど機械系の事業を中心に、電力卸供給、不動産、電子材料など幅広い事業分野があります。こうした事業が提供する独自の付加価値を持つ製品・技術を、私たちはオンリーワンと呼んでいます。

その中には、環境負荷の低減や、未利用のエネルギーの有効活用など、社会が直面する課題の解決に役立つ製品・技術が豊富に存在します。環境や社会に貢献するものづくりを進めていくことが、私たちの使命だと考えています。

こうしたものづくり力を強化するために、2010年度から本社部門に「**ものづくり推進部**」を設置し、先進的なトップランナー事例の共

有など、各事業部門・グループ会社を横断するしくみで新製品開発や生産技術の開発を加速しています。いわば、新しいオンリーワン創出の体制を確立するのです。

環境保全技術の開発が、 グループの成長を加速します。

ものづくり力の強化は、これからの環境経営の大きな柱です。より付加価値の高い製品開発が、地球環境の保全に大きく貢献します。例えば私たちの製品である高張力鋼板（ハイテン）やアルミは、**自動車の軽量化**を進め、燃費改善によるCO₂排出量の削減を可能にします。この分野では今後、ハイテンやアルミ合金を適材適所で組み合わせるなどマルチマテリアル化が進んでいくでしょう。この動きに対応し、技術開発や技術提携により事業のメニューをひろげていくことが、神戸製鋼グループの新たな成長力になります。

ものづくり推進部の活動

事業部門やグループ会社ごとの縦割りのものづくりを超えて、先進的な取り組み事例やノウハウの共有化、製造拠点間の交流などを促進することで、グループの多様な知恵とスキルを結集する活動を進めます。各事業所の「ものづくり推進リーダ会議」や「生産技術交流会」を定期的に開催しています。（41～42ページ参照）



自動車の軽量化



神戸製鋼は、高張力鋼板（ハイテン）やアルミニウム合金、異種金属接合技術などを提供することで、自動車の部材の高強度軽量化を図り、燃費向上に貢献しています。フードやドアなどのパネル材、バンパーなどの押出型材、サスペンションなど足回り用鍛造材といった、幅広い部位に活用されています。（28ページ参照）

KOBELCO VISION “G” ～新しい価値の創造と グローバルな成長を目指して～

基本方針

神戸製鋼グループならではのオンリーワンの技術・製品・サービスでグローバルに成長市場を取り込む

（主な取り組み）

1. オンリーワンの徹底的な追求
2. ものづくり力の更なる強化
3. 成長市場への進出深化
4. グループ総合力の発揮
5. 社会への貢献

バリアフリー

多彩な事業間の連携を良くすることで、神戸製鋼グループ全体を活性化し、グループ経営のキーワード。組織や部門の障壁（バリア）を乗り越えることで技術や知恵のシナジー効果を回り、従業員一人ひとりがバリアを越えて切磋琢磨することで、やがてお客様との壁も乗り越えていきます。こうした考え方に基いて生まれたのが、各事業部門の横展開によりものづくり力の強化を図る、「ものづくり推進部」です。

株式会社 神戸製鋼所
代表取締役社長

川崎博也

バイナリー発電



70～95℃程度の温水で気化する媒体を用い、その蒸気でタービンを回して発電するシステム。温泉熱にとどまらず、工場から出る温排水や蒸気で発電することもできます。すでに長崎県雲仙市と大分県別府市の温泉の自家発電施設として納入されています。



スチームスター®

中小規模の製造施設で使われている小型ボイラから発生する蒸気を活用し、高効率の発電が可能です。日本国内に小型ボイラが約25万台あり、その5%が「スチームスター」を導入すれば、年間約500万トンものCO₂排出を抑えられる試算です。

森林整備活動

従業員一人ひとりが参画する活動の一環として、2011年からスタートしています。兵庫県のグリーンピア三木内の里山を「KOBELCOの森」、六甲山系の一部を「ECOWAYの森」と名付け、森林整備を行っています。2012年度は、のべ600名が参加しました。(33ページ参照)



社長メッセージ

これからのエネルギー社会を見据えた、新たなエコビジネスの展開。

新しいエネルギーへの取り組みも強気に推進します。温泉の熱を有効活用する「バイナリー発電」システムや、これまで完全にご利用できていなかった中小規模の工場で発生する蒸気を利用した発電機「スチームスター®」を開発し、省エネルギーとCO₂の削減に貢献しています。さらに神戸市や大阪ガス(株)と連携し、下水汚泥から発生するバイオガスを都市ガスや自動車の燃料として利用する実証実験に取り組んでいます。こうした未利用エネルギーの有効活用は私たちの独自の技術であり、今後も新たな可能性を探っていきます。

燃料電池車に水素を提供する水素ステーションの技術も、製品化まであと一歩です。神戸製鋼グループは、水素発生装置や高圧水素圧縮機など水素ステーション実現に必要な一貫した技術を開発しており、早期の事業立ち上げを目指しています。

地域に愛される企業であることを目指して、多彩な社会貢献を続けます。

日本や世界の各地に拠点を展開する神戸製鋼グループにとって、地域への貢献は事業の一部といえます。地域社会に愛される企業を目指して、道路の清掃や学校教育とも連携した工場見学、緑地やビオトープの設置など幅広い活動を行っています。

例えば山口県にある神戸製鋼の長府製造所と周辺のグループ会社は、事業所前の国道沿いに約200本の桜を整備し、長年にわたり

緑化活動を続け、地元の皆様から親しまれる存在になっています。また、兵庫県の2カ所の森林で「森林整備活動」を開始し、神戸市が実施する「児童館出前エコ教室」に参画するなど、新しい取り組みも始まっています。2013年度は、新たな貢献活動として次代を担う



子供たちを育む「KOBELCO森の童話大賞」を開始します。

神戸製鋼グループは、スポーツを通じた社会貢献にも力を入れています。ラグビー人口の裾野拡大を目的として特別協賛している「KOBELCOカップ」では、2005年より、全国から集まった男子高校生にラグビー講習会を開催しています。2012年からは女子高校生の参加も始まり、2016年のリオデジャネイロ・オリンピックで男女7人制ラグビーが正式種目として採用される中、一人でも多くの男女高校生がオリンピック選手へ成長することを期待しています。

また、神戸製鋼が支援するNPO法人「SCIX」が考案した、子供たちの身体能力の向上などに寄与する球技「スペースボール」を、地域の小学生をグラウンドに招いて体験していただいています。今後も、地域社会に貢献する活動を続けたいと考えています。

社員一人ひとりの“目”が生み出す、コンプライアンスを。

神戸製鋼グループのあらゆる活動の根底にあるのは、安全とコンプライアンスです。私たちにとってコンプライアンスとは、“法令”の遵守にとどまりません。たとえ法的には問題がなくとも、地域の皆様やお客様にけって迷惑をかけない。そんな当たり前の良識を持って、全ての社員が自らの“目”で組織や仕事を律する。環境や社会への貢献は、そこから始まります。

私はバラ栽培が趣味ですが、バラは花が咲くまでに多大な労力がかかります。だからこそ、咲いた花はひときわ美しく感じます。神戸製鋼グループの環境・社会貢献も、多くの知恵と力を活かして、未来に向かって大きな花を咲かせたいと思います。

KOBELCO GREEN PROJECT ~KOBELCO 森の童話大賞~

従来から実施してきた森林整備活動、子供たちへの環境教育などの貢献活動に、「KOBELCO 森の童話大賞」を新たに加えた「KOBELCO GREEN PROJECT」をスタートさせました。「KOBELCO 森の童話大賞」は、小学生・中学生・高校生を対象に、森や森と関わる自然をテーマにした童話を募集するコンテストです。金賞の受賞作はプロの絵本作家により絵本化し、環境教育ツールとして活用することを目的としています。



スペースボール



神戸製鋼ラグビー部の練習メニューの一つが原型となったオリジナルのスポーツ。サッカー、ラグビー、バスケットボールなどゴール型球技に共通する「スペース」を楽しく体験して学ぶことができます。身体能力の向上や、体幹の形成に適しているだけでなく、「スペース感覚」「広い視野」「コミュニケーション」「状況判断能力」を養うことができます。(40ページ参照)

神戸製鋼グループの概要 (2013年3月31日現在)

株式会社神戸製鋼所

会社名	株式会社神戸製鋼所
英文社名	Kobe Steel, Ltd.
グループブランド	KOBELCO
創立	1905年9月1日
設立	1911年6月28日
社長	川崎 博也
資本金	2,333億1,324万8,065円
売上高	連結 1兆6,855億円 単体 9,338億円
従業員数	連結 36,018名 単体 10,398名(出向者を除く)
連結子会社および持分法適用関連会社	212社

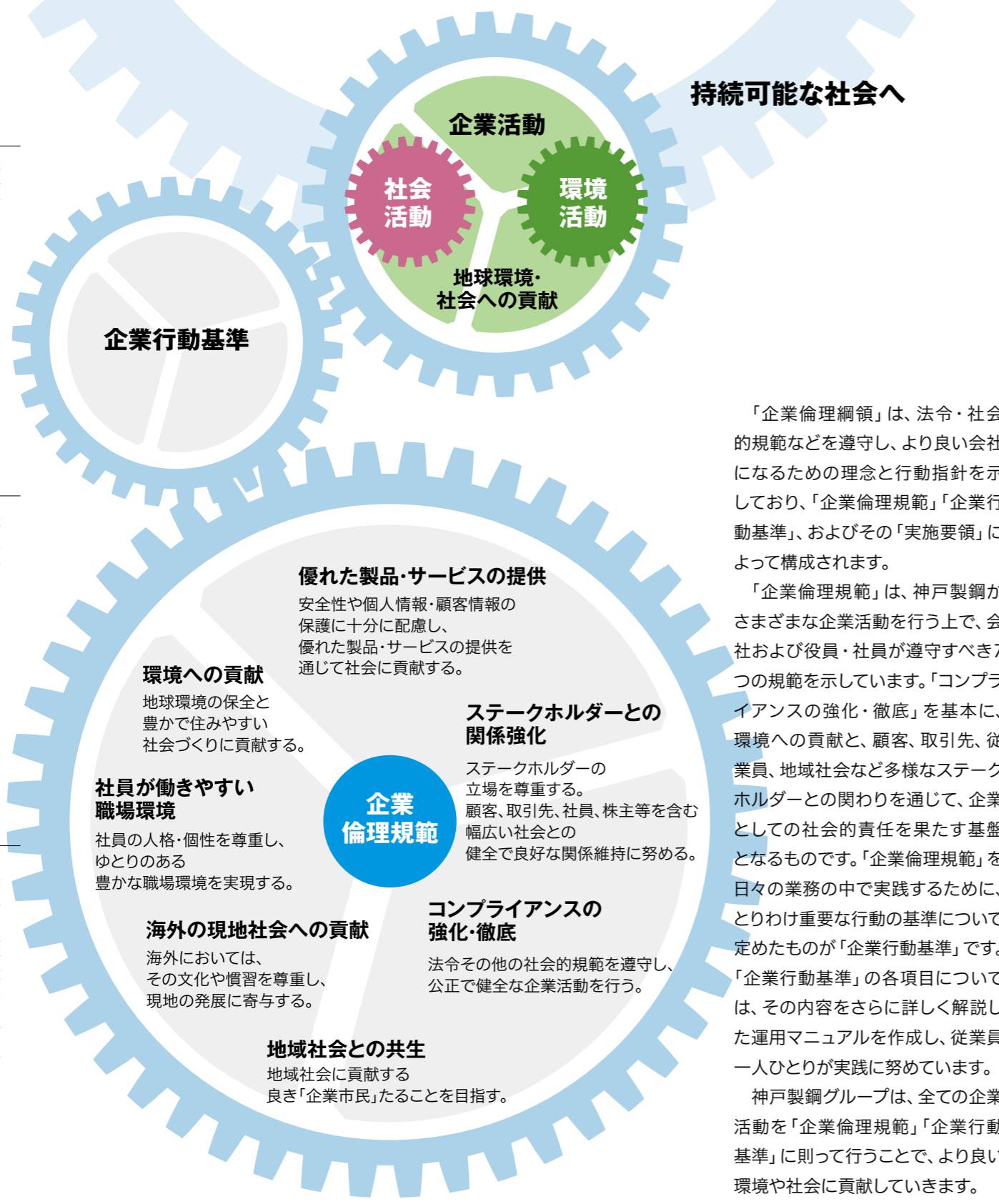
グループ事業別売上高(連結)



(注)上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高などの消去額745億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額1兆6,855億円となります。

CSR活動の基本的な考え方

神戸製鋼グループは、企業としての社会的責任(CSR)を果たすことをグループ経営の重要な施策と位置付け、具体的な行動指針として「企業倫理綱領」を制定しています。特に、ものづくりを担うメーカーとして、環境に配慮した生産活動や製品開発を重視し、環境と社会に貢献しながら持続的に発展する企業グループを目指します。



持続可能な社会へ

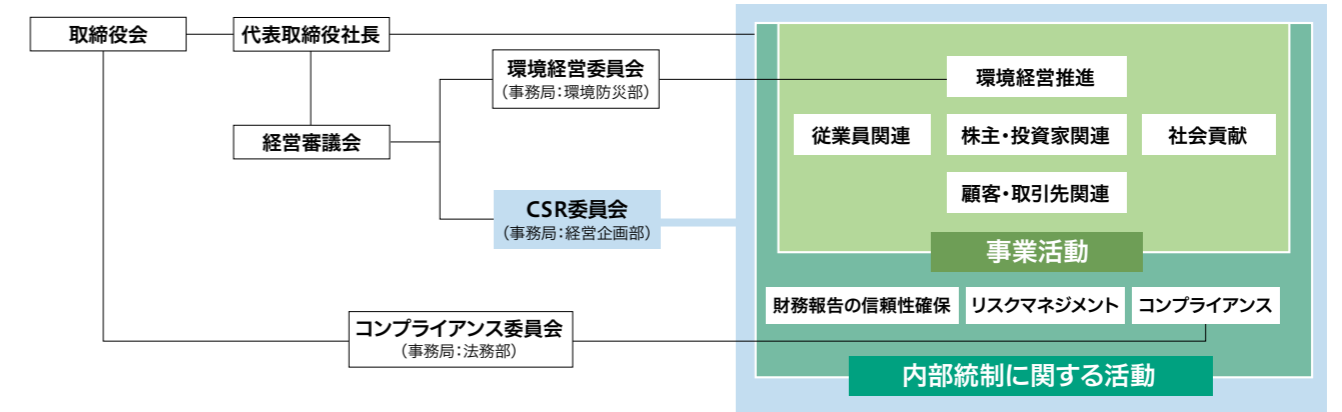
「企業倫理綱領」は、法令・社会的規範などを遵守し、より良い会社になるための理念と行動指針を示しており、「企業倫理規範」「企業行動基準」、およびその「実施要領」によって構成されます。

「企業倫理規範」は、神戸製鋼がさまざまな企業活動を行う上で、会社および役員・社員が遵守すべき7つの規範を示しています。「コンプライアンスの強化・徹底」を基本に、環境への貢献と、顧客、取引先、従業員、地域社会など多様なステークホルダーとの関わりを通じて、企業としての社会的責任を果たす基盤となるものです。「企業倫理規範」を日々の業務の中で実践するために、とりわけ重要な行動の基準について定めたものが「企業行動基準」です。「企業行動基準」の各項目については、その内容をさらに詳しく解説した運用マニュアルを作成し、従業員一人ひとりが実践に努めています。

神戸製鋼グループは、全ての企業活動を「企業倫理規範」「企業行動基準」に則って行うことで、より良い環境や社会に貢献していきます。

CSR推進体制

推進体制図



神戸製鋼グループのCSRに関する基本方針の決定およびその活動を集約する機関として、2006年より「CSR委員会」を設置しています。

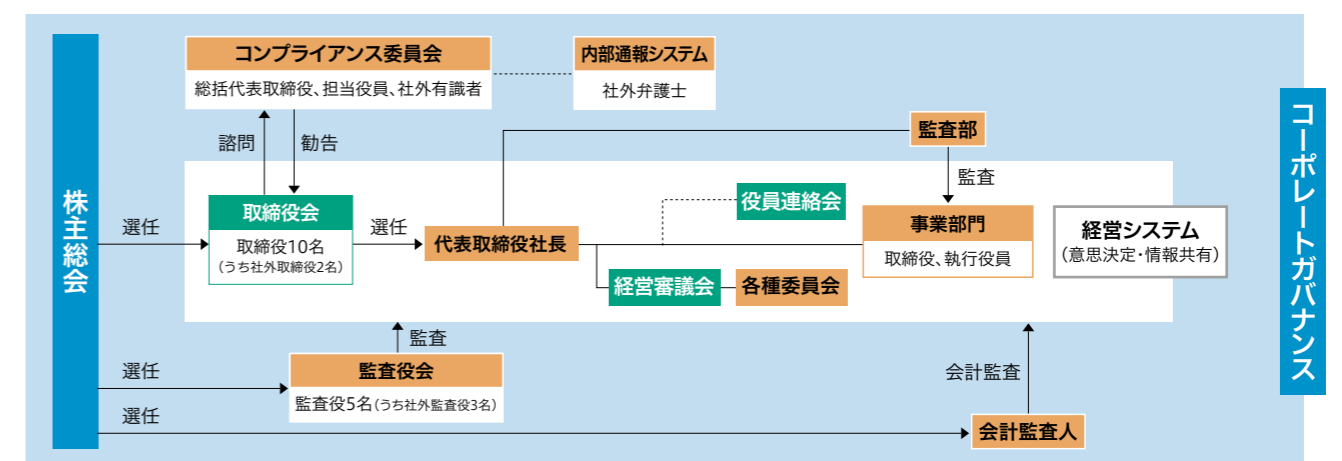
また、取締役会の諮問機関として「コンプライアンス委員会」を設置しており、重要事項に関する審議・提言・進

捗確認を行っています。

CSR委員会は、これらのCSRに関する活動を取りまとめ、「神戸製鋼グループ 環境・社会報告書」として発行しています。

コーポレートガバナンスの強化と充実

コーポレートガバナンス体制



神戸製鋼は執行役員制度を採用していますが、経営の意思決定と日常業務の執行は密接不可分と認識しています。したがって、業務執行の中核は株主および取引先などの関係者に対し法的責任を負う取締役が担うべきであると考え、主要な事業部門は取締役が業務執行を統轄しています。

現行の取締役会は、経営トップ、本社部門の重要な役割を担う者、経営に重要な影響を与える事業部門の長、またはこれに準ずる者、および経営の透明性・公平性を確保し業務執行の監督機能を強化する観点から招聘した社外取

締役2名を含む10名で構成しています。執行役員は、取締役会から選任され、取締役から委嘱された業務を執行する重要な役職であると位置付けています。

このような経営体制のもと、神戸製鋼は監査役制度を採用し、社外監査役3名を含む5名の監査役による経営監査機能を一層強化することで、企業統治の実効性を高めています。また、内部監査については、独立した監査組織として監査部を設け、全社的な業務執行に関する監査を行っています。

(注) 取締役人数および監査役人数は、第160回定時株主総会終了後の予定人数です。

コンプライアンスの強化・徹底

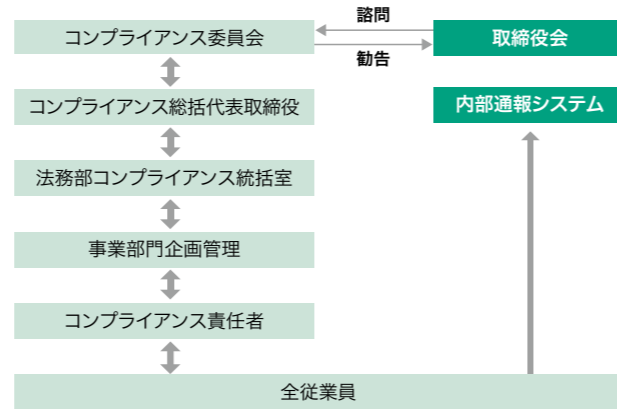
神戸製鋼は、コンプライアンスを企業存立の大前提であると考えます。

これからも経営陣が先頭に立ち、コンプライアンスの定着のための諸施策を推進していくことにより、コンプライアンスに対する「感度」が高い組織文化を持った企業グループを目指します。

コンプライアンス体制

神戸製鋼は、取締役会の諮問機関として「コンプライアンス委員会」を設置しています。社内委員2名に対し、公正中立な立場の社外委員が5名と過半数を占める同委員会では、推進計画の立案、進捗状況の確認、「内部通報システム」への通報事案に関する審議などを行っています。

また、「コンプライアンス総括代表取締役」「コンプライアンス担当役員」、専門部署としての「法務部コンプライアンス統括室」を設置し、事業部門の企画管理担当部署や各部署に設置する「コンプライアンス責任者」と連携しながら取り組みを行っています。



コンプライアンス教育

神戸製鋼は、役員およびグループ企業の経営幹部を対象とした「コンプライアンストップセミナー」をはじめ、各階層別研修にコンプライアンスに関する内容を織り込み、社員がキャリアの節目ごとに幅広く研修を受ける機会を設けています。特にコンプライアンス責任者に対しては、毎年研修を受講することを要請しています。また、法令教育e-ラーニングを毎年実施し、全社員がコンプライアンスへの理解度を確認する機会としています。



▲コンプライアンストップセミナー

コンプライアンス・マニュアルの整備

神戸製鋼は、「企業倫理綱領」の「企業行動基準」に記載された各項目について、より詳しく説明した「社員のための行動手引き」を作成し、全社的なコンプライアンス・マニュアルとして社員に配布しています。このマニュアルは、後述のリスク管理活動で全社が共有する「共通リスク」の項目と連動しており、リスク管理活動の基本マニュアルにもなるものです。



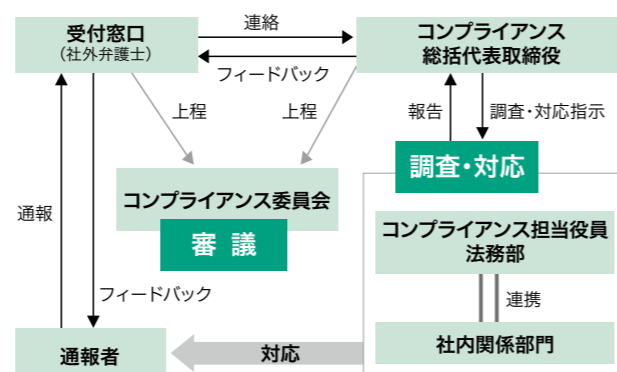
さらに、独占禁止法、下請法、個人情報保護法、安全保障貿易管理などの個別の法令マニュアルも整備し、社員が業務の中で疑問に思ったことを参照しやすい形で整理しています。

各種詳細マニュアル

- 独占禁止法遵守マニュアル
- 安全保障貿易管理ホームページ
- 下請法遵守マニュアル
- 企業対象暴力対策マニュアル
- 知的財産情報イントラネット
- 公務員との付き合い方マニュアル
- 個人情報管理マニュアル
- セクシュアルハラスメント防止マニュアル
- 企業秘密ガイド&管理マニュアル

内部通報システム

法令・倫理などのコンプライアンス違反によるリスクの顕在化・拡大を未然に防止し、また早期に問題を把握し、対策を講じるためのしくみとして、「内部通報システム」を設置しています。これは、社内において法令に違反するような不正行為を発見した場合、中立的な立場にある弁護士会推薦の弁護士(社外弁護士)を受付窓口として通報できるようにしたものです。通報内容はコンプライアンス委員会で審議され、適切な対応につなげるしくみとしています。また、グループ各社にも展開しています。



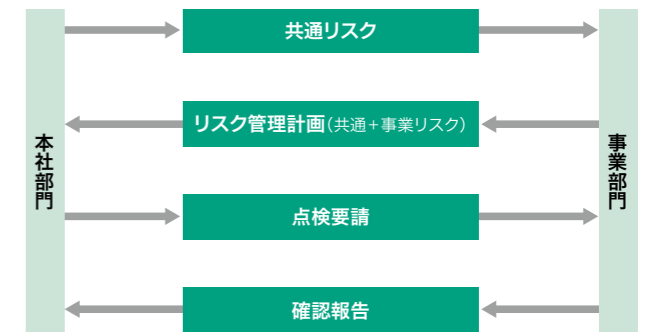
リスク管理活動

神戸製鋼グループは、自らの部署のリスクを、自らが点検し、改善につなげていくという「リスク管理活動」に取り組んでいます。

この活動は、本社スタッフ部門が、法令や社会の変化を踏まえた上で発信した全社の「共通リスク」に基づいて、各部署が独自の「事業リスク」も加えて、「リスク管理計画」を策定し、事業の中で実行していくというものです。また、年度末には、一年間の活動結果を経営トップも含めた事業部門、部署の責任者が点検・確認して、次年度以降の取り組みにつなげています。

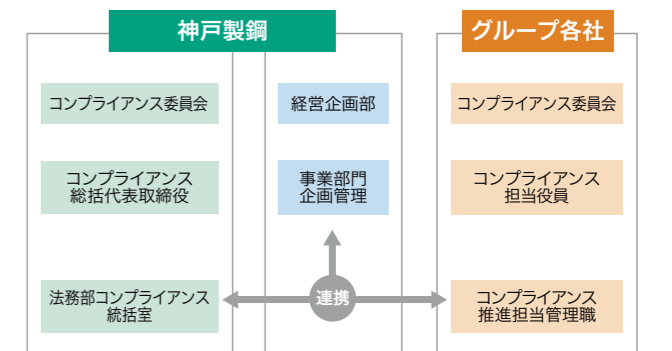
すなわち、各事業部門の中で、コンプライアンスも含めたリスク管理のPDCA (Plan, Do, Check, Action) のサイ

クルが回るしくみとし、この取り組みを継続することで、それぞれの事業の中に、コンプライアンスに対する「感度」が高い組織文化が定着することを目指しています。



グループでの取り組み

神戸製鋼グループは、グループ各社において、コンプライアンス委員会などの設置、「企業倫理綱領」の制定、内部通報システムの導入を進めています。各社には「コンプライアンス担当役員」と「コンプライアンス推進担当管理職」を設置し、神戸製鋼と連携しながら各社での取り組みを進めています。また、グループ会社においても、神戸製鋼と同様に、リスク管理活動に取り組んでいます。



コンプライアンスに対する高い「感度」を持った企業グループを目指します。

全社コンプライアンスの総括 代表取締役副社長 藤原 寛明

神戸製鋼グループでは、2013年度より「2013-2015年度グループ中期経営計画」をスタートさせ、中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION "G"」の第2期間に入りました。引き続き、法令や社会規範の遵守なくして企業の存立はあり得ないとの認識の下、コンプライアンスの徹底を経営の最重要課題の一つと位置付け、グループ全体での体制の整備、教育の実施をはじめ、各部署・各グループ会社が自らのコンプライアンスリスクを抽出し、改善を行うリスク管理活動などの取り組みを行ってまいります。

今後とも、コンプライアンスに対する高い「感度」を持った企業グループを目指す中で、社会から信頼される企業文化の構築に邁進してまいります。



ECO HIGHLIGHTS

環境報告 2012年度の活動ハイライト

1 あらゆる面で環境に配慮した ものづくりの徹底

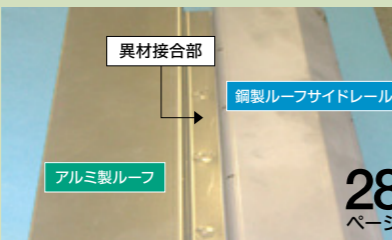
製鋼スラグを道路の路盤材に
再利用



鉄鋼製造の副産物である製鋼スラグを、道路用路盤材などに再資源化しています。製鋼スラグ特有の膨張性を抑える技術により、生成する製鋼スラグのほぼ全てを有効活用できます。

2 製品・技術・サービスでの 環境への貢献

自動車軽量化に貢献する
異種金属接合技術



自動車軽量化に貢献する鉄鋼・アルミ製品、これら2種類の素材を組み合わせる異種金属接合法の開発を推進しています。双方の素材に実績を持つ神戸製鋼ならではの技術です。

3 環境関連情報の開示

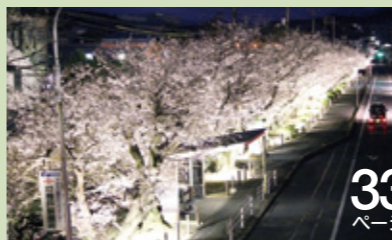
「第9回 国際水素・燃料電池展」
に出展



東京ビッグサイトで開催された、この分野では世界最大規模の展示会に、水素製造装置から水素ステーションまで一貫した技術を出展しました。水素社会への取り組みを幅広く紹介しました。

4 社会との共生・協調

約200本の桜を整備



長府製造所は、グループ会社と共に国道沿いに植えられた約200本の桜を整備しています。現在では、地元の皆様から愛される桜並木に育ちました。

5 全員参加による 取り組みの展開

神戸製鋼グループ環境会議
を開催



従業員一人ひとりの環境意識を高め、不断の取り組みを進めるため、毎年「神戸製鋼グループ環境会議」を開催しています。優れた活動を発表し、グループ全体に普及を図っています。

6 リスク管理の徹底

インドのグループ会社で
現地環境調査を実施

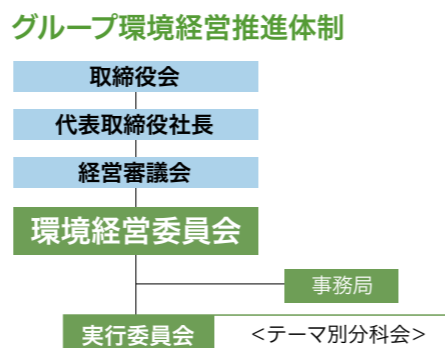


海外グループ会社に対しても、国内と同様に現地環境調査を行っています。2012年度は、インドの3事業所について環境管理状況の実態把握と問題点の抽出を行いました。

環境報告

3つのVISIONに基づく環境経営で、 「環境先進企業グループ」を目指します。

神戸製鋼グループは、全ての生命体を育む健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、環境経営基本方針と、6つの実施事項を策定しています。事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営の推進に努めています。6つの実施事項を検討・提言する機関として「環境経営委員会」を設置し、グループの全従業員が参画する環境経営で「環境先進企業グループ」を目指します。



環境経営基本方針

神戸製鋼グループは、環境先進企業グループとして

- ① 環境に配慮した生産活動
- ② 製品・技術・サービスでの環境への貢献
- ③ 社会との共生・協調

を実践することにより、社会的責任を果たすと共に、
環境力を高め企業価値を向上させる。

『グループ環境経営の実践によるさらなる企業価値向上』 (グループの環境力向上)

6つの実施事項

- 1 あらゆる面で環境に配慮したものづくりの徹底
 - 地球温暖化対策 …………… P19▶P21
 - 資源循環の促進 …………… P22▶P24
 - 化学物質の適正管理 …………… P24
 - 環境負荷の低減 …………… P25
- 2 製品・技術・サービスでの環境への貢献 …… P27▶P31
- 3 環境関連情報の開示 …………… P32
- 4 社会との共生・協調 …………… P33
- 5 全員参加による取り組みの展開 …………… P34
- 6 リスク管理の徹底 …………… P35▶P36

神戸製鋼グループは環境経営を着実に かつ地道に推進していきます

環境経営委員会委員長(執行役員) 柴田 耕一郎

神戸製鋼グループは「環境に配慮した生産活動」、「製品・技術・サービスでの環境への貢献」、「社会との共生・協調」を三本柱としたグループ環境経営を実践しています。

この度、グループ全体のさらなる企業価値の向上を目指して「2013-2015年度中期環境経営計画」を策定しました。今後も、環境に関わるビジネスの強化などにより社会へ貢献していくと共に、地域の皆様と共に歩む企業グループを目指して環境経営を推進していきます。



環境中長期目標とその取り組み

神戸製鋼グループは、「2010-2012年度中期環境経営計画」に基づく6つの実施事項を確実に実行し、環境に配慮した事業活動に取り組んできました。今後は、新しく作成した「2013-2015年度中期環境経営計画」に基づいて、取り組みを進めていきます。

実施項目	長期方針	中期での目標	2010～2012年度の実績		2013～2015年度の取り組み	掲載ページ	
				評価			
1 あらゆる面で環境に配慮したもののつくりの徹底	地球温暖化対策	あらゆる事業活動において省エネルギー、CO ₂ 削減を推進し、地球温暖化防止に貢献する。	業界ごとの自主行動計画目標を達成する。	■ 各業界目標値および神戸製鋼各事業部門の目標値をおおむね達成できた。	○	業界ごとに作成している低炭素社会実行計画の達成に向け、徹底した省エネルギー活動に取り組む。	19
	資源循環の促進	埋立処分量ゼロを目指した活動を継続する。	廃棄物の最終処分量を業界ごとの自主行動計画通りに削減する。特に鉄鋼事業部門では、製鋼スラグの再資源化に注力する。	■ 各業界目標を反映した計画を推進し、最終埋立処分量および再資源化の目標を達成した。神戸製鋼全体の再資源化率は96.2%に達した。	○	原料・副原料の使用量適正化、再資源化・新規リサイクル技術および用途の開発などを進め、業界ごとの自主行動計画を達成する。	22
	化学物質の適正管理	「神戸製鋼グループ有害化学物質管理方針」に基づき有害物質削減に取り組む。	グループ全体で継続して化学物質を適正管理する。化学物質は可能なものから自主削減に取り組む。	■ 化学物質審査規制法、PRTR法の改正に適正に対応した。PCB含有廃電気機器について適正な処理を行った。廃棄物削減活動に織り込みながら有害物質の削減・代替を進めた。	○	グループ全体で継続して化学物質を適正管理する。リスクの可能性のある化学物質（ジクロロメタン、鉛など）の削減・代替活動に取り組む。	24
	環境負荷の低減	自主管理の徹底を図り、環境負荷低減に継続的に取り組む。	生産活動における環境負荷を除害設備の更新時などの機会に機能強化することにより低減する。	■ 2010年度、加古川製鉄所において、焼結工場に最新の排煙脱硫脱硝設備を導入した。 ■ 加古川製鉄所での降下ばいじん量（製鉄所影響値）は、2010年度は自主管理目標値を超過した月があったものの、2011、2012年度は連続して目標を達成した。	○	きめ細かな操業管理、設備管理を継続し、ばい煙などの環境負荷低減に取り組む。	25
2 製品・技術・サービスでの環境への貢献	全ての製品開発・技術開発において、環境に配慮し、環境調和型製品や新たなビジネスを創出する。	既存製品などの環境面での機能強化を図る（自動車軽量化への貢献など）。法規制や国の施策などの観点から、長期的な視野で資源、エネルギーに関するテーマ抽出に取り組む。	■ 神戸製鋼グループの製品・技術・サービスを社会に提供し、CO ₂ 削減に寄与した。2012年度の神戸製鋼グループ製品におけるCO ₂ 削減効果は約4,050万トンとなった。	○	環境に資する高機能製品の拡販に努めると共に、バイナリー発電などによる再生可能エネルギー機器や水素社会に対応する機器などの開発・販売を推進し、低炭素社会への取り組みを強化する。	27	
3 環境関連情報の開示	環境関連情報を積極的に開示し、利害関係者とのコミュニケーションを図る。	年度報告書やホームページなどの媒体を活用し、ステークホルダーへ適切な情報を開示する。	■ 環境・社会報告書、ホームページ、公開モニターなどにより環境情報を公開した。 ■ 各種展示会に出展し、神戸製鋼グループの環境関連製品・技術の紹介を行った。	○	情報開示を継続し、あらゆるステークホルダーとコミュニケーションを図る。	32	
4 社会との共生・協調	環境の側面から社会との共生・協調を図る。	事業所周辺の美化活動などを継続すると共に、環境活動への支援や環境ボランティアの推奨などに取り組む。	■ 兵庫県内2カ所（三木市、神戸市六甲山系）で森林整備活動を開始すると共に、児童館出前エコ教室（神戸市主催）に参画した。	○	森林整備活動、子供たちへの環境教育を進めると共に、新たな貢献活動として「KOBELCO 森の童話大賞」（6ページ参照）などを含む「KOBELCO GREEN PROJECT」を開始する。	33	
5 全員参加による取り組みの展開	神戸製鋼グループの全社員が、継続して環境マインドの向上に努める。	エコオフィス活動や環境家計簿などを継続して環境への意識を高める。また、環境教育・学習を通じ全従業員の環境感性の向上を図ると共に、法令遵守を当然とする職場風土を醸成する。	■ 全社階層別教育にて法令遵守意識、環境リスクへの気付き能力向上を図った。 ■ 家庭でも、環境に配慮した行動を心がけるため、コベルコエコライフ ノートにWeb参加システムを導入し、参加を奨励した。	○	環境教育（階層別教育、e-ラーニング）による全従業員の意識・知識・気付き能力の向上を図る。また、コベルコ エコライフ ノートの普及参加を継続して促進する。	34	
6 リスク管理の徹底	リスク低減に向け、常に組織的、計画的に取り組む。	行政からの指導ゼロ、住民からの苦情ゼロを目指す。海外事業所は、日本国内に準じた環境経営のあり方を検討する。	■ 「神戸製鋼グループ環境会議」で環境関連法令の改正状況を周知し、環境監査などで法令遵守状況を確認した。また、事業所の環境リスク低減に向けた支援を行い、環境管理レベル向上を図った。 ■ 海外においては、中国、マレーシア、タイ、インドなどのグループ会社11事業所の現地環境調査を実施した。 ■ 神戸製鋼グループ全体として、行政からの指導ゼロ、住民からの苦情ゼロには至っていない。	△	グループ全体で環境マネジメントシステムを維持整備すると共に、環境監査を実施するなど、事業所における法令遵守のためのしくみを確立していく。 海外においても、現地環境調査を継続し、海外グループ会社の環境管理レベルの向上を図る。	35	

自己評価 ○：計画通りに進捗 △：課題あり ×：計画未達

原料調達



鉄鉱石や石炭の輸送船の効率的な運航など、原料調達の段階から環境負荷低減の活動は始まっています。



密閉式連続アンローダー 石炭輸送船

▲神戸製鉄所で活躍する日本最大級の密閉式連続アンローダー

製造



製鉄所では、製造の各工程で、設備・機器の効率化や排熱利用などによる省エネルギー、資源リサイクル、環境負荷物質の低減を図っています。



▶新規稼動した厚板新熱処理炉

◀製鋼スラグ

工場のオフィスや管理部門でも、空調設備や照明の高効率化による省エネルギーなど、全員参加の活動で環境負荷低減に取り組んでいます。

管理



▲加古川製鉄所のエコ通勤バス

▼製鉄所での「陸電供給」



※「陸電供給」とは荷揚時などの船舶停泊時に、陸側から電力供給することでエンジンを停止すること。省エネ/CO₂削減に効果を発揮。

▼最新鋭の国内輸送船 神愛丸



製品の輸送手段をトラックから船舶・鉄道などに切り替えるモーダルシフトを最大限に活用し、物流チェーン全体での環境負荷低減を目指しています。

製品物流



取り組み事例

原料調達



船舶による原料輸送の最適化

鉄の原料である鉄鉱石と石炭は、海外で採掘され、船舶によって製鉄所に運ばれます。この輸送船の効率的な運用を通じた環境負荷の低減に取り組んでいます。

製鉄所での生産計画に基づく需要、積地での作業進捗や航路の気象条件など、さまざまな要因に基づいて滞船(待ち時間)の低減や燃費改善を推進しています。原料輸送の最適化を目指しています。

製造



省エネルギー・資源循環の推進

製鉄所では、各工程での省エネルギーや節電に取り組む一方、資源の有効活用やリサイクルを最大限に推進しています。

副生ガスの回収利用やエネルギー使用のベストミックス、鉄鋼製品を製造した後の鉄鉱石の脈石成分であるスラグの利用拡大など、たゆみない取り組みを続けています。

管理



CO₂排出量を削減する加古川製鉄所のエコ通勤

加古川製鉄所では、通勤手段をマイカーから公共交通機関などに切り替えることでCO₂排出量を削減する、エコ通勤を実施しています。

実施前には1日およそ8,000台を数えたマイカー通勤は約半分に減少し、通勤に伴うCO₂の排出量も、2009年6月からの3年間で累計約7,500トンの削減を達成しています。

※詳しくは21ページをご覧ください。

製品物流



多様な手段による製品輸送効率の改善

製鉄所からの製品の輸送には、モーダルシフトを可能な限り実施している他、近接した送り先向けを積み合せ、輸送効率の改善を図っています。

また、製鉄所や全国各地のコイルセンターで、船舶停泊時の電源供給を実施しています。

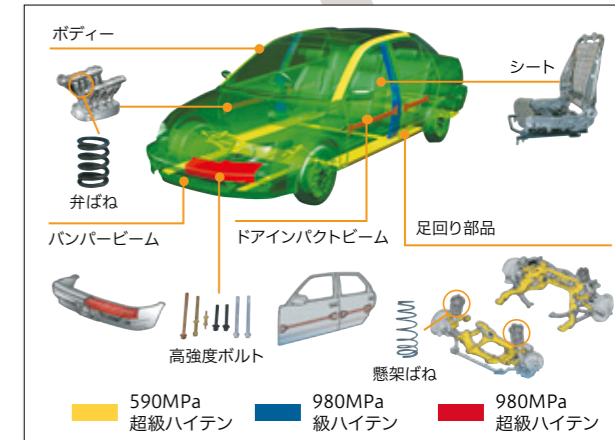
お客様



CO₂排出量削減につながる、自動車の軽量化への貢献

強度と加工性を兼ね備えた素材の提供による自動車の軽量化が、燃費を向上させ、CO₂排出量の削減につながっています。

例えば線材・棒鋼の特殊鋼分野では、世界最高強度の弁ばね用鋼やボルト用鋼の開発、量産化により、自動車の足回りの軽量化やエンジンの高性能化に貢献。薄板分野でも、自動車用高張力鋼板(ハイテン)の量産体制を確立し、車体の軽量化に貢献しています。



▲鉄鋼製品の自動車部品への適用例

KOBELCOのバリューチェーン
~“環境負荷の低減”という価値をつなげる~

神戸製鋼グループは、原料の調達からお客様の使用段階にいたる全ての過程で、環境負荷を低減する活動を続けています。神戸製鋼グループのバリューチェーンは、質の高い製品に、“環境負荷の低減”という価値を加えて、お客様へお届けするプロセスです。鉄鋼事業部門をモデルにご紹介します。

使用段階での環境負荷低減につながる、高強度、高機能な製品を供給します。

今回は鉄鋼事業部門の紹介でしたが、鉄鋼事業部門以外においても、地熱や蒸気など未利用のエネルギーを活用する製品を開発し、お客様の環境負荷低減に貢献します。

お客様



マテリアルバランス

神戸製鋼グループは、事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営を展開しています。その一環として、エネルギー効率の向上と、副生ガスや排熱、水、資源などの有効利用と、副産物の再資源化に継続的に取り組んでいます。

神戸製鋼における資源・エネルギーの利用状況

鉄鋼事業部門

神戸製鋼のエネルギー使用総量の95%を占める鉄鋼事業部門は、2012年度に1,075万トンの鉄鉱石と585万トンの原料炭・コークス、9PJ^{※1}の石炭、石油、都市ガスなどの燃料および98万MWhの購入電力を使用しました。生産工程で発生するコークス炉ガス、高炉ガス、転炉ガスなどの副生ガスを鋼材加熱用の燃料や自家発電所の燃料などとして、ほぼ全量を有効に活用しています。さらに、廃熱を利用した発電を積極的に実施しており、副生ガスによる発電と合わせて、生産工程で使用する電力の50%以上

をエネルギー回収による発電でまかなっています。また、生産工程から発生する鉄鋼スラグ^{※2}、ダスト、スラッジなどの副産物については、社内で原料として再利用する他、セメント用資材や路盤材にするなど有効活用を図っており、副産物の96%を再資源化しています。今後も、資源やエネルギーの効率的な利用およびその技術開発を進めるなど、あらゆる面で環境に配慮したものづくりを進めていきます。

※1 1PJ=10¹⁵J
 ※2 鉄鋼スラグ: 鉄鋼精錬の際に溶融した鉄鉄などから分離・回収する副産物

溶接事業部門

溶接事業部門は、金属製の線材やフープと、溶剤、水ガラスなどを原料として、溶接に使用する溶接棒や溶接ワイヤを生産しています。2012年度は、藤沢、茨木、西条、福知山の各工場合計で、18万トンの原料と、エネルギーとして6.6万MWhの電力や0.2PJの都市ガスなどの燃料を使用して、17万トンの製品を生産しました。結果として1.6万トンの副産物が発生しましたが、そのうち97%をリサイクル化しました。

溶接事業部門における資源・エネルギーの利用状況(2012年度)

INPUT		OUTPUT	
原料		製品	
線材、フープ、溶剤、水ガラスなど	18万t	溶接棒、溶接ワイヤなど	17万t
エネルギー		廃棄物	
購入電力	6.6万MWh	発生量	1.6万t
都市ガスなど	0.2PJ	リサイクル率 [※]	97%

※リサイクル率: 発生量のうち、最終埋立処分以外の処理を行った量の比率

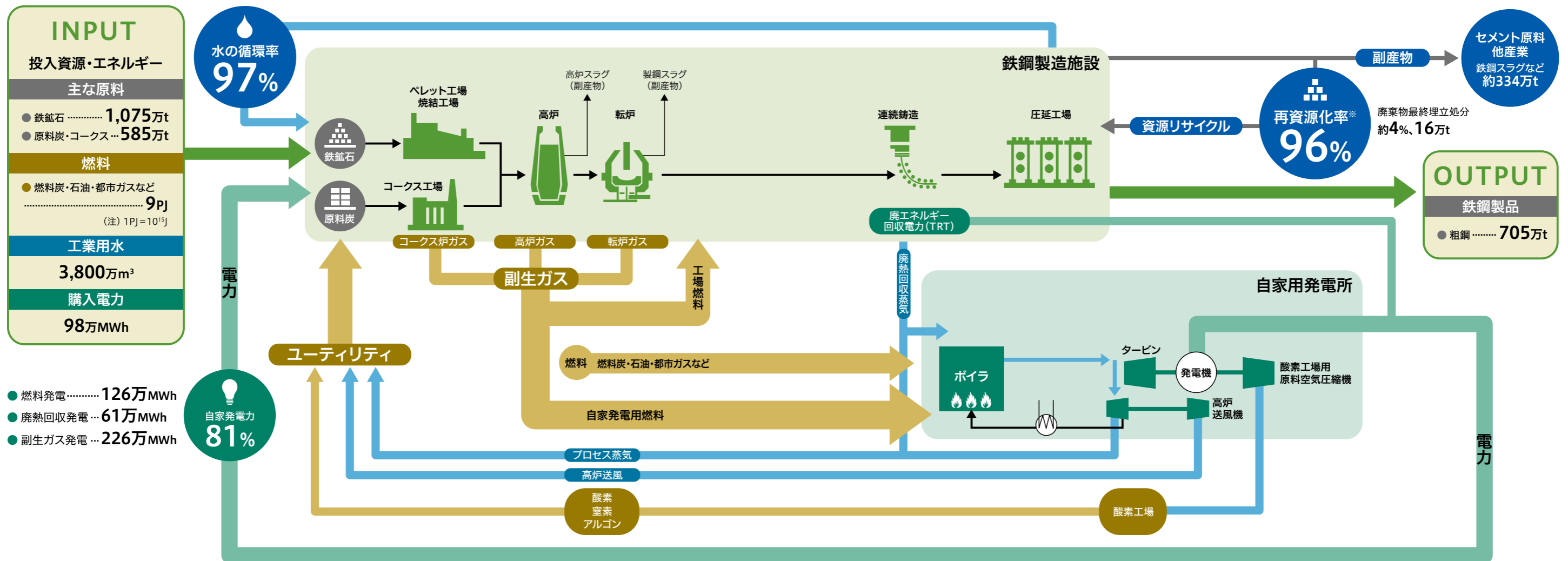
アルミ・銅事業部門

アルミ・銅事業部門は、アルミ、銅の地金やスクラップなどを原料として、各種アルミ製品および銅製品を生産しています。2012年度は、35万トンの原料と、エネルギーとして43万MWhの電力や3.3PJの都市ガスなどの燃料を使用して、32万トンの製品を生産しました。溶解・鋳造に伴う鉱さいや集じんダスト、排水スラッジなど、2.6万トンの廃棄物が発生しましたが、97%をリサイクル化しています。

アルミ・銅事業部門における資源・エネルギーの利用状況(2012年度)

INPUT		OUTPUT	
原料		製品	
アルミ地金、銅地金など	35万t	アルミ製品、銅製品	32万t
エネルギー		廃棄物	
購入電力	43万MWh	発生量	2.6万t
都市ガスなど	3.3PJ	リサイクル率 [※]	97%

鉄鋼事業部門における資源・エネルギーの利用状況(2012年度)



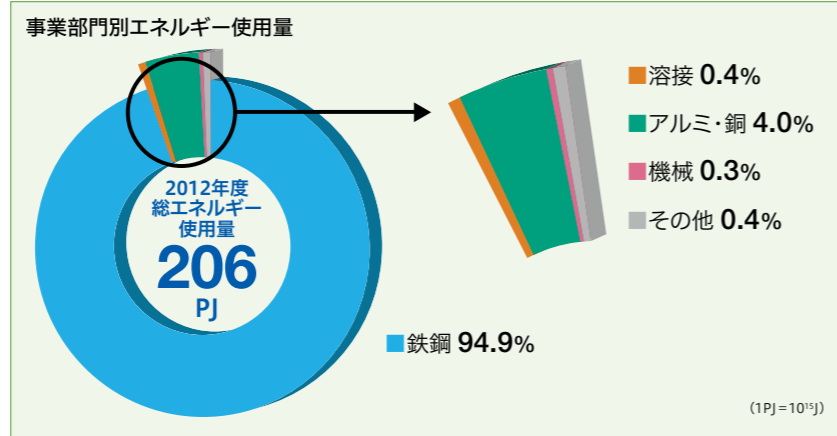
※再資源化率: 発生量のうち、再資源化を行った量の比率

地球温暖化対策

神戸製鋼グループは、地球温暖化問題に対応して、事業活動のあらゆる面で省エネルギーなどの合理化や研究開発を推進し、温室効果ガスの排出削減に取り組んでいます。

生産工程における省エネルギー

神戸製鋼グループは、2012年度、グループ全体で206PJのエネルギーを使用しました。(原油換算522万kl)
 そのうち、約95%が鉄鋼関連事業、約4%がアルミ・銅関連事業で使用されています。
 生産性改善・燃料管理改善や、高効率設備導入、排熱回収などによる省エネルギーに継続して取り組んでいきます。



鉄鋼事業部門

鉄鋼事業部門では、2012年度、生産量が減少した影響もあり、エネルギー使用量は前年比で2.4%、CO₂排出量は2.3%低減しました。粗鋼1トンあたりのエネルギー原単位は基準年度(1990年)比で14.4%、CO₂排出原単位は14.6%改善しました。

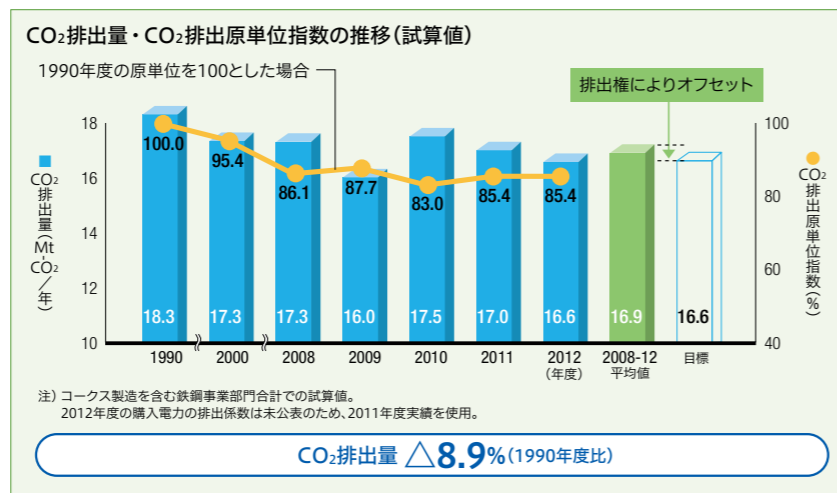
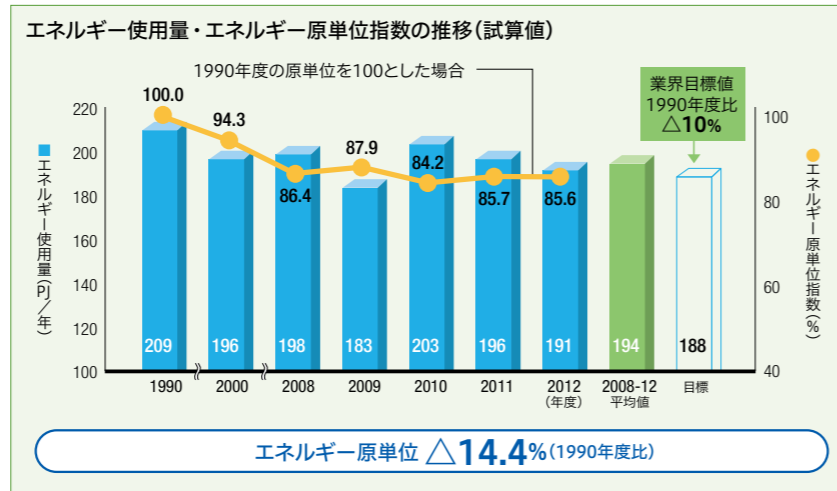
加古川製鉄所では、自家発電所のさらなる高効率化を目指し、高効率ガスタービン2号機の建設を行っています。(高効率ガスタービン1号機は2011年に稼動)



▲加古川製鉄所に建設中の自家発電所 (旧設備を撤去し、基礎工事中)

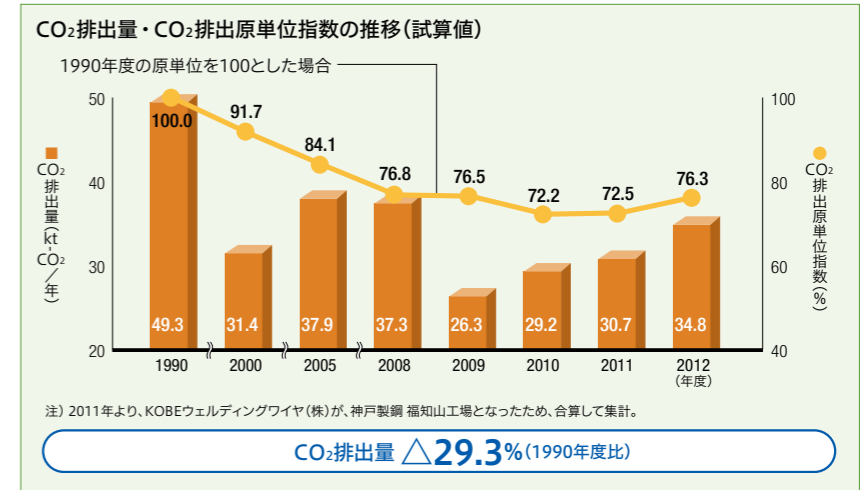
また、各事業所において、ポンプ、ファンなどの高効率化や加熱炉などの作業改善、ロス低減といったきめ細かな対策を実施しています。

今後も継続して省エネルギー対策を実施し、環境負荷の低減を図ります。



溶接事業部門

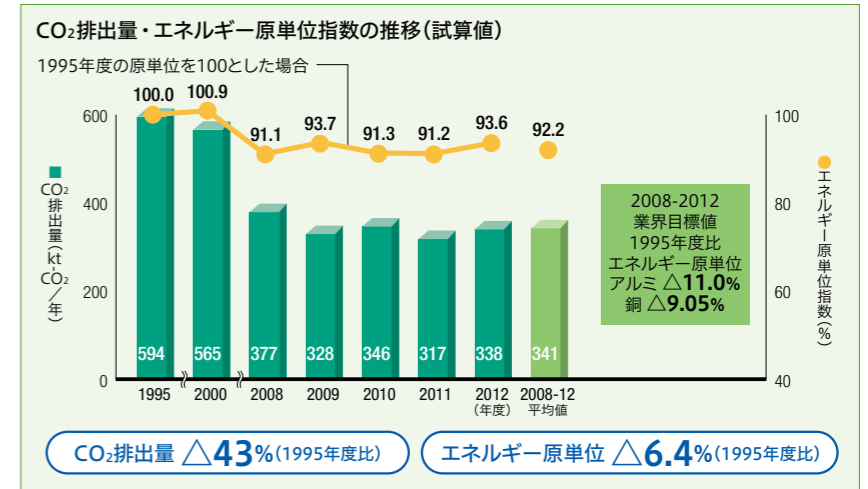
溶接事業部門では、生産性改善、設備の高効率化やエネルギーロス低減の取り組みなどの効果で、CO₂排出量の低減を図っています。2012年度は茨木工場での燃料転換、照明の高効率化などを実施し、CO₂排出量は1990年比で29.3%低減、製品1トン当たりの排出原単位も23.7%改善しています。



アルミ・銅事業部門

アルミ・銅事業部門では、石油系燃料から天然ガスへの燃料転換を順次実施し、合わせて設備集約、効率化を図っています。2012年度は、溶解炉燃料転換(真岡製造所)、各種ファンのインバータ化などを実施し、CO₂排出量は基準年度(1995年度)比で43%、原単位も6.4%低減しています。

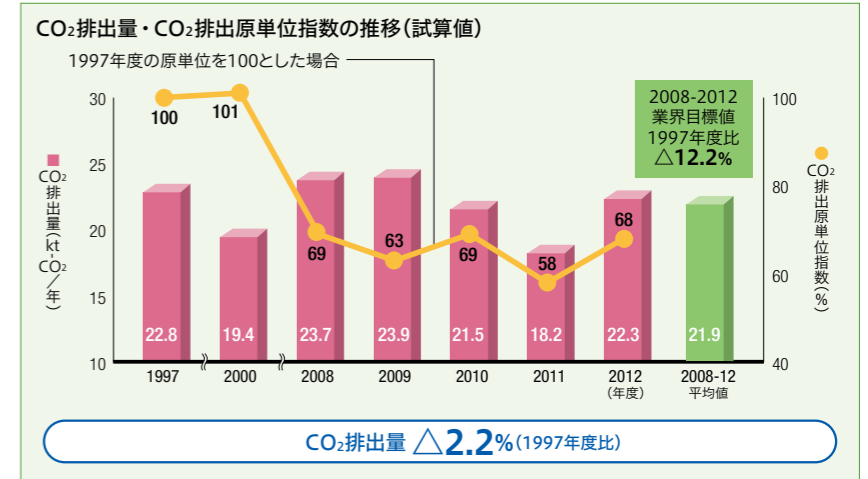
なお、日本アルミニウム協会は、2008-2012年度の業界目標値を達成する見込みです。



機械事業部門

機械事業部門では、省エネルギー型圧縮機やヒートポンプ、石油精製向け圧力容器などの需要が拡大する中、設備の高効率化、生産性改善によるエネルギー効率の改善を図っています。2012年度は、CO₂排出量は基準年度(1997年度)比で2.2%改善、CO₂排出原単位も32%改善しました。

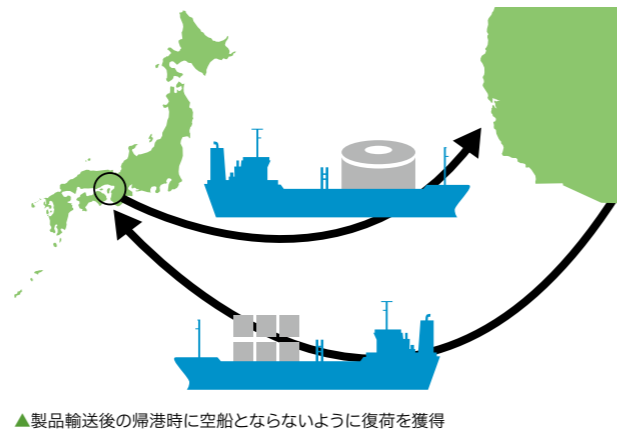
また、日本産業機械工業会は、2008-2012年度の業界目標値を達成する見込みです。



物流分野における省エネルギー

神戸製鋼グループでは、原料から製品納入に至るまで、最適で迅速な物流による省エネルギーを目指し、トラックから鉄道、船舶を利用した輸送へのモーダルシフト拡大、輸送時の積載効率改善、車両大型化による輸送効率改善や、復荷獲得による空船回航の削減などに取り組んでいます。

また、最新の技術を採用した鋼材輸送船の導入、輸送車両の軽量化など、燃費改善にも取り組んでいます。



グループ会社の取り組み

神戸製鋼グループ各社においても、生産工程、物流における省エネルギーに取り組んでいます。記載事項の他に、不要時の消灯、空調設備温度管理なども実施しています。

取り組み事例

会社名	事業所所在地	取り組み事例
神鋼鋼線工業(株)	兵庫県尼崎市	設備のインバータ化、高効率トランスの導入、高効率照明への交換
神鋼ファブテック(株)	山口県下関市	溶解炉リジネバナー改善、炉壁耐火物改修
青島神鋼溶接材料有限公司	中国山東省青島市	高効率空調機、高効率照明の導入

その他の取り組みは、ホームページをご確認ください。

Homepage http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2013/

TOPICS

地球温暖化防止活動環境大臣賞 対策活動実践部門受賞 加古川製鉄所

3年で約7,500トンのCO₂排出量を削減したエコ通勤活動

受賞の対象となったエコ通勤は、加古川製鉄所で2008年より実施しています。従業員約1万人を対象に、マイカーから公共交通機関などへ通勤手段を切り替えることで、マイカー通勤によるCO₂発生を抑制する取り組みです。



▲長浜環境大臣(当時)から表彰を受ける岩崎有恒副所長(右)

実施にあたっては、マイカーの代替手段として通勤バスの本数を増やし、運行ダイヤの変更やルート追加を順次行うと同時に、構内に自転車・徒歩通勤者専用レーンを設けて安全性の向上を図りました。また、取り組み当初からハイブリッドバスを導入し、環境負荷をさらに軽減しています。

こうした活動によって、エコ通勤の実施前には1日およそ8,000台を数えたマイカー通勤は、2012年6月現在、約

半分の4,100台にまで減少しています。

今回の受賞の対象となったCO₂の排出量は、2009年6月から2012年3月まで、累計約7,500トンの削減を実現しました。加古川製鉄所では、従業員と関係会社の協力により、エコ通勤をさらに継続していきます。



▲エコ通勤実施後の通勤風景

資源循環の促進

神戸製鋼グループは、限りある資源を有効に活用するために、各事業所において廃棄物の発生を抑制するよう取り組んでいます。

さらに、製造工程から得られる副産物などの付加価値を高め、再利用や再資源化を進めています。

廃棄物発生抑制とリサイクルの推進

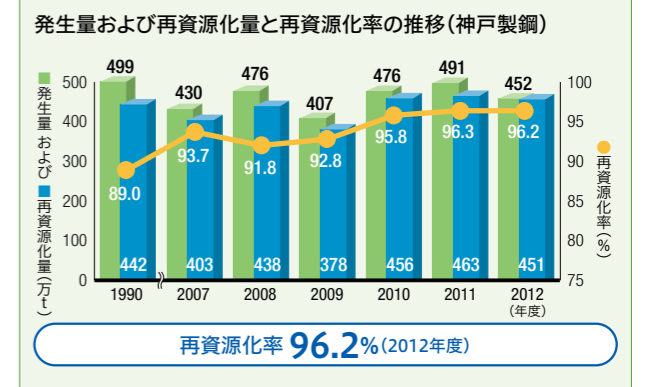
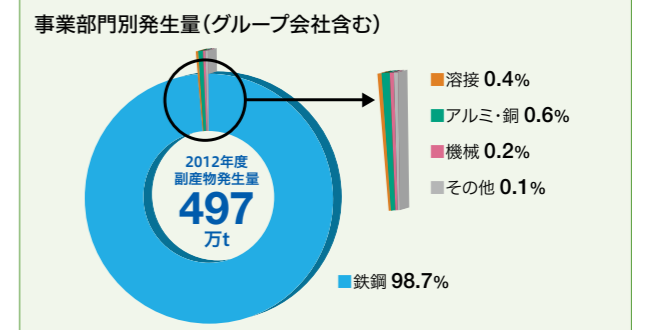
神戸製鋼グループでは、2012年度に総計497万トンの副産物(発生物)が発生し、そのうち98.7%が鉄鋼関連事業によるものでした。製鉄所では、製鉄工程から副次的に得られる鉄鋼スラグ^{※1}やダストの再資源化・高付加価値化を進めてきました。2012年度は、神戸製鋼の全事業所で96.2%、神戸製鋼グループ全体では95.8%を再資源化しています。

2012年度は、従来から取り組んできた鉄鋼スラグ、ダストの有効利用の促進などにより、最終埋立処分量のさらなる削減を図っています。

また、原料・副原料の使用量の適正化などにより、発生量そのものを削減する根本的な対策を積極的に進めています。

神戸製鋼グループ全体では、約19万トン^{※2}を最終埋立処分しました。今後も引き続き、廃棄物発生量の抑制対策、再資源化や新規リサイクル技術の開発、高付加価値化を通じて、最終埋立処分量の削減を進め、2015年度の各業界での自主行動計画目標(最終埋立処分量あるいは再資源化に関する数値目標)の達成を目指します。

※1 鉄鋼スラグ: 鉄鋼精錬の際に溶融した鉄鉄などから分離・回収する副産物
 ※2 耐火物、掘削土砂の処分量が増えた影響などを受け、2011年度比約1割増となる。



リサイクル活動の取り組み

各事業部門・各事業所では、廃棄物の最終埋立処分量の削減を目的としたアクションプログラムを策定し、発生量削減・再利用やリサイクル技術開発・新規用途開発などを通じた高付加価値化に取り組んでいます。

鉄鋼事業部門

発生物のリサイクル

神戸製鉄所、加古川製鉄所、高砂製作所では、スラグおよびダスト類のリサイクル技術の開発、新規リサイクル用途の開発を進めた結果、2012年度の最終埋立処分量は、約16万トンとなりました。

新日本製鐵(株)(当時)と共同で設置した「製鉄ダストリサイクルプラント(現:新日鐵住金(株)広畑製鐵所構内:2011年10月運転開始)」を活用し、神戸製鉄所と加古川製鉄所で発生した製鉄ダストのうち約8万トンの再資源化(鉄源化)を図りました。今後も、このプラントを活用し、リサイクル率の向上(最終埋立処分量の削減)に努めてい

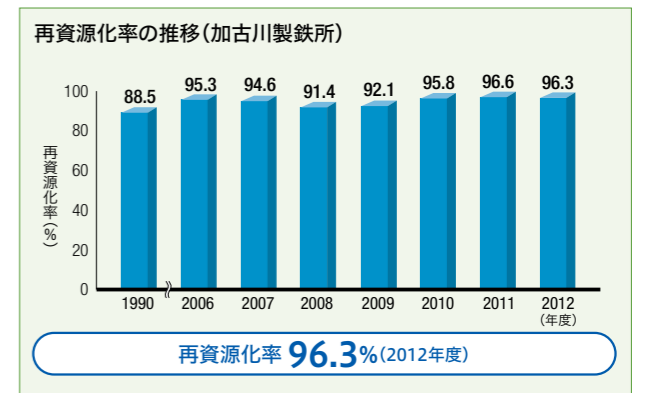
きます。

2012年度、加古川製鉄所と神戸製鉄所から高炉スラグ[※]が216万トン、製鋼スラグ[※]が118万トン、副次的に生成されました。



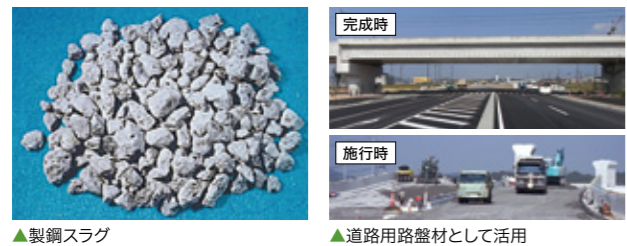
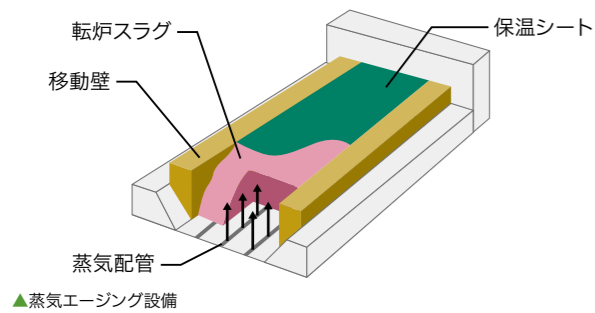
▲製鉄ダストのリサイクルプラント

※高炉スラグ、製鋼スラグ:鉄鋼スラグに分類される副産物で、それぞれ高炉、製鋼工程から副生するもの。17ページ参照。



これらのスラグは、セメント用資材、道路用路盤材などに再資源化しています。特に、高炉スラグ微粉末を用いた高炉セメントは、普通のセメントに比べアルカリ骨材反応の抑制効果が高く、またセメント製造時の省エネルギーを図ることができ、CO₂排出量削減効果もあるため、市場から高い評価を得ています。さらに、高炉水砕スラグによるコンクリート用細骨材は、天然砂の代替として自然保護に役立っています。

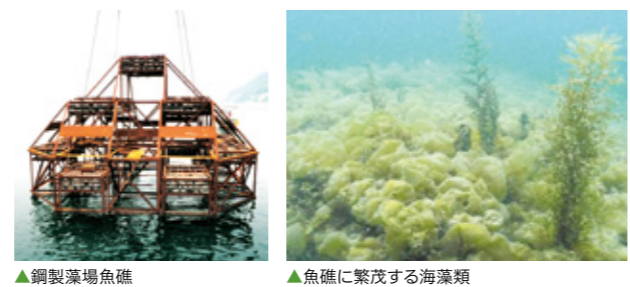
一方、製鋼スラグは、含有する遊離石灰による膨張性があるため、蒸気による膨張促進エージング処理により膨張を安定化させた後、路盤材として活用します。蒸気エージング設備により、生成する製鋼スラグのほぼ全量を有効活用することが可能です。



鉄鋼スラグを使った魚礁の開発

神戸製鋼では、鉄鋼製造の副産物である鉄鋼スラグを環境保全修復材料として活用するため、神鋼スラグ製品（株）、神鋼建材工業（株）、（株）コベルコ科研と共同で、「鋼製藻場魚礁」を家島諸島（兵庫県姫路市沖）、神戸空港島北側護岸や、沖縄県与那原町沖に設置し、産官学の協力／連携のもと、海藻の育成や漁場環境の改善を目的とした調査研究を行っています。

現在のところ、鋼製藻場魚礁の周辺では、さまざまな海藻の繁茂や、複数種の魚の回遊が確認されるようになりました。これらは鉄鋼スラグに含まれる鉄分やミネラルなどの栄養分の効果によるものと考えています。

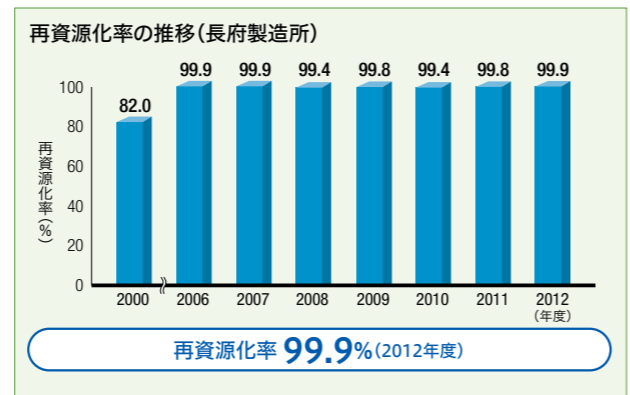
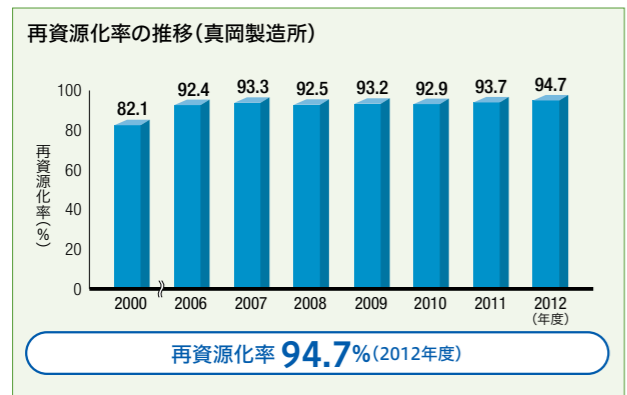


アルミ・銅事業部門

アルミ・銅事業部門では、アルミ溶解炉から発生する溶解滓の有効利用をはじめ各事業所における優れた廃棄物抑制の取り組みを抽出し、横展開を図ることで事業部門全体の資源循環率を高める活動を進めています。また、排水処理施設から発生する汚泥を乾燥させることや、製造

工程から発生する廃液を濃縮させることなどにより、廃棄物の発生量を積極的に抑制しています。

その結果、2012年度の資源循環率は真岡製造所では94.7%を達成、長府製造所も99.9%を維持しています。



溶接事業部門

溶接事業部門では、事業所ごとに検討対象とする廃棄物およびその目標を設定して、各種の対策を推進しています。そのノウハウについては、定期的を開催する会議を通じて情報共有を進めています。

最終埋立処分量削減を目的に、溶接材料製造時に発生する廃フラックス・廃潤滑剤の回収方法改善（廃棄物発生量削減）・再利用を進め、生産原単位の向上を図っています。

機械事業部門

機械事業部門では、従来まで実施してきた各種の対策を確実に定着させることにより、高いレベルでの再資源化率を維持しています。非汎用圧縮機などの産業機械を生産する高砂機械センターでは、廃棄物発生量削減（発生源

対策）、リサイクル対策の導入などを進めています。また、汎用圧縮機を生産する播磨工場では、製品梱包材の通箱化などのリサイクルの定着により、最終埋立処分量ゼロを維持しています。

化学物質の適正管理

神戸製鋼グループは、国内外の基準に合わせた化学物質の適正管理の徹底、有害化学物質使用量の削減、安全性の高い物質への切り替えなどに取り組んでいます。

化学物質管理の徹底

「神戸製鋼グループ 有害化学物質管理方針」を定め、化学物質管理の徹底を図っています。

神戸製鋼グループでは「指定化学物質に係る管理シート」により、化学物質ごとに使用方法、管理方法を明確にして、PRTR法^{※1}に関する移動・排出量の集計に活用すると共に、ジクロロメタンや鉛などの使用量の削減、排出量の抑制に向けた活動に取り組んでいます。

2012年度のPRTR法に基づく届出値の集計では、神戸製鋼グループで、取り扱い物質は52種類、排出量^{※2}合計は約764トン、移動量^{※3}合計は約550トンでした。

神戸製鋼グループの届出予定物質と量の一覧は、ホームページに掲載しています。

Homepage http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2013/

化学物質規制については、規制強化の動きが日本国内はもとより世界的に進められています。

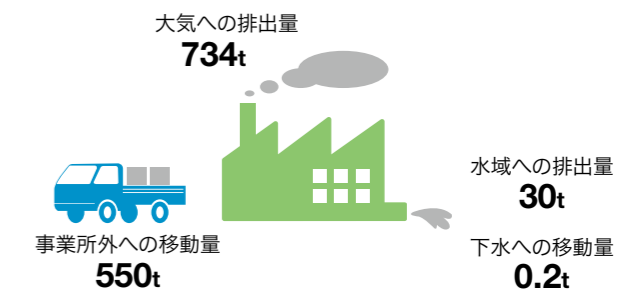
日本では、化審法^{※4}、PRTR法が改正され、2009年度から順次施行されています。

欧州では、化学物質の「登録・評価・認可・制限」に関する新たな規制であるREACH規則^{※5}が施行され、規制化学物質は年々増加しています。

神戸製鋼グループでは、関連法令に適切に対応するため、関連部署と情報共有や意見交換などを行っています。

- ※1 PRTR法 (Pollutant Release and Transfer Register) 「特定化学物質の環境への排出量等および管理の改善の促進に関する法律」
- ※2 排出量は、大気・水域への排出量の合計
- ※3 移動量は、事業所外・下水への移動量の合計
- ※4 化審法：化学物質の審査および製造などの規制に関する法律
- ※5 REACH規則：化学品の登録・評価・認可および制限に関する規則 (Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals)

神戸製鋼グループでの合計排出量／移動量 (PRTR法での届出値)



化学物質排出削減活動の一例

会社名	事業所所在地	取り組み事例
神鋼建材工業（株）	兵庫県尼崎市	設備容量を見直し、開口部から大気への揮発性有機化合物の排出量を削減
日本高周波鋼業（株）	富山県射水市	塩素系有機化合物の使用を削減する活動を推進中

環境負荷の低減

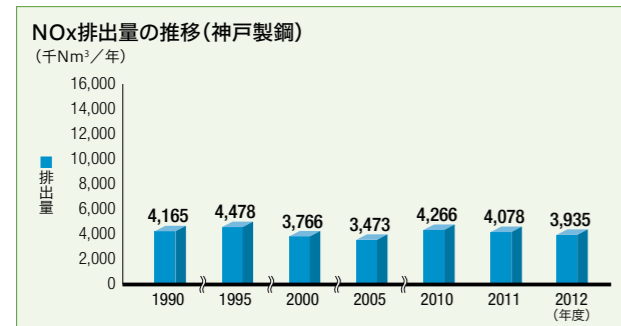
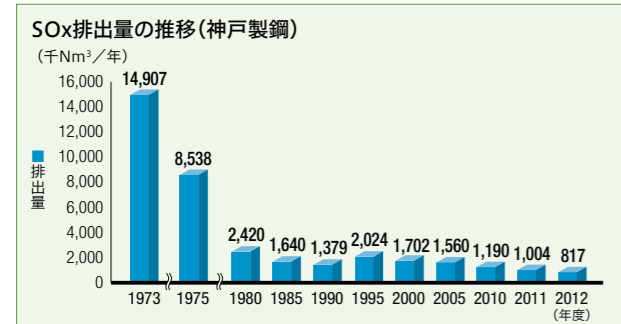
神戸製鋼グループは「環境に配慮した生産活動」を環境経営基本方針の一つとして位置付け、継続的な生産工程の改善、設備更新や効率の良い最新設備の導入、環境負荷物質の除害設備の導入などあらゆる面で環境に配慮したものづくりを徹底し、大気、水域などへの環境負荷の低減に努めてきました。引き続き、グループ会社も含めて、さらなる低減に取り組んでいきます。

大気汚染対策

ばい煙の排出状況

生産工程などで発生するSOx(硫黄酸化物)については、省エネルギー化による燃料の削減や都市ガスへの燃料転換などにより発生を抑制すると共に、脱硫などの排ガス対策を行っています。

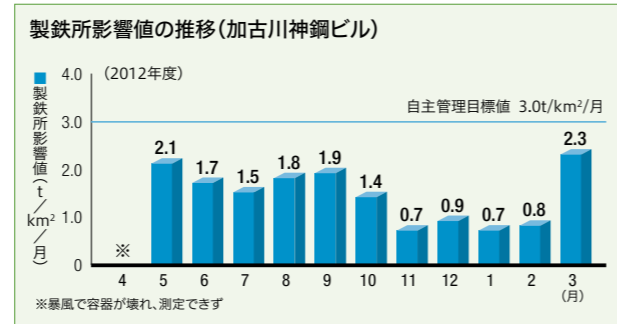
一方、NOx(窒素酸化物)については、低NOx燃焼技術の導入や省エネルギー対策により排出量の低減を推進しています。



加古川製鉄所における粉じん対策

加古川製鉄所では、近隣3カ所の降下ばいじんに係る製鉄所影響値を3トン/km²/月以下とする自主管理目標値を定めています。2012年度は、ベルトコンベアからの発じん防止対策※などを講じ、年間を通して、自主管理目標値を達成しました。

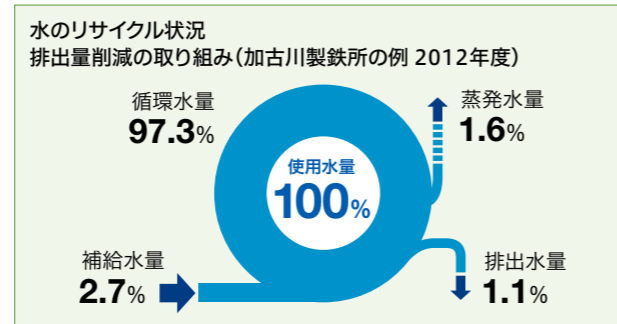
※鉱石を運搬するベルトコンベアでは、ベルト表面に細かな鉱石が付着します。この付着した鉱石がベルトコンベアから剥離する際、発じんの原因となります。そこで、鉱石の付着が多いベルトコンベアに、機械式クリーナーを増設し、水洗装置を設置しました。



水質汚濁対策

神戸製鋼グループは、生産工程の改善や再生水の利用によって水使用量を削減しています。また、生産工程からの排水はその特性に適した処理システムで浄化し、公共水域への水質汚濁物質の負荷量を低減しています。

製鉄所では、各生産プロセスからの排水を、凝集沈殿、砂る過などにより浄化した後、再び所内で使用する“水のリサイクルシステム”を整えており、加古川製鉄所、神戸製鉄所における水のリサイクル率は97.3%に達しています。



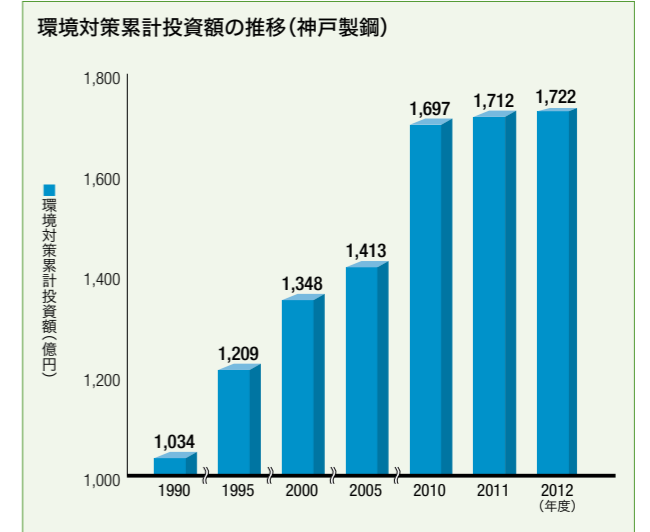
環境会計

神戸製鋼グループでは、環境保全活動に継続的に取り組んでいます。環境保全活動に関わる費用と効果を把握し、ステークホルダーの皆様にご理解を深めていただくため、情報を開示しています。

環境関連投資

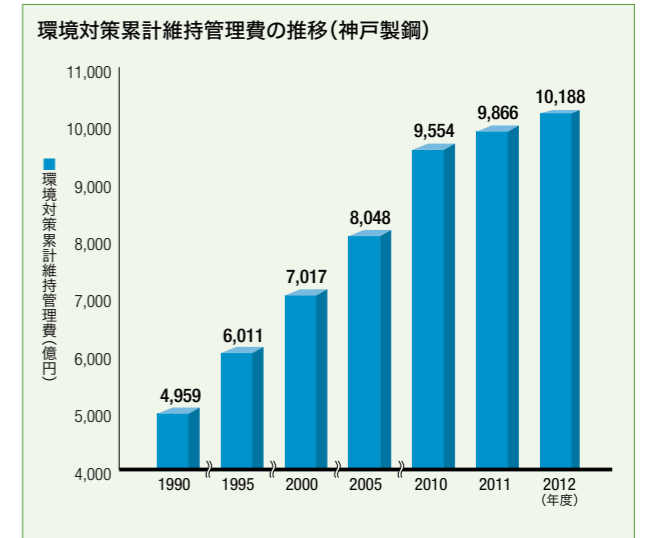
環境負荷低減のために環境対策設備の新設や維持管理に継続して投資を行い、さまざまな面から環境対策を進めています。2012年度の設備投資は約30.6億円、経費は約378.8億円でした。経費の内訳は大気汚染防止に約33%、水質汚濁防止に約13%、資源循環に約33%となりました。

また、製品・技術・サービスでの環境への貢献として、水素ステーション技術の開発やバイナリー発電システムなどの開発を行いました。このような製品開発・技術開発に全経費の約15%にあたる約56.9億円を投じました。



設備投資および経費の内訳(神戸製鋼) (億円)

事業エリア内	項目	設備投資額	経費	
	公害防止	大気汚染防止	9.2	124.0
		水質汚濁防止	0.8	49.2
資源循環	廃棄物リサイクル・処理費	8.0	124.8	
地球環境保全	省エネルギー投資	12.6	—	
管理活動	EMS登録・更新など	—	0.1	
	環境負荷の監視測定	—	2.8	
	環境対策組織の人的費	—	17.4	
研究・開発	エコプロダクツ・製造プロセスの環境負荷低減開発	—	56.9	
社会活動	環境団体支援、広告など	—	0.3	
その他	汚染負荷量賦課金	—	3.3	
合計		30.6	378.8	



※上記の2つのグラフは、1970年度からの累計です。

環境保全効果

神戸製鋼は、2012年度、環境保全活動を進めるため、以下のような取り組みを実施しました。

- 加古川製鉄所
 - ベルトコンベアの発じん対策(大気汚染防止)
- 茨木工場
 - 排水用緊急退避槽の更新(水質汚濁防止)
- 福知山工場
 - めっき液漏洩警報の更新(水質汚濁防止)

効果の詳細については、19~21ページ「地球温暖化対策」、22~24ページ「資源循環の促進」、27~31ページ「製品・技術・サービスでの環境への貢献」も合わせてご覧ください。

今後も、設備更新をはじめ、環境保全に関わる活動を継続的に実施していきます。

製品・技術・サービスでの環境への貢献

神戸製鋼グループは、鉄鋼、アルミなどの素材分野や機械、エンジニアリング分野など幅広い分野で、これまでに蓄積した生産技術、エンジニアリング技術やノウハウを活かし、環境に配慮した製品・技術・サービスを提供することで、環境に貢献しています。

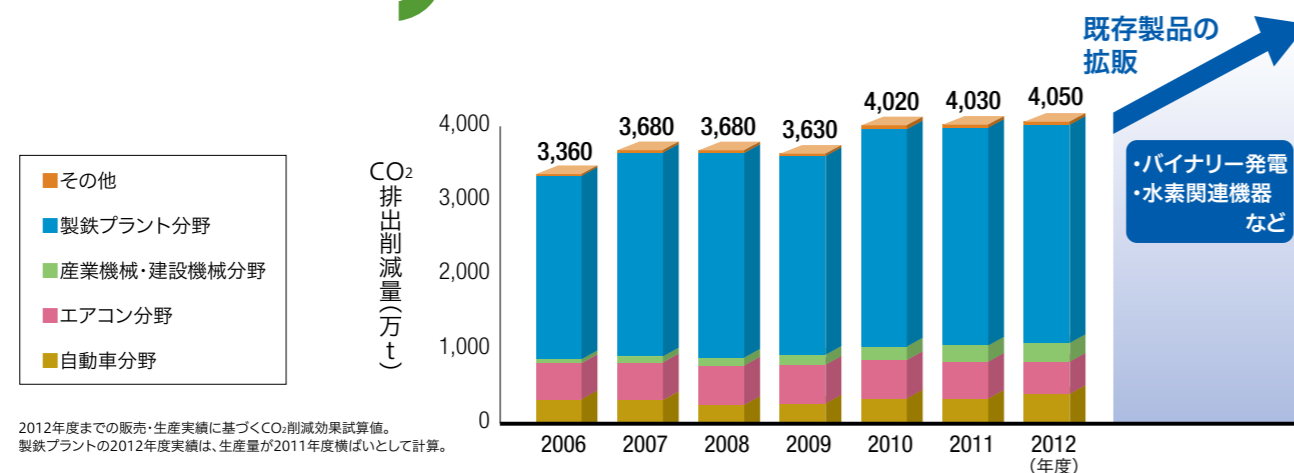
製品を通じたCO₂排出量削減

神戸製鋼グループは、オンリーワンの技術や製品を通じて、社会のさまざまな分野でCO₂排出量削減に貢献しています。



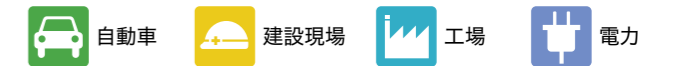
2012年度における神戸製鋼グループ製品によるCO₂排出量削減効果 (海外分含む)

約 **4,050** 万トン



2012年度までの販売・生産実績に基づくCO₂削減効果試算値。製鉄プラントの2012年度実績は、生産量が2011年度実績と同等として計算。

お客様との接点が変わる、製品の使用分野を示しています。



自動車軽量化への貢献

いま、地球環境の保全に向け、世界各国で自動車の排ガス規制が進んでいます。これに伴い、自動車メーカーでは、燃費の向上やCO₂排出削減を図るため、車体の軽量化ニーズが増大してきました。神戸製鋼は、総合素材メーカーとして長年培ってきた先端技術をもとに、軽量化などに貢献する差別化商品を次々と創出し、自動車分野での世界的なプレゼンスを拡大しています。

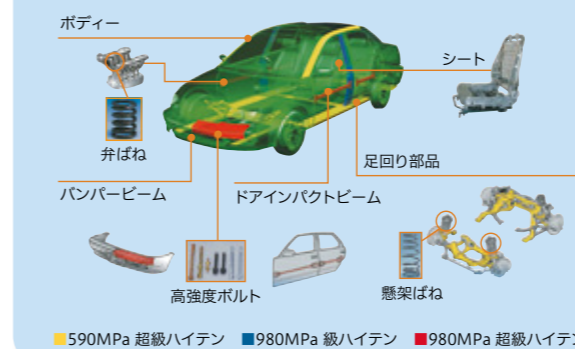
鉄鋼製品による貢献

神戸製鋼では、自動車・家電業界の高付加価値化ニーズに応える高張力鋼板 (ハイテン)、表面処理鋼板、プレコート鋼板や、六価クロム/三価クロムを含まない環境に優しい表面処理鋼板「グリーンコート」などを生産しています。特に強度と加工性を兼ね備えた高張力鋼板の研究・開発に、早い時期から取り組んでいます。ポルト用鋼、弁ばね用鋼などの「オンリーワン製品」を提供することで、より軽量、安全で環境に優しいクルマづくりに貢献し、自動車メーカーから高い評価をいただいています。

進化する高張力鋼板 (ハイテン)

神戸製鋼が得意とする線材・棒鋼の特殊鋼分野で培った成分設計、熱処理による組織制御などのノウハウを活かし、進化を続ける素材が高張力鋼板 (ハイテン) です。高い強度と共に高レベルの成形性を実現し、自動車の車体、バンパー、ドアインパクトビームなどの機能部品、複雑な加工を要求されるシート部品などに幅広く利用されています。

鉄鋼製品の自動車部品への適用例



アルミ製品による貢献

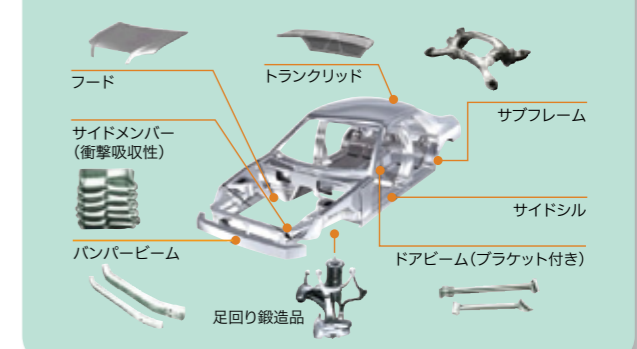
神戸製鋼は、自動車の車両軽量化によるCO₂排出量低減を図るため、各種部品のアルミ化を進めています。特に効果的なフードをはじめ、ドアなどのパネル材、バンパーなどの押出型材、サスペンションなどの足回り用鍛造材といったさまざまな部位へ適用し、燃費に優れたクルマづくりに貢献しています。

神戸製鋼は、航空機部品の製造により培われてきた「高精度・高品質」の鋳鍛造技術を継承しており、多彩な製造方法により、さまざまなアルミニウム鋳造、鍛造品のニーズに対応することができます。

世界三極で自動車サスペンション用アルミ鍛造部品を一貫生産

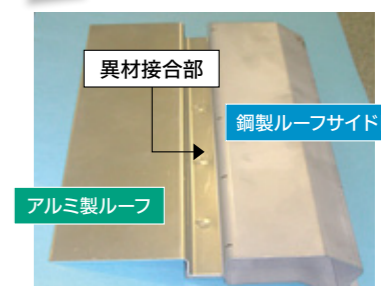
自動車サスペンション用アルミ鍛造部品は、日本では大宮工場、米国ではKobe Aluminum Automotive Products, LLC、中国では神鋼汽車鋁部件 (蘇州) 有限公司と、日米中の三極で溶解鋳造から鍛造までの一貫生産体制を確立しました。

アルミ製品の自動車部品への適用例



自動車軽量化を推進する、アルミニウム合金と鋼の異種金属接合技術

神戸製鋼は、自動車の組み立てに用いられる、生産性の高い溶接プロセスに適用させるため、異種金属接合法の開発を推進しています。溶接を阻害しない物質の活用や溶接条件の工夫などによって、アルミ同士を溶接した場合と同等の接合強度を達成しています。神戸製鋼は、鉄鋼とアルミの技術を組み合わせることで、自動車軽量化をさらに進めていきます。



素材、機械、エンジニアリング分野での環境への貢献

神戸製鋼グループは、産業機械分野での豊富な実績と、顧客ニーズに応える技術力、エンジニアリング力、ノウハウなどを活かして、省エネルギーや再生可能エネルギーをはじめ、環境保全に役立つさまざまな製品や技術を提供しています。環境に貢献するものづくりが、KOBELCOの使命です。

溶接部の疲労強度と耐食性を改善する高張力鋼板(ハイテン)用溶接ワイヤ

神戸製鋼は、溶接のままでも極めて平滑なビード形状が得られる純Ar(アルゴン)-MIG[※]溶接法(MX-MIG)において、ニッケルやクロムといった高価な元素を用いることなく良好な耐疲労特性を実現できる世界初の実用的なフラックス入りワイヤ「MM-1HS」を開発しました。「MM-1HS」は、薄板溶接部の疲労強度を大幅に向上させ、高張力鋼板(ハイテン)&薄板化で問題となる溶接継手の疲労特性を改善します。

また、「MM-1HS」は極めて安定した溶接が可能のため、スパッタ(粒子の飛散)発生量を大幅に低減し、溶接環境改善にも大きく貢献します。

※MIG(Metal Inert Gas)溶接法:不活性ガス中の放電現象を利用し、金属同士をつなぎ合わせる溶接法

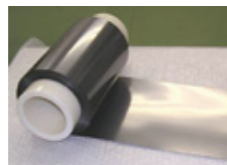


▲安定した溶接が可能

燃料電池を小型・軽量化するチタン製セパレータ素材

神戸製鋼は、カーボン系材料を表面コーティングした燃料電池用チタン製セパレータ素材を開発しました。従来のステンレスやチタンを使用したセパレータは、元来の特性として、ガス遮断性、耐食性、成型性や高強度性を有する反面、腐食の進行を防ぐために自ら形成する酸化保護皮膜(絶縁膜)が導電性を阻害していました。このたび開発したチタン製セパレータ素材は、高耐食のチタン表面に安価なカーボン系材料をコーティングすることで低い接触抵抗を実現し、長期耐久性と高導電性を両立することに成功しています。

軽強度の高いチタン箔を用いたセパレータ素材は、燃料電池自体の小型化や軽量化に貢献します。さらに、燃料電池の水素イオン伝導膜を劣化させるといわれる鉄イオンの溶出がないことから、燃料電池の長寿命化も期待されます。



▲チタン製セパレータ素材外観

長崎県雲仙市小浜温泉でバイナリー発電システムの試験運転がスタート

神戸製鋼の小型バイナリー発電機「マイクロバイナリー MB70H」3台が、環境省委託事業「チャレンジ25地域づくり事業、小浜温泉未利用温排水による温泉発電事業化実証事業」において、2013年4月より試験運転中です。

これは、(一社)小浜温泉エネルギー(長崎県雲仙市)と(株)エディット(福岡市)から受注したものです。

小浜温泉では、高温水の約70%が有効に利用されずに海に排出されています。この未利用温排水による発電実証試験のために、温泉源に全く影響を与えず、小型、高効率、量産用にパッケージングされていることを高く評価いただき、当社の小型バイナリー発電システムが採用されました。



▲小型バイナリー発電機「マイクロバイナリーMB70H」

食品工場向けのハイブリッド脱臭装置を共同開発

神鋼アクテック(株)は2012年11月、中部電力(株)、(株)トーエネック、昭和セラミックス(株)と、食品工場向けハイブリッド脱臭装置「デオマイスター」を共同開発しました。チタニア光触媒脱臭とゼオライトハニカム脱臭を組み合わせた製品で、神鋼アクテック(株)は後者の技術面に関わっています。

チタニア光触媒脱臭は、紫外線照射により空気中の水分を活性酸素にし、その酸化作用で有害物質を分解します。ゼオライトハニカム脱臭は、臭気を一度吸着し、時間と共に徐々に脱離します。「デオマイスター」は、これら二つの技術の特徴を組み合わせて、臭気の脱臭に幅広く対応するものです。



▲ハイブリッド脱臭装置「デオマイスター」

オンサイト型水電解式水素発生装置「HHOG」シリーズに新機種を投入

(株)神鋼環境ソリューションは、オンサイト型水電解式水素発生装置(以下、「HHOG」)のコンパクトタイプに容積減などの改良を図り、低価格とした新機種「H₂ BOX」(すいそぼっくす)の販売を開始しました。「H₂ BOX」は、従来機種と設置面積比で60%、容積比で75%ものダウンサイジングを実現しています。

「HHOG」はオンサイトで水素を発生させることができ、水素をポンペで供給する従来型に比べ、ポンペの貯蔵・交換に必要なスペースや労力が少ないなどの利点があります。このため、研究・教育・開発機関向けなどの分野を中心とした販売展開を行っています。



▲オンサイト型水素発生装置「H₂ BOX」

コベルコ建機(株) 20トン級ハイブリッドショベル

コベルコ建機(株)は、燃料消費量を低減する20トン級ハイブリッド油圧ショベル「SK200H」を開発しました。

開発したハイブリッドシステムは、機体が旋回減速する際に発生するエネルギーを、電気エネルギーとしてキャパシタと呼ばれる蓄電池に蓄電し、蓄電したエネルギーを電動機によって油圧ポンプのアシストに使用します。このシステムにより、標準仕様機と比較して、16%の燃費低減を実現しました。



▲20トン級ハイブリッド油圧ショベル「SK200H」

TOPICS

地球温暖化防止活動環境大臣賞 技術開発・製品化部門受賞 (株)神鋼環境ソリューション

温室効果ガス削減型下水汚泥焼却炉を開発

(株)神鋼環境ソリューションの受賞の対象となった高効率二段燃焼炉は、下水処理設備から発生する下水汚泥を焼却するプラントです。下水汚泥は、70%以上が焼却によって処理されています。しかし、これまでの焼却炉ではN₂O(亜酸化窒素)というCO₂(二酸化炭素)の310倍もの温室効果を示すガスが排出され、その削減対策が求められていました。

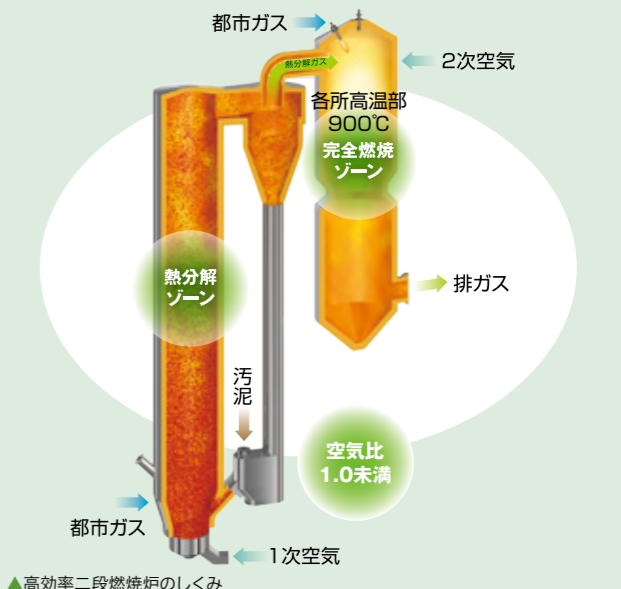
高効率二段燃焼炉は、焼却炉を熱分解ゾーンと完全燃焼ゾーンに分け、熱分解ゾーンにおいて1.0未満という低い空気比による抑制焼却により、元来汚泥が持っている有機可燃物のエネルギーを熱分解ガスの形で取り出し、完全燃焼ゾーンでそれを瞬時に焼却させることで、局所的に900℃の高温部をつくってN₂Oの分解を促進します。

今回の受賞のポイントは、N₂Oの排出量を従来の焼却炉に比べて



▲長浜環境大臣(当時)から表彰を受ける岡本圭祐代表取締役専務執行役員(右)

80%も削減したこと。そして汚泥の熱分解と二段焼却によって、燃料を増やさずにN₂Oの削減に必要な高温を得られたことで、省エネルギーにも貢献できたことです。30年以上、焼却炉の開発に取り組んできた、実績と技術に対する評価と考えています。



▲高効率二段燃焼炉のしくみ

研究開発による環境への貢献

水素社会を実現するコア技術の開発

燃料電池自動車 (FCV=Fuel Cell Vehicle) は、2015年から日・米・欧で一般販売が開始されることになっており、2015年に向けて水素ステーションの建設 (2015年までに100カ所、2025年までに1,000カ所) が予定されています。水素ステーションの整備・FCVの普及を契機に水素社会の到来が期待されています。神戸製鋼グループでは水素社会に貢献するさまざまな技術を保有していますが、ここでは、水素ステーションのコア技術である、高圧水素圧縮機、コンパクト熱交換器の研究開発についてご紹介します。

FCV直接充填方式用高圧水素圧縮機の開発

水素ステーションでは100MPaレベルの高圧水素を3分間でFCVに充填することが求められています。神戸製鋼は、世界的な産業用高圧水素圧縮機メーカーとして、(独) 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) との共同研究により、FCVへの直接充填方式用の大型高圧水素圧縮機を開発を推進しています。以下の課題に取り組み、実用化・コンパクト化・低コスト化を目指しています。

- ① 設計吐出圧力95MPa、流量1,200Nm³/h (国産最大) の圧縮機の試作機を開発・設計・製作。
- ② 圧縮機および電動機・ガスクーラーなどの高圧圧縮機ユニットの大きさが概略5m×2.7m×3m (H) 以下であり、インバーター制御による可変速度運転で省エネルギーに対応。

③ 試作機で運転吐出圧力87.5MPa、流量1,200Nm³/hの運転ができることを確認し、実証ステーションへ納入。実証機では低圧圧縮機ユニット・高圧圧縮機ユニットを組み合わせて6m×2.7m×3m (H) にユニット化した上で、低騒音・低振動を実現し高い評価を得ました。

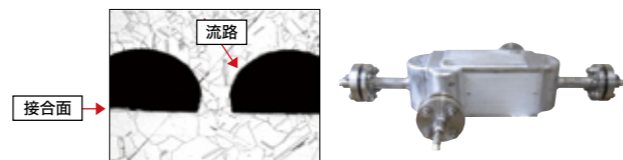
実証試験によって運転データや耐久性のデータを蓄積すると共に、直接充填に必要な2,000Nm³/hクラスへの拡張や充填試験を通じて制御性を確認し、2013年度以降の水素ステーション設置・普及に向けてさらなるコンパクト化、低コスト化を目指した技術開発を進めています。



▲直接充填方式水素ステーション用高圧水素圧縮機

拡散接合コンパクト熱交換器 (DCHE)

FCVに高圧水素を充填すると、車載タンクの中で水素が再圧縮されるため、タンク内で温度が上昇し十分に充填できません。このため、水素ステーションでは100MPaの高圧水素を事前に-40℃まで冷却した上でFCVに充填することが求められています。従来は100MPaレベルのガスを冷却できるコンパクトな熱交換器がなく、それが水素ステーションの小型化の上で大きな課題となっていました。神戸製鋼が開発したDCHE (Diffusion Bonded Compact Heat Exchanger) は、従来の二重管式熱交換器に比べ設置サイズを1/30~1/100にすることが可能です。拡散接合*により母材と同等の強度を持ち、耐圧性 (設計圧力100MPa)、耐熱性 (高温、低温)、伝熱性に優れます。また、単位体積あたりの伝熱面積が大きいことから、コンパクトにでき、プレートの積層、組み合わせにより多流体熱交換器の設計が可能です。



*拡散接合：母材を密着させ、母材の融点以下の温度条件で、塑性変形をできるだけ生じない程度に加圧して、接合面間に生じる原子の拡散を利用して接合する方法。(JIS Z3001 溶接用語より抜粋)



◀(株) タツノ様のディスペンサーに組み込まれたコンパクトな当社DCHEプレクーラー(右)

これら主要機器の開発と共に、関係会社の(株) 神鋼エンジニアリング&メンテナンスがステーション全体の開発・計画に協力し、神戸製鋼グループとして水素ステーションの実現に取り組んでいます。

環境関連情報の開示

神戸製鋼グループは、環境経営に関わる活動をステークホルダーの皆様へ正しくお伝えするために、環境情報を積極的に公開しています。事業所においては、地域の皆様との対話を定期的実施するなど、環境コミュニケーションにも取り組んでいます。

環境・社会報告書の発行

神戸製鋼は、環境報告書の第1号を1999年に発行して以来、毎年環境への取り組みを紹介しています。2006年からは社会性の取り組み内容と共に「環境・社会報告書」として発行しています。今後も神戸製鋼グループの環境経営に関わる活動の成果を広くお伝えできるように努めていきます。ホームページには、より詳しい環境データや取り組み事例、過去の報告書を掲載しています。



Homepage

http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/

展示会への参加

神戸製鋼グループは、展示会への出展などを通じて環境に貢献する製品・技術・サービスを紹介します。

2012年度は、「国際フロンティア産業メッセ2012」、「メッセナゴヤ2012」、「ECO-Manufacture2012」、「第9回 国際水素・燃料電池展 (FC EXPO 2013)」などに参加しました。

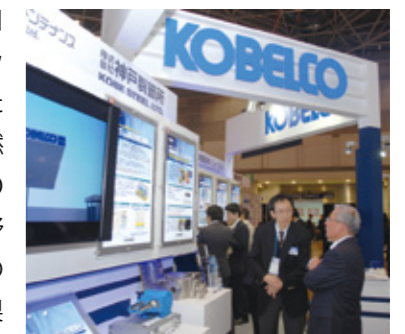


▲国際フロンティア産業メッセ2012

「国際フロンティア産業メッセ2012」は、神戸国際展示場で2012年9月6~7日に開催され、鉄鋼スラグを利用した「鋼製藻場魚礁」や、世界最高の圧縮機技術から生まれた高効率・小型バイナリー発電システム「マイクロバイナリー」、

燃費向上やCO₂排出削減を実現する「自動車軽量化技術」などを出展しました。

2013年2月27日~3月1日に東京ビッグサイトで開催された「第9回 国際水素・燃料電池展 (FC EXPO 2013)」は、この分野では世界最大規模の展示会です。神戸製鋼グループは、水素製造・精製装置などの供給側から、高圧水素圧縮機や熱交換器、水素ステーションエンジニアリング、さらには試験装置を含めた、水素社会への取り組みを幅広く紹介しました。



▲FC EXPO 2013

公開モニターによる環境情報の開示

加古川製鉄所および神戸製鉄所では、製鉄所のばい煙排出量などの環境情報を、各地に設置したモニターを通じてリアルタイムで公開しています。

加古川製鉄所環境情報公開モニター設置場所	加古川市役所、播磨町役場 別府および尾上の地元町内会の公民館
神戸製鉄所環境情報公開モニター設置場所	灘浜サイエンススクエア 灘浜ガーデンバーデン

地域社会とのコミュニケーション

環境保全の取り組みをご理解いただくために、加古川製鉄所、神戸製鉄所にて地域の皆様への現地説明会などを実施しました。加古川製鉄所、神戸製鉄所で実施した現地説明会では、合計122名の方に参加いただきました。

また、環境に関するお問い合わせ窓口として、加古川製鉄所と神戸製鉄所に環境フリーダイヤルを開設しています。今後も皆様の一つひとつのご意見に耳を傾けていきます。

社会との共生・協調

神戸製鋼グループは、環境の側面からも社会との共生・協調を目指しています。生物多様性への取り組み、地域社会への貢献などを継続して行っています。

生物多様性への取り組み

事業所の取り組み

神戸製鋼グループでは、緑地やビオトープなどを設置することにより、豊かな環境づくりを進めています。長府製造所、神鋼特殊鋼管(株)、神鋼ファブテック(株)、神鋼関門総合サービス(株)では、事業所前の国道沿いに植えられた約200本の桜を整備しており、長年の緑化活動の結果、現在では、地元の皆様から愛される存在になっています。



▲長府製造所前 桜並木

森林整備活動

神戸製鋼グループは、2011年秋から兵庫県内2カ所で「森林整備活動」を開始しました。グリーンピア三木内(三木市)の里山放置林(約2ha)を「KOBELCOの森」と名付け、全神戸製鋼労働組合連合会が中心となり、神戸製鋼グループと手を携えて森林整備活動に取り組んでいます。「KOBELCOの森」は、森林整備活動と共に新入社員の

研修の場としても活用しており、環境保全意識に加え、安全意識を育む場としても役立っています。

また、六甲山系油コブシ(神戸市灘区)頂上周辺の0.6haのエリアを「ECOWAYの森」と名付け、春と秋の2回、森林整備活動を行っています。

2カ所の森林で、年間のべ600人を超えるメンバーが参加し、森林整備活動に汗を流しています。

Homepage http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/forest/



▲「KOBELCOの森」での活動



▲「ECOWAYの森」での活動

地域社会への貢献

児童館出前エコ教室

神戸製鋼は、地域の環境貢献活動の一環として、神戸市が主催する「神戸子どもエコチャレンジ21倶楽部」に参画しています。この組織は、未来を担う子供たちが、楽しみながら、遊びながら、体を動かしながら、環境活動の大切さを学ぶことを目的としており、神戸製鋼は2011年度から児童館にて環境教育を実施する「児童館出前エコ教室」を展開しています。

出前エコ教室では、環境や電気の大変さ、鉄の便利さを体感してもらうために、マジックショー、クイズ大会、エコカルタ遊びなどを行っています。



▲手回し発電機デモンストレーション



▲エコカルタで遊ぶ子供たち

2012年度は、岩岡学童保育コーナー(神戸市西区)、大池児童館(神戸市北区)、乙木児童館(神戸市垂水区)、菅の台児童館(神戸市須磨区)の4カ所で開催し、約150名の子供たちが参加しました。

今後もこの活動を通じて、環境教育を支援していきます。

子供たちがいきいきと学べるメニューでした。

神戸市立大池児童館 中村美智子館長



児童館はいつも大小のイベントを催していますが、スタッフだけでは企画に限界があり、館外に出かけるのも何かと大変です。だからこうした専門的で楽しいプログラムを出前していただけるのは、とても助かります。いきいきと学べるメニューを持ってきていただき、子供たちは目を輝かせて学んでいました。子供たちの新たな一面を見ることができ、私たちスタッフも楽しませていただきました。

全員参加による取り組みの展開

神戸製鋼グループの全従業員が、環境に関する意識を高め、常に環境に配慮した行動が行えるよう、環境教育・学習を継続して実施しています。さらに、環境家計簿やエコオフィス活動などの独自の取り組みを推進しています。

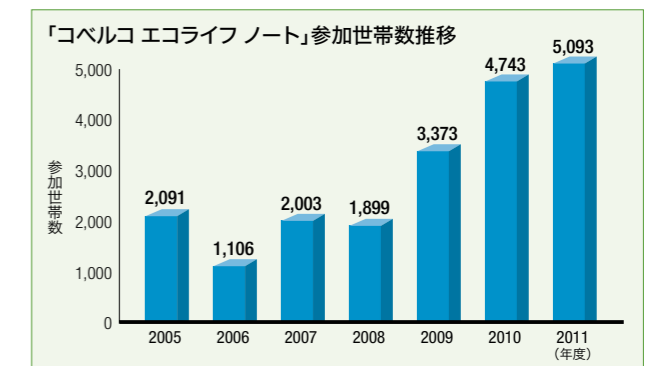
環境家計簿「コベルコ エコライフ ノート」

神戸製鋼グループは、1998年から環境家計簿「コベルコ エコライフ ノート」を実施しています。これは、各家庭でのCO₂排出量を把握することで、従業員自らが省エネルギーなどの必要性を認識し、ライフスタイルの変革に取り組むものです。

【参加者が取り組んだエコライフの知恵の一例】

- 夏にクーラーを控えるため、水を入れたペットボトルを冷凍して扇風機の前に置く。
- マイカーでの通勤から自転車通勤に変更。
- 雨水タンクを設置し、溜まった雨水を庭への散水や洗車に利用。
- 使用していない家電は、待機電力をカットするためコンセントを抜く。

2010年4月からは、これまでの記入用紙による参加に加え、Web参加システムを導入するなど、利便性向上に努めています。2011年度の参加世帯数は、2010年度から350世帯増加し、5,093世帯となりました。



環境意識の向上

環境教育・学習

神戸製鋼は、2006年度から環境教育・学習を階層別(事業所の職制ごと)の教育に織り込み、継続的に実施しています。また、イントラネットを利用したe-ラーニングを定期的に行い、従業員の環境意識向上と環境法令の周知徹底を図っています。

神戸製鋼グループ環境会議

環境経営を推進するために、従業員一人ひとりの意識改革と不断の取り組みが求められています。毎年開催している「神戸製鋼グループ環境会議」では、環境に関する優れた活動について発表を行い、グループ全体で環境への取り組み強化を図ると共に、環境意識の向上に努めています。



▲神戸製鋼グループ環境会議



▲日本高波鋼業による「排水管理体制の強化」の事例発表

環境関連資格取得の推進

環境管理の取り組み強化や環境への意識の向上を図るべく、公害防止管理者やエネルギー管理士などの資格取得を推進しています。

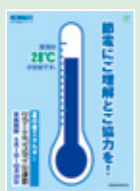
環境関連有資格者数(神戸製鋼)

資格	有資格者数	資格	有資格者数
公害防止管理者(大気関係)	211	公害防止管理者(ダイオキシン類関係)	49
公害防止管理者(水質関係)	152	公害防止主任管理者	7
公害防止管理者(騒音・振動関係)	186	エネルギー管理士	162
公害防止管理者(粉じん関係)	47	環境計量士	10

TOPICS

節電(使用最大電力抑制)への対応

2011年より継続して、電力需要の高い夏季、冬季における最大電力抑制に取り組んでいます。また、工場の省エネルギーに努めると共に、オフィスでの省エネルギーにも取り組み、冷暖房温度の設定見直し、照明の間引きやLED電球への交換などを実施しました。



リスク管理の徹底

神戸製鋼グループは、事業活動に伴う環境リスクを把握し、リスク低減活動を実施すると共に、日常の管理手順を定め、適切な管理を実施しています。また、環境監査などの活動を通じて、法令遵守の徹底や環境管理の強化に継続して取り組んでいます。

環境管理の向上

神戸製鋼の事業所については、ISO14001などの環境マネジメントシステム(EMS)を導入し、事業所内で内部監査を実施すると共に、外部の認証機関による審査を受けています。また、社内規程に基づき、全社環境統括部門(本社)による書面および現地監査を実施して環境管理レベルの向上を図っています。

グループ会社についても、書面による調査を実施しています。また、環境リスクの大きい事業所にはEMSを導入し、自主的な環境活動を実施すると共に、神戸製鋼 本社による現地での環境確認調査も実施しています。

現地監査前に実施している神戸製鋼グループ環境会議にて、法改正状況や監査での重点確認項目を共有することによりグループ全体の環境管理向上を目指しています。

また、現地監査には社外のコンサルタントも参画し、客観的かつ適正な監査に努めています。



▲環境確認調査(コベルコ建機(株))

環境リスクへの対応

各事業所にて、環境リスクを抽出し、リスク低減を図ると共に緊急事態対応の訓練を定期的実施しています。

例えば、茨木工場では新人を対象に工場排水異常を想定して、処置対応訓練を実施しています。高砂製作所では、地震などによる油流出を想定し、オイルフェンスの展張訓練を毎年実施しています。



▲新人を対象とした工場排水異常訓練(茨木工場)



▲オイルフェンス展張訓練(高砂製作所)

2012年度の行政による指示・指導

神戸製鋼およびグループ会社において、環境法令について重大な違反はありませんでしたが、関係行政から指示や指導を受けました。

行政による指示・指導件数

	大気	水質	その他
神戸製鋼	0	1	2
グループ会社	0	2	2

■行政による指示・指導の事例

- 浄化槽管理に不備があったため、対策として運転方法を改善しました。
- 届出が必要な環境関連設備について、届出漏れや記載不備があり、是正し、従業員への再教育を実施しました。
- VOC排出施設において、法で定められた回数の測定を実施していなかったため、測定を実施し、測定計画を見直しました。また、従業員への再教育を実施しました。

海外事業所におけるリスク管理活動

神戸製鋼グループは、グループの環境経営基本方針に則り、世界各地に広がるグループ事業所での環境管理の徹底を図っています。

リスク管理活動の対象としている主な海外グループ会社

神戸製鋼グループでは、国内の事業所・グループ会社と同様に海外グループ会社においても、将来的には日本国内に準じた環境管理体制を整備していくこととしています。そのために、2009年度より世界各地の製造拠点を対象として神戸製鋼 本社が主体となった「現地環境調査」を行い、現地の環境管理状況を確認しています。

今後も海外拠点での環境管理活動のレベルを向上させ、グループとしての環境管理体制を改善していきます。



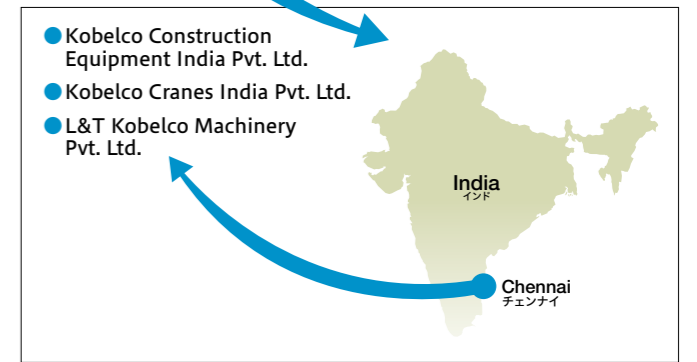
▲リスク管理活動の対象としている主な海外グループ会社所在地

インドのグループ会社で現地環境調査を実施

2012年度は、インドにおいて生産拠点となっているグループ会社3事業所について、現地調査により環境管理状況の実態把握と問題点の抽出を行いました。その結果をもとに必要な是正措置をとっています。2013年度も引き続き、海外事業所の現地調査を実施します。



◀油水分離槽管理状況の確認



▲2012年度現地調査対象事業所(インド)

TOPICS

神鋼特殊鋼線(平湖)有限公司(KSP)(中国)が環境信用格付けで優秀企業に選出されました。

2011年度、浙江省平湖市環境局により、平湖経済開発区99社を対象に、環境信用格付けが行われました。廃酸、廃棄物、排水取り扱いなどの法規制の遵守状況が評価され、KSPは優秀企業9社のうちの1社に選出されました。



▲環境信用格付け結果通知書



▲神鋼特殊鋼線(平湖)有限公司

HIGHLIGHTS ON SOCIETY

社会性報告 2012年度の活動ハイライト

お客様・お取引先様

優れた製品を生み出す
「ものづくり推進リーダ会議」



41
ページ

各事業所に設置した「ものづくり推進リーダ」が集まり、社内の先進事例の情報共有や、課題解決のための事業所横断プロジェクトの企画を行っています。

株主・投資家様

事業所見学会を各地で開催



44
ページ

株主の皆様にご覧いただく見学会を開催しています。2012年度は、真岡製造所、神戸製鉄所、神戸総合技術研究所で実施しました。

社会の皆様

神戸製鋼ラグビー部が
被災地支援活動



39
ページ

ラグビー部は、2012年6月、東日本大震災に被災した岩手県釜石市を訪問し、地元のラグビーチームと合同で海岸の清掃活動やラグビー教室を行いました。今後も、復興に向けた支援活動を続けます。

海外の現地社会

マレーシアでマングローブ
1,000本を植樹



47
ページ

現地法人 Kobe Precision Technology Sdn. Bhd の社員80名は、社員と会社からの寄付金により、ペナン州の海岸にマングローブ1,000本を植樹しました。今後もマングローブの森を増やすことで、沿岸地域の環境保全に貢献します。

社員

次世代育成認定マーク
『くるみん』を取得



49
ページ

仕事と生活の両立を支援する環境整備を進めています。この取り組みが評価され、2012年11月に次世代育成認定マーク『くるみん』を取得しました。

社会性報告

多様なステークホルダーとの対話から、 私たちの社会貢献活動は始まります。

お客様・お取引先様

P41▶P42

優れた製品・サービスの提供を通じて、お客様やお取引先様の期待と信頼にお応えします。

株主・投資家様

P43▶P44

経営の透明性を高め、グループ全体での企業価値向上を図ることで、健全で良好な関係づくりに努めます。

社会の皆様

P45▶P48

地域に息づく良き企業市民の一人として、各地の事業所を起点に、地域社会とふれあい、貢献する活動を続けます。

海外の現地社会

P47

海外の文化や慣習を尊重し、その国の企業の一つとして現地社会の発展に貢献する活動を目指します。

社員

P49▶P50

社員の人格・個性や人権を尊重し、多様な人材がのびのびと活躍できる職場環境づくりを進めます。

社会貢献活動の考え方

ステークホルダーの皆様と、ふれあい、対話し、“信頼”という絆を結ぶ。
神戸製鋼グループは、そんな基本姿勢のもとで、企業としての社会的責任を果たそうと思えます。
それぞれのステークホルダーの立場を尊重し、さまざまなご意見・ご指摘に答えることで、地に足のついた社会貢献活動を続けていきたいのです。
神戸製鋼グループは、ステークホルダーの皆様と共に生き、共に発展する企業体を目指します。

ご意見・ご指摘

活動のステップアップ

KOBELCO

スポーツを通じた社会への貢献

神戸製鋼ラグビー部による東日本大震災の復興支援や、高校ラグビーへの特別協賛、女子ラグビーの支援…
 スポーツを通じた社会への貢献は、神戸製鋼グループならではの活動です。
 スポーツの裾野をひろげ、次世代の選手を育て、地域の方々に元気にする。
 そんな独自の社会貢献の一端にふれてください。



神戸製鋼ラグビー部「コベルコスティールズ」の活動

1 復興へのトライ! 岩手県釜石市で被災地支援活動を実施

神戸製鋼ラグビー部は、2012年6月2日・3日、岩手県釜石市を訪問し、釜石市のラグビーチーム「釜石シーウェイブスRFC」と合同で被災地支援活動を実施しました。釜石市の根浜海岸周辺の清掃活動では、約80名の選手とスタッフが、約3時間にわたりガレキや流木、溝にたまった泥を取り除く作業を行いました。また、地域の方々との交流会や、釜石市陸上競技場では小中高生約100名を対象としたラグビー教室を開催。小学生に両チームの選手が加わった混合チームで試合も行われ、楽しいラグビー教室となりました。

今回の訪問は、大震災を経験したチーム同士が、合同で復興のお手伝いをしたいという想いから実現したものです。被災地の一日も早い復興をお祈りしています。



▲津波の跡が残る、根浜海岸周辺の清掃活動



▲地元の皆様からお汁粉をいただきました



▲「釜石シーウェイブスRFC」との合同練習



▲子供たちの笑顔がまぶしいラグビー教室



▲参加した子供たちにプレゼントを渡します

「明るい子供たちから
 元気をもらいました。」

コベルコスティールズ
 橋本大輝主将



復興はまだまだ途上ですが、そこに暮らしている方々はとても元気でした。ラグビースクールにしても、本当に子供たちが明るくて、逆に僕らが元気をもらえた感じです。僕たちにできることは、本当に少しのことです。今後も、その少しずつのことを積み重ねて、復興に向けて継続的に協力できたらと思っています。



▲往年の名選手たちの熱戦と迷ブレ? ▲継続した復興支援を訴える選手たち



▲大震災を経験した両チームの想いは一つ

2 ラグビー部OBと新日鐵釜石OBチームが 「V7チャリティマッチ」開催!

神戸製鋼ラグビー部OBと、東日本大震災で被災した岩手県釜石市を拠点とする新日鐵釜石ラグビー部OB並びにNPO法人スクラム釜石は、東日本大震災の復興支援活動として、2012年9月23日、ラグビーの聖地・秩父宮ラグビー場で両チームの「V戦士」を中心とした「V7チャリティマッチ」を行いました。

神戸製鋼からはOB33名が参加し、2,500名以上の観客が詰めかけました。試合後の募金活動でいただいた義援金は、NPOスクラム釜石を通じて、被災地の支援へと役立てていただきます。



▲橋本主将が出席して行われた贈呈式

3 「日本せきずい基金」に募金を贈呈

神戸製鋼ラグビー部は、「ジャパンラグビートップリーグ2011-2012」の開幕戦から日本選手権大会までの全試合会場で、「Kobelco Steelers基金」と称して募金活動を実施してきました。さらに「コベルコラグビーフェスティバル2012」における収益金の一部を加え、NPO法人「日本せきずい基金」へ募金を寄贈しました。せきずい損傷はラグビー選手にとって起こりやすいケガということもあり、ラグビー部は10年前から同基金への寄付を続けています。

高校ラグビーへの特別協賛活動

1 次世代ジャパン育成のために 「KOBELCOカップ2012」開催

神戸製鋼グループが特別協賛する「KOBELCOカップ2012」(「第8回全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会」「第2回全国高等学校女子7人制ラグビーフットボール大会」)が7月31日から8月3日、長野・菅平高原サニアパークで開催されました。今回出場した選手は、男女7人制ラグビーが正式種目となるリオデジャネイロ・オリンピック(2016年)、日本初開催となるラグビーワールドカップ(2019年)で、主力として活躍することが期待されています。「KOBELCOカップ」などを通じ、神戸製鋼グループはこれからもラグビーの普及と強化に貢献していきます。



▲長野・菅平高原を熱くした参加者一同



▲育て!リオデジャネイロのヒロイン

2 目指せ!オリンピック 女子7人制ラグビーの普及支援

女子7人制ラグビーは、「KOBELCOカップ2012」から男子同様の本格的な大会形式になりました。全国を8つの地域ブロックに分け、対抗戦形式の試合を行い、関東選抜が優勝しました。神戸製鋼グループは、初心者や未経験者を集めた講習会も開催し、女子ラグビーのいっそうの普及を図っています。

多様なスポーツ支援活動

1 スポーツを通じた交流の場、 「灘浜スポーツゾーン」を一般開放

神戸製鋼ラグビー部の拠点に併設された「灘浜スポーツゾーン」は、人工芝グラウンドとテニスコートを整備し、地域の皆様に一般開放しています。人工芝グラウンドは、ラグビー、サッカーの他、グラウンドゴルフにも利用できるよう用具の一部を貸し出しており、近隣の学校やラグビー・サッカーのクラブチームなど、スポーツを愛する人々の交流の場として役立っています。



▲一般開放された人工芝グラウンド

2 スポーツNPO法人 SCIX を支援

NPO法人SCIXは、「全ての人々にスポーツを楽しめる機会を提供する」との理念のもと「スポーツによる地域社会貢献」を目的に活動しています。

SCIXは、子供たちが楽しみながら身体能力を向上させ、広い視野や状況判断能力を養うことができるオリジナルスポーツである「スペースボール」を考案し、地域の小学生をグラウンドに招いて指導を行っています。

神戸製鋼は、SCIXの理念に賛同し、グラウンドの開放や指導員を派遣することでSCIXの活動を支援しています。



▲スペースボール体験の様子

優れた製品・サービスの提供

神戸製鋼グループの企業理念の一つ「信頼される技術、製品、サービスを提供します」を実践するため、営業・マーケティング～開発・設計～調達～製造・生産までをカバーするトータルな活動において、「ものづくり力」のさらなる強化を図っていきます。

「ものづくり力」とは、持続的に信頼される技術、製品、サービスを提供する力であり、成長のための「エンジン」となるものです。「ものづくり力」強化のための事業所横断組織を充実させ、今後さらに、国内外のお客様・お取引先様に信頼され、満足される製品・サービスを提供してまいります。

ものづくり推進部の活動

ものづくり推進部は、2010年4月の設立以来、神戸製鋼グループのものづくり力強化に向けて、『ものづくりに関わる情報の事業所間の横展開』、『ものづくり力の見える化』をキーワードに、各種活動に取り組んできました。

グループ内の先進事例を共有することで技術面のレベルアップを図ると共に、ものづくり力の見える化のための共

通指標の整備も進めています。

今後さらに、技術力強化、管理指標の整備、国内外のグループ会社への活動拡大を進め、グループ全体のものづくり力の底上げを図ることで、お客様に信頼される製品、サービスを提供し続けられる体制を目指してまいります。

事業所間の横展開

基本方針

各事業所の代表者による『ものづくり推進リーダー会議』を通じて全般的な情報共有を図ると共に、個別の要素技術については専門技術者同士のネットワーク『生産技術交流会』で交流を促進しています。

ものづくり推進リーダー会議

全社活動の窓口として各事業所に「ものづくり推進リーダー」（工場長、副工場長クラス）を設置し、「ものづくり推進リーダー」が集まる『ものづくり推進リーダー会議』を開催しています。ここでは社内の先進事例の紹介や、重要施策に関する総合討議などを行っています。

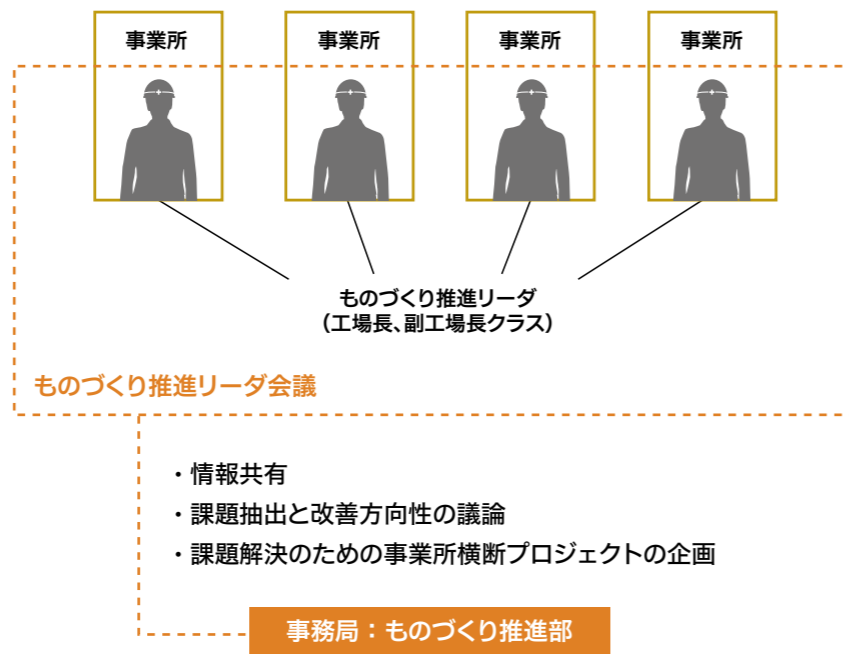
紹介した事例をそれぞれの事業所での改善活動の参考にしてもらい、要望があれば個別に交流会なども企画しています。

今後は、情報共有だけでなく、グループ全体の課題の抽出や改善の方向性を見出す場としても機能させていく予定です。



▲ものづくり推進リーダー会議

■全社ものづくりに関わる組織イメージ



■生産技術交流会の7分科会



生産技術交流会

ものづくりに関する情報の事業所間の横展開並びに各種施策の議論は、『ものづくり推進リーダー会議』で行っていますが、主要な要素技術については、それぞれの専門技術者による『生産技術交流会』を開催しています。

同じ技術領域・分野の技術者が事業所横断で集まることで、より迅速な課題解決を可能とし、より効率的な技術者の育成にもつなげていく計画です。

例えば省エネ分科会では、グループ内に点在していた専門家によるチームを構成し、各事業所を訪問しながら、省エネルギーを推進するための改善提案を行っています。従来、事業所単独で取り組んでいた改善作業に、新たな知見を加えることで、より効果的な改善案が作成できるようになってきています。

『生産技術交流会』は、現在は7つの分科会で活動を行っていますが、今後は技術領域をさらに拡大していく予定です。『ものづくり推進リーダー会議』で抽出された全社的な課題について、『生産技術交流会』がプロジェクトチームを組み、課題解決を行うスタイルを目指しています。

見える化～全社共通指標の整理

基本方針

改善活動を適正に評価することで課題を明確にし、グループ全体のものづくり力強化を目指しています。

品質コスト管理

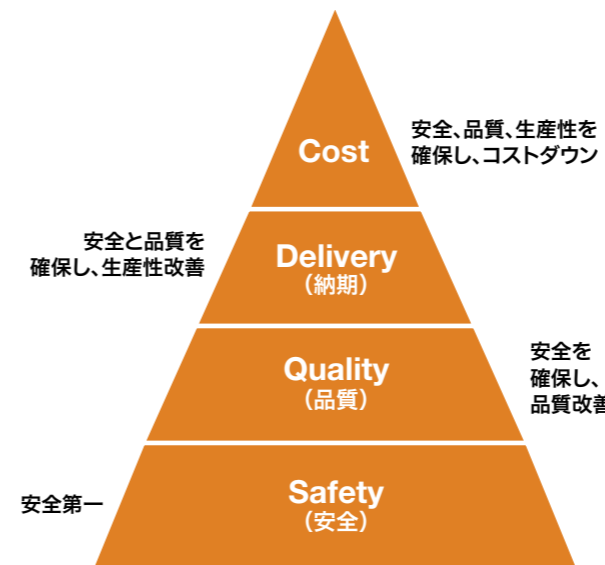
工場を運営する上で、最も重要な項目は安全の確保ですが、次いで品質の向上が重要な項目となります(下図参照)。

ものづくり推進部では、まず全社の品質管理状況を把握するための指標として、『品質コスト管理』*を導入し、改善を進めています。品質改善活動は、製品製造におけるエネルギー使用量を減らす上でも効果的です。

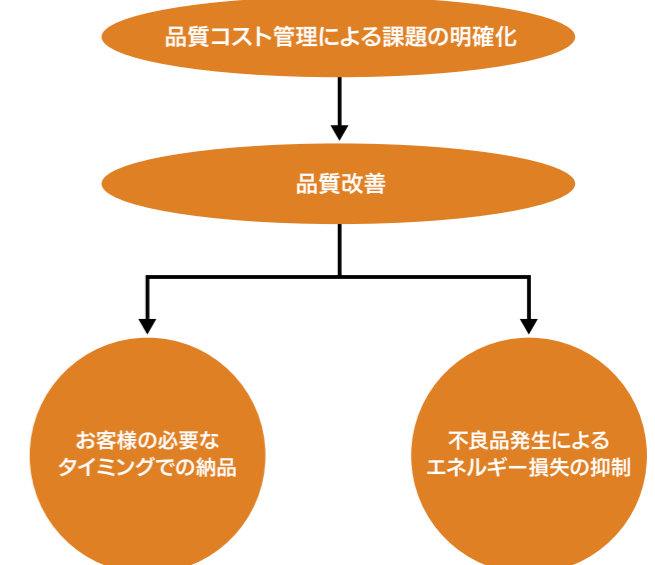
今後もより一層品質改善を推進し、お客様に満足していただける品質の製品を、お客様の必要なタイミングに納品できる体制づくりを進めてまいります。

*品質コスト管理：品質管理、品質改善に関わる活動をコストという共通指標で評価する管理手法。課題や改善施策の効果を明示することが目的。

■改善視点の優先順位



■品質改善による波及効果



株主・投資家の皆様との関わり

神戸製鋼グループは、中長期的な視野に立った事業展開を推進することにより、グループ全体での企業価値向上に努めています。その中で、株主の皆様への利益還元はもちろんのこと、株主・投資家の皆様をはじめとするあらゆるステークホルダーとのコミュニケーション、経営の透明性の向上を重要課題と認識し、適正かつ迅速な情報開示と、幅広い情報公開を進めています。

株主還元

神戸製鋼は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして位置付け、中長期的な視野に立った事業展開を推進することにより、グループ全体での企業価値向上に努めています。

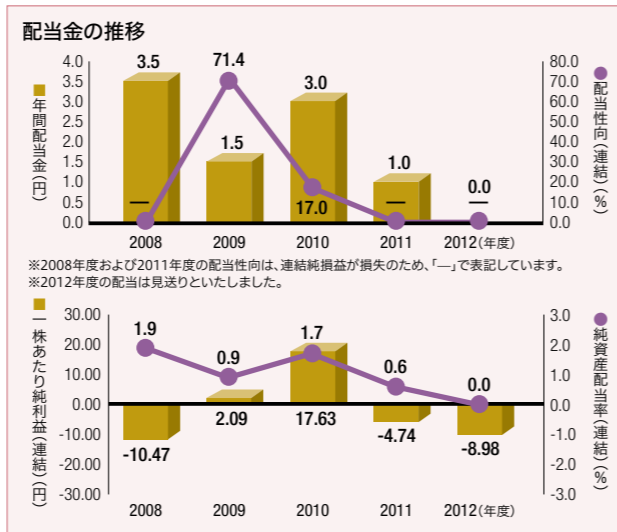
成果の配分につきましては、当社の財政状態、業績の動向、先行きの資金需要などを総合的に考慮することとし、配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、各期の業績および配当性向などを勘案して決定していきます。

内部留保資金につきましては、将来の成長のために必要な投資などに充てることを通じて、収益力の向上に努めると共に、財務体質の改善・強化を進めています。

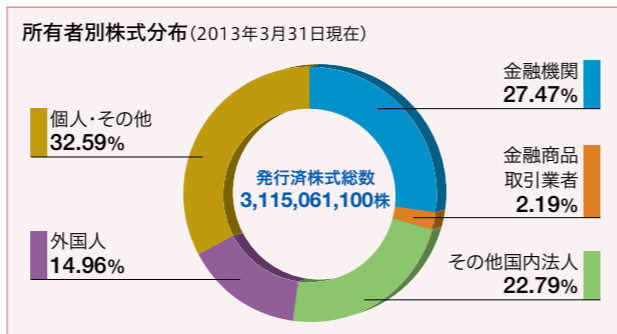
また、業績に応じた利益配分を考慮する上で、基準とする配当性向につきましては、当面の間、連結純利益の15%から25%程度を目安としています。

剰余金の配当につきましては、会社法第459条第1項および第460条第1項に基づき、取締役会の決議によって定める旨を定款に定めています。

これに基づき、定款に定める基準日である中間期末および期末に、年2回の配当を取締役会決議により実施することを基本としています。それ以外を基準日とする配当を行う場合には、別途取締役会にて基準日を設定した上で行います。



株主の状況



情報開示

株主や投資家の皆様に長期的かつ安定的に信頼・支援いただくために、説明責任の遂行が極めて重要であると考え、企業情報や財務情報の適時・適切な開示に努めています。

情報開示に関しては、法定開示基準の遵守、証券取引所の定める適時開示に関する規則に則った開示はもちろんのこと、適時開示に関する規則に該当しない場合でも、投資判断に関わると考えられる開示可能な情報については積極的に、迅速かつ継続的に発信することにより、神戸製鋼グループの経営状況や事業活動状況を十分にご理解いただき、適正な企業価値評価を得ることを目指しています。



株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

株主の皆様とのコミュニケーション

株主総会を、株主の皆様と直接コミュニケーションする場としてとらえ、できるだけ多くの方にご出席いただくために、招集通知の早期発送や株主総会開催にあたって、集中日を回避するなどの工夫をすると共に、インターネット(携帯電話を含む)を通じて議決権を行使いただける環境を整えています。

また、株主の皆様が多様な事業を営む神戸製鋼グループに対する理解を深めていただく機会として、2007年度より株主の皆様を対象とした見学会を開催しています。これまでに合計11回の開催を数え、2,765名(同伴者様含む)をご招待いたしました。これまでにご覧いただいた事業所は以下の通りです。

- ◆加古川製鉄所(鉄鋼:兵庫県加古川市)
- ◆神戸製鉄所(鉄鋼:兵庫県神戸市)
- ◆高砂製作所(鉄鋼[鑄鍛鋼・チタン]、機械:兵庫県高砂市)
- ◆真岡製造所(アルミ[アルミ板]:栃木県真岡市)
- ◆神戸総合技術研究所(兵庫県神戸市)

今後も、さまざまな事業所をご覧いただき、理解を深めていただけるよう、見学会を開催していきます。新たな事業所での開催や、開催機会の増加なども検討していきます。

見学会の様子



機関投資家の皆様とのコミュニケーション

国内の機関投資家や証券アナリストの皆様を対象に、神戸製鋼の経営方針や経営成績および財務状況をご理解いただく機会として、年4回の決算説明会を開催しています。

また、国内外の機関投資家や証券アナリストの皆様との個別面談を行い、継続的なコミュニケーションに努めています。

個人投資家の皆様とのコミュニケーション

個人投資家の皆様には、神戸製鋼Webサイト(<http://www.kobelco.co.jp>)を通じて、半年に1度株主の皆様へ送付する「株主の皆様へ」などの発行物の他、アニュアルレポートや有価証券報告書、この環境・社会報告書など幅広い情報を提供しています。

2012年に更新したWebサイトでは、新着ニュースの掲載や、冊子の閲覧だけでなく、身近な生活を支える神戸製鋼グループの製品・技術をわかりやすく検索いただけるようなレイアウト構成や、映像で製造現場を紹介するなど、より深くご理解いただけるような工夫を凝らしました。

また、この他にも、海外の投資家の皆様にも神戸製鋼グループを知っていただけるよう、英語版や中国版のWebサイトを開設しています。

神戸製鋼グループは、株主・投資家の皆様から末永く信頼を得られるよう、今後も情報開示およびコミュニケーションの質的向上に努めていきます。



▲2012年4月1日、より見やすくリニューアルした神戸製鋼Webサイト

社会との共生

神戸製鋼グループは、それぞれの事業所が、地域社会に貢献する多彩な活動を推進しています。社会と共生する私たちの活動は、良き企業市民として地域に根付いた、一つひとつの事業所から始まります。次世代の育成や、地域社会との交流、海外の現地社会への貢献…。地域と、社会と共に生きる、神戸製鋼グループの活動をご報告します。また、スポーツを通じた社会貢献活動について、39~40ページでご紹介しています。合わせてご覧ください。

次世代の育成支援

未来を担う子供たちの成長をお手伝いする活動に、継続的に取り組んでいます。

コベルコ地域社会貢献基金2012

地域の子供たちを対象とする支援活動が、拡大しています。

神戸製鋼は、創立100周年を機に、「コベルコ地域社会貢献基金」を設立しました。2006年度より、未来を担う地域の子供たちを対象に、グループの事業所や研究所が立地する自治体の多くの施設や団体の活動を支援しています。2012年度はグループ会社4社が仲間入りし、対象地域がさらに広がりました。



▲フロアホッケーの試合(播磨町) ▲デジタル身長計を寄贈(東広島市) ▲木製玩具で遊ぶ子供たち(いなべ市) ▲ミニチュアハウスでお店屋さん(大垣市) ▲子育て支援センターからのお礼状(下関市)

2012年度コベルコ地域社会貢献基金支援実績

地域	支援先	支援内容
兵庫県神戸市	地域の子供会 (1件)	パイプ TENT、スチール物置などの購入費
	児童養護施設 (1件)	自転車の購入費
	青少年育成協議会 (1件)	青少年フェスティバルの運営費
	地域交流団体 (1件)	震災イベントで使う模擬店の備品購入費
	自然保護団体 (1件)	新年たこあげ大会の備品購入費
兵庫県加古川市	子育てサークル (5件)	イベント活動費
	ボランティア団体 (1件)	活動備品の購入費
	ソフトボール協会 (1件)	活動備品の購入費、運営企画補助
兵庫県高砂市	学童保育所の管理運営団体 (1件)	学童保育所備品の購入費、イベント運営費
兵庫県加古郡播磨町	障がい児の社会交流を支援する団体 (1件)	フロアホッケー防具の購入費
	子供たちに環境教育を行うボランティア団体 (1件)	環境学習用品の購入費
神奈川県藤沢市	SL少年団 (1件)	ミニ車両を作成する際の材料費
京都府福知山市	幼稚園 (6件)	絵本、紙芝居などの図書購入費
大阪府茨木市	保育所、発達支援センター (12件)	ソフトタッチマットの購入費
広島県東広島市	保育所 (5件)	デジタル身長計、乳児用身長計の購入費
栃木県真岡市	小学校 (18件)	英会話ピクチャーカードなどの購入費
三重県いなべ市	子育て支援センター (6件)	遊具・備品の購入費
山口県下関市	子育て支援センター (5件)	遊具・備品の購入費
茨城県かすみがうら市	中学校 (1件)	アルミ製竹ぼうき収納ボックスの材料費、製作費
岐阜県大垣市	幼稚園、保育所 (4件)	ミニチュアハウスの購入費
兵庫県明石市	小学校 (2件)	運動会などの行事で使うテントの購入費
鳥取県倉吉市	保育所 (5件)	知育玩具、遊具などの購入費

※黄色の網かけは2012年度から新規参加のグループ会社の支援内容

地域貢献・地域交流

各地の事業所では、地域行事への参加や地域に貢献するさまざまな活動を行っています。地域社会の良き一員であることが、私たちの願いです。

加古川製鉄所 兵庫県

体が不自由な生徒の皆様のプール授業のお手伝い

従業員有志が、6月から10月にかけて、加古川養護学校で体が不自由な生徒達がプール授業を受ける際の介助を行いました。学校からは「人手が足りないので助かる、生徒達も喜んでいる」との声をいただいています。また、参加者からは「有意義な時間を過ごせた」という声があがっています。

神鋼造機(株)、コベルコ建機(株) 岐阜県

大垣十萬石まつり「企業みこし」に初参加

城下町・大垣の秋を彩る「第39回大垣十萬石まつり」。その主役ともいえる「企業みこし」に、神鋼造機(株)とコベルコ建機(株)が初参加しました。両社の役員・従業員と家族計160名が、神戸製鋼ラグビー部のマスコットキャラクター「コーロクン」をイメージしたオリジナルみこしを担いで駅前大通りをパレードしました。大垣の地に根付く神戸製鋼グループを実感できた一日でした。



▲ラグビー部のマスコット「コーロクン」 ▲オリジナルみこしで駅前をパレード

長府製造所 山口県

約4,000名が参加した地域のお祭り「長府フェスタ」を開催

長府フェスタは、地域との交流や従業員の親睦を深めるために長府製造所内で2000年より実施しており、地域の秋の行事として定着しています。2012年度は10月21日に開催し、マグロ解体ショーや平家太鼓、チャリティーバザーなどを行いました。従業員と家族、地域の皆様など約4,000名が参加し、秋の一日を楽しんでいました。



▲秋空の下、元気に綱引き ▲会場に平家太鼓の音が響きました

神戸本社、コベルコシステム(株) ほか 兵庫県

神戸マラソンでボランティア活動

神戸製鋼グループは、2012年の神戸マラソンで出走者の給水支援などのボランティア活動を行いました。前年の第1回神戸マラソンに引き続き取り組みです。今後も、ボランティアとして何ができるかを考えながら、活動を継続していきます。



▲ボランティア参加者で記念撮影

藤沢工場、東京本社 神奈川県

東京本社の労組と協賛して養護老人ホームを慰問

藤沢工場の労組は東京本社の労組と協賛し、2012年7月7日、藤沢市鶴沼の藤沢養護老人ホームを慰問しました。この活動は1989年から20年以上続いており、今回は約30名の組合員が参加。歌、演奏、ダンスなどを行い、一緒に楽しんでいただきました。「ホームの皆様の笑顔がうれしい」など参加者にも好評で、心に残る一日になりました。



▲従業員の歌と演奏 ▲ホームの皆様のダンス

(株)神鋼ヒューマン・クリエイティブ ほか 兵庫県

小学生のラグビー大会「ヒーローズカップ」に協賛

(株)神鋼ヒューマン・クリエイティブおよび神戸製鋼グループは、NPO法人ヒーローズが主催する小学校6年生のラグビー大会「ヒーローズカップ」に協賛しています。ラグビーで体験する湧き上がる感動を伝えるこの大会は、回を重ねるごとに参加チームが増え、5回目を迎えた2012年は全国で100近いラグビースクールが参加しました。ヒーローたちの闘いを、今後も大会運営を支援していきます。



▲熱戦を繰り広げるヒーローたち

東京本社 東京都

品川女子学院の文化祭「白ばら祭」に協力

品川女子学院は、2012年9月に文化祭「白ばら祭」を開催しました。その研究発表の一環として、近隣企業の一つである当社を取材したいというリクエストに応えました。研究発表では、「神戸製鋼所について」「神戸製鋼所 東京本社について」「アルミ缶について」「スカイツリーに使われている神戸製鋼グループの技術について」などが取り上げられ、当社を取材した中等部1年F組は最優秀賞を受賞しました。1年F組の皆様からは、ていねいなお礼状をいただきました。



▲お礼状と、当社を取材する1年F組の皆様

御殿山小学校ラジオ体操への景品提供

東京本社では、近隣の御殿山小学校に、2010年度から継続して寄付を行っています。2012年度は、消せる蛍光ペンのセットを寄付しました。御殿山小学校の皆様からは、毎回お礼状と絵日記をいただいています。



▲御殿山小学校の「父母と先生の会」の代表者の方からお礼状を受け取りました

海外での社会貢献活動

グローバルに事業展開する神戸製鋼グループ。世界各地の事業所では、その国・地域の企業の一員として、現地社会に密着した貢献活動を続けています。

Kobe Precision Technology Sdn. Bhd マレーシア

マングローブ1,000本を植樹

2012年12月8日、コウペプレジジョンテクノロジーの社員80名は、ペナン州ニボンテパルでペナン沿岸漁民福利協会の協力を得て、社員および会社からの寄付金によりマングローブ1,000本を植樹しました。参加者からは、「今回の植樹を通じてマングローブの森の重要性を理解できた。今後もマングローブの森を増やすことで、沿岸地域の環境保全に少しでもつながれば」との声があがっています。



▲参加した社員とマングローブの苗

神鋼自動車鋁部品(蘇州)有限公司 中国

週2回の地域の清掃活動

神鋼自動車鋁部品(自動車用アルミ部品の製造会社)は、安定した企業運営のためには地域の皆様のご理解とご支援が必要と考え、清掃活動を行っています。毎週火曜日と金曜日に会社前の道路を清掃し、地域の警察からも表彰を受けました。参加者からは、「この活動の意義を実感することができた」などの声があがっています。



▲清掃活動の様子

Midrex Technologies, Inc. アメリカ

施設で暮らす子供たちとふれあう活動

ミドレックス社の社員たちは、米国ノース・カロライナ州のバリアム・スプリングス孤児院で暮らす子供たちを支援しています。本孤児院には、大きな事故や事件で親をなくした子供や、虐待を受けた子供などが暮らしています。ミドレックス社はこの施設への寄付の他、毎年夏に野球の試合に招待する、クリスマスには子供たち全員にプレゼントを贈る、などの支援を行っています。



コベルコ建機(株)グループ 中国

四川大地震後の緑地に105本の桜を植樹

成都市に拠点を持つコベルコ建機(株)グループの4社は、2011年からJICA(独立法人国際協力機構)と四川省の共同プロジェクト「四川震災後森林復旧計画プロジェクト」に協力し、2008年の四川大地震で崩れた山の整備と植林を行っています。2013年には北川県で植樹祭が行われ、グループ各社から47名のボランティアが参加して105本の桜を植樹しました。植樹した桜がいつか満開を迎えるよう、今後も環境保護に貢献していきます。



▲復興への想いをこめて植樹します

近隣清掃活動

事業所周辺の清掃活動は、地域社会と共生するための基本的な取り組みの一つです。多くの事業所が近隣の美化に取り組んでいます。

神鋼リードミック(株) 福岡県

200人が参加する、週に1度の地域清掃活動。

環境・設備室が中心となり、全従業員200名が輪番制で、毎週木曜日に事業所周辺の清掃を行っています。地域社会との共生を目的に、周辺地域の美化活動に賛同して開始されたもので、2007年12月から5年以上継続中。従業員にもすっかり馴染みの活動となっています。

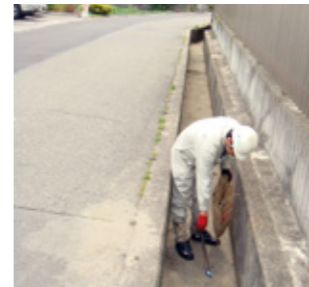


▲全従業員が参加する清掃活動

神和木材工業(株) 兵庫県

10年間、毎日続く水路の清掃活動。

2003年、兵庫県明石市への事業所の移転に伴い、周囲の水路の清掃を開始しました。それ以来10年間にわたり、当番を決めて毎日清掃を継続しています。



▲水路の掃除は毎日の仕事の一つ

大阪支社 大阪府

大阪マラソン クリーンアップ作戦

大阪マラソンの開催に伴い、コースとなる支社(御堂筋三井ビル)周辺の清掃活動に参加しました。大阪支社では継続して実施できる地域貢献活動として、本活動を2011年から実施しています。2012年は参加者が増加し、始業前



▲始業前に皆で清掃

の短時間の清掃活動でかなりの分量のゴミが回収できました。歩道もきれいになったと実感でき、「参加してよかった」との声が多数あがっています。

西条工場 広島県

有志のゴミ拾いから始まった、工場周辺の美化活動

工場周辺の道路を気持ちよく通行していただけるよう、1990年から総務係の有志がゴミ拾いを開始し、その後工場の行事として定着しました。現在は、月1回のゴミ拾いと、年間4回の雑草の除去を行っています。



▲草刈機を導入した雑草の除去活動

長府製造所 山口県

地域に定着した、国道の清掃活動。

毎週木曜日の朝、製造所前の国道の歩道帯とその周辺の清掃活動を行っています。本活動は、地域に貢献したいという想いから1999年6月より開始しました。「清掃参加者の挨拶がすがすがしい」と、近隣の方々に親しみを持ってもらえるようになりました。



▲地域の皆様からも喜ばれる清掃活動

(株)コベルコマテリアル銅管 神奈川県

美化と健康をかねたグリーン・クリーンウォーキング

2012年5月、秦野工場の従業員とその家族が参加し、秦野駅から登山ハイキングコース入口までの区間でゴミ拾いを行いました。毎年行っているウォーキング活動に美化活動が、加わったこととなります。



▲グリーンを楽しみ、クリーンを守る

工場のある秦野市は、ボランティアによる清掃が行き届いている街です。少しでもお役に立てる様、これからも美化活動に取り組んでいきます。

社員が働きやすい職場環境

神戸製鋼は、社員の人格・個性を尊重し、活力溢れた魅力ある職場環境を実現していくための各種人事諸制度や人材育成施策を展開しています。また、「社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊ぶ」という神戸製鋼グループの企業理念を実現するために、グループ各社とさまざまな形で連携を強めています。

仕事と生活の両立支援

神戸製鋼は、仕事と生活の両立を図るための環境整備に積極的に取り組んでいます。これまでの取り組みが評価され、2012年11月に次世代育成認定マーク『くるみん』を取得しました。



▲くるみんマーク

<近年の主な取り組み>

- 育児休業期間の延長(子が満3才に達するまで)
- 育児のための就業時間等配慮期間の拡大(子が小学校を卒業するまで)
- 介護休業期間の延長(最大3年間まで)
- 子の看護・家族の介護休暇の有給化
- 育児・介護のための在宅勤務日制度の導入
- 高齢者介護支援の社外サービスの提携契約
- カフェテリアプラン制度における育児メニューのポイント優遇

神戸製鋼では、両親や親戚などのサポートを受けずに夫婦だけで育児をしている世帯が全体の約25%となっており、子育て世代の社員の生活に育児が占める割合は大きくなっています。女性社員のみならず男性社員も子育てに積極的に参画できる環境整備(各種制度の新設や制度運用の定着活動)に取り組んでいます。

人権尊重の取り組み

神戸製鋼グループは、差別のない、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

公正採用選考ルールや男女雇用機会均等法など人権に関係する諸法令を遵守すると共に、グループ各社の人事担当者や、新入社員、新任管理職など各階層への人権研修を通じて、人権に関する取り組み方針の浸透や人権意識の啓発に努めています。

ハラスメント防止の取り組み

神戸製鋼グループは、セクシュアルハラスメントやパワーハラスメントのような不当な「いじめ」「嫌がらせ」を容認しません。「セクシュアルハラスメント防止マニュアル」の作成・周知や相談窓口の設置など、ハラスメント防止のための体制整備を進めています。

また、ハラスメントの起きにくい職場づくりをテーマとする管理職へのe-ラーニングをはじめ、この問題を防止するための教育・研修を展開し、社員一人ひとりの意識啓発に努めています。

▶セクシュアルハラスメント防止マニュアル



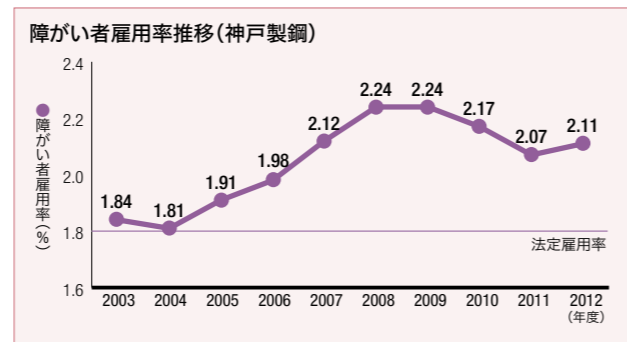
女性の活躍推進への取り組み

近年、女性社員の採用数が増加する中、神戸製鋼は女性が自らの能力を十分に発揮できる環境づくりを推進しています。その一環として総合職の女性社員を対象に行っているメンター制では、職場の上司以外の経験豊富な部長・次長職がメンター(助言者)となり、キャリア形成や能力開発について心理的な側面も含め支援しています。

障がい者雇用への取り組み

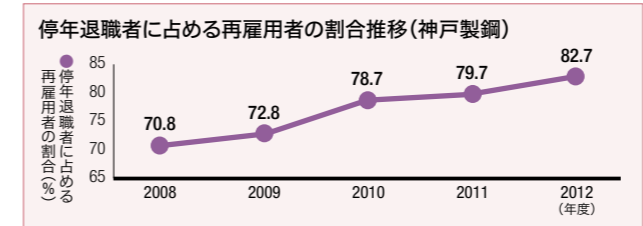
神戸製鋼グループは、障がい者雇用を積極的に推進すると共に、個々人が持てる能力を十分に発揮でき、安心して働ける職場環境の整備に努めています。

神戸製鋼の2012年度の障がい者雇用率は2.11%と、法定雇用率(1.8%)を上回っていますが、引き続き雇用率アップに向けた取り組みを継続していきます。



高齢者雇用への取り組み

神戸製鋼は、停年退職後の再雇用制度として「熟練社員再雇用制度」を導入しています。グループ会社などでの再雇用者を含め、ベテラン層の有する技術・技能を引き続き活用することで、技能継承の円滑な推進や本人の働き甲斐の実感を通じて、職場活力の維持・向上を図っています。また、グループ各社でも同様の取り組みを進めています。



安全衛生管理

安全衛生管理方針

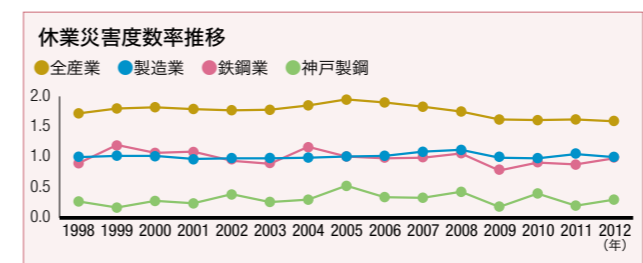
「安全衛生は事業経営の基盤であり、全ての事業活動に優先する」という理念のもと、安全で安心して働くことのできる、活気溢れた職場の実現に向け、さまざまな安全衛生活動を行っています。

安全衛生管理計画で目指す姿

- 法令・社内ルールを正しく理解し、それを確実に遵守できる組織・体質を作り上げる。
- 生産・品質・人・組織・環境などに応じた“変化”を見逃すことなく速やかに対応する。
- 自らはもとより、職場の仲間の安全を守り、健康を気遣う風土をつくる。

安全管理

神戸製鋼は、1979年から中長期的な視点で労働災害を減らす取り組みを始めた結果、労働災害は減少し、度数率も低位で推移しています。2013年度も引き続き、従業員の生命と健康を守ることが企業の社会的責任を果たす上でも特に重要であるという認識のもと、神戸製鋼グループ・協会会社一体となったさらなる安全管理活動の向上を図ってまいります。



衛生管理

衛生面では、健康に配慮した職場環境をつくり上げることが目標とし、『こころ』と『からだ』の両面の管理体制を充実し、“予防”への活動展開を一層強化して取り組むことにしています。

『こころ』の面では、産業カウンセラーや専門医師による「なんでも相談室」の充実や、全ての従業員に対するメンタルヘルス教育などを進めています。

『からだ』の面では、職場環境の変化へも確実に対応して、職業性疾病の防止に努めることはもちろんのこと、定期健康診断の受診徹底とそのフォローを着実にを行うことにより、生活習慣病の予防に努めていくことにしています。

また、インフルエンザの問題に対しても、安全・安心を確保するための予防対策の徹底や新型インフルエンザ対策に取り組んでいます。

人材育成

ものづくり力を支える技能継承活動、QCサークル活動

製造現場でのものづくり力を支える上で欠かせない「技能継承」。グループ各工場では、ベテランによる若手への実務を通じたトレーニングに加え、誰がどんな技能をどのレベルで保有しているかを示す技能マップの整備や、熟練操業者の勘と経験という「暗黙知」の技術的な整理を行い、若手の成長と早期育成を支援し、技能継承を着実に進めています。

また、神戸製鋼グループでは「QCサークル活動」を40年以上にわたり続けています。活動を通じて個人の能力や創造力、リーダーシップが育まれると共に、各職場におけるより良いコミュニケーション、チームワークの醸成にも役立っています。

人材育成のための諸制度

社員一人ひとりが多様な価値観を共有し、仕事への誇りと働き甲斐を持つことを人材育成の目標とし、社員自らのたゆみなき研鑽による成長を全面的に支援しています。具体的には、実務経験を重ねる中でのOJT教育を中心とし、これを補完するものとして、ビジネスや技術・技能の特性に応じた各種のオフライン研修を実施しています。

また、社員のキャリア形成のため、自己申告制度を通じて上司と部下が業務目標と将来のキャリアプランについて話し合う場を設けており、自律的なキャリア形成を促進するための人材公募制度も実施しています。

防災への取り組み

神戸製鋼グループは、グループを挙げて法令の遵守や設備事故対策、自然災害への備えに努めています。災害時における防災体制の整備、防災訓練などを継続的に実施し、事故の未然防止や災害時の被害の最小化に積極的に取り組んでいます。今後とも従業員一人ひとりの防災意識を高め、グループ全体で防災活動を進めていきます。

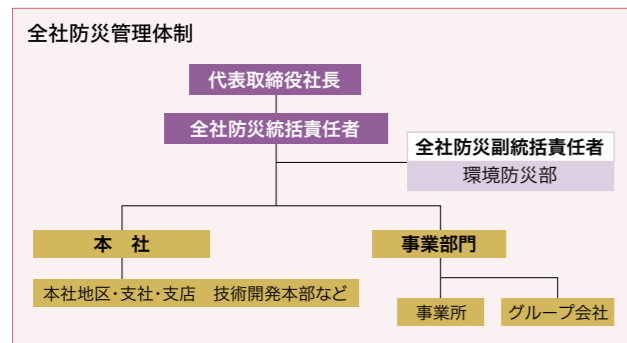
2012年度 全社防災管理方針

- 1
- 法令の遵守
- 2
- 設備事故撲滅
- 3
- 自然災害への備え強化

「人命の尊重、企業活動の継続、地域の安心の実現」

全社防災管理体制

神戸製鋼グループは、社長、全社防災統括責任者のもと、本社、事業部門、事業所、グループ会社それぞれにおいて、防災管理活動を推進しています。



神戸製鋼グループ防災会議

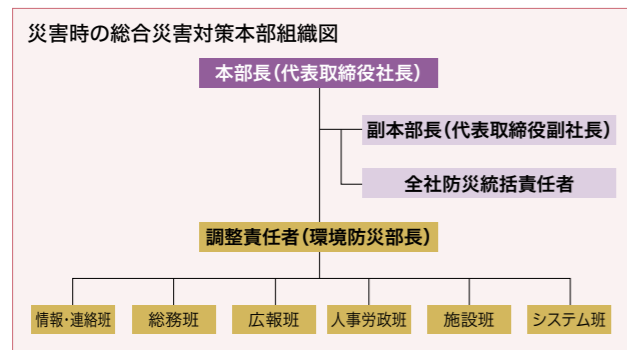
神戸製鋼グループは、防災情報の共有化、災害防止の取り組み強化を目的に、毎年「神戸製鋼グループ防災会議」を開催しています。2012年度は、グループ会社29社を含め74名が参加し、最新の法改正内容の確認や事業所の取り組み事例報告の他、京都大学防災研究所・林春男教授による特別講演会を行いました。巨大災害への備えなど、日頃の防災活動の重要性を再確認しました。



▲神戸製鋼グループ防災会議

災害時の対応体制

大規模な地震などの緊急時には、東京本社または神戸本社に総合災害対策本部を設置し、救援や復旧などにあたります。東日本大震災の際は、安否状況の確認や被災事業所を支援する本部を東京本社に設置し、支援物資の手配・輸送など、早期の操業再開をサポートしました。今後もよりスムーズに対応できるように、教育・訓練などを継続して行います。



現地防災確認調査

防災関係法令遵守の確認や設備事故につながるリスク低減を目的に、事業所の現地防災確認調査を実施しています。2012年度も引き続き、グループ会社の防災確認調査を実施しました。その結果、重大な法令違反はありませんでしたが、設備の管理面などの不備を是正しました。今後も神戸製鋼グループ全体の防災管理体制の強化を図っていきます。



▲現地防災確認調査（(株)セラテクノ明石工場）

事業所の防災対策

事故の未然防止に努めてきましたが、2012年度も火災の発生などをなくすことはできませんでした。それぞれについて原因究明を行い、対策を講じています。今後も再発防止に取り組み、事故事例の情報共有を図り、類似事故の防止活動の水平展開など、グループ全体で事故撲滅に努めていきます。

2012年度の各事業所の事故発生件数

事業所名	件数	事業所名	件数	事業所名	件数	事業所名	件数
神戸製鉄所	0	茨木工場	0	真岡製造所	0	播磨工場	0
加古川製鉄所	5	西条工場	0	長府製造所	0	神戸総合技術研究所	0
藤沢事業所*	0	福知山工場	0	大安工場	1	高砂製作所	0

※藤沢事業所は、生産センター藤沢工場、技術センター、グループ会社拠点の総称

2012年度の主な事故

日時・場所	内容
2012年10月 加古川製鉄所	連続铸造設備の溶鋼鍋下部力セット部より高温の溶鋼が漏洩し、運搬台車ケーブルを焼損。
2012年12月 大安工場	鍛造中の大型プレス機から油が漏れ、高温の金型にふれたことで引火し、プレス機上部に延焼・焼損。

事業所における防災活動

神戸製鋼グループは、各事業所において定期的な防災訓練を実施しています。2012年12月に石油コンビナート等総合防災訓練を加古川製鉄所にて開催しました。訓練は、石油類・高圧ガスなどの漏洩や火災が発生した場合に、防災関係機関との迅速な連携や対応を行い、被害の拡大を防ぐ体制を築くことを目的としています。今回の訓練では、地震による設備被害や津波によるガレキ集積、従業員の負傷、余震によるタンク火災、漏洩した重油の海上流出による船舶火災の発生を想定し、自衛消防組織と関係機関が連携した総合防災訓練を行いました。消防機関、兵庫県警、海上保安庁などの11の防災関係機関から約110名、さらに地元自治体や企業関係者約200名が参加しました。

石油コンビナート等総合防災訓練（加古川製鉄所）



▲LPGタンクへの放水訓練



▲現地指揮本部の設置訓練

大規模災害を想定した帰宅訓練

地震など大規模災害の発生で交通機関が不通になったとの想定のもと、神戸本社、東京本社で帰宅訓練を開催し、計286名が参加しました。神戸本社の参加者は、独自に作成した「災害時帰宅支援マップ」を携帯し、途中にある危険箇所やコンビニ、トイレなど災害発生時に役立つポイントを確認しました。目的地到着後は職場へ連絡し、参加者全員の安否確認を行いました。神戸本社地区での「コベルコ1.17ウォーク」と合わせて、今後も継続していきます。

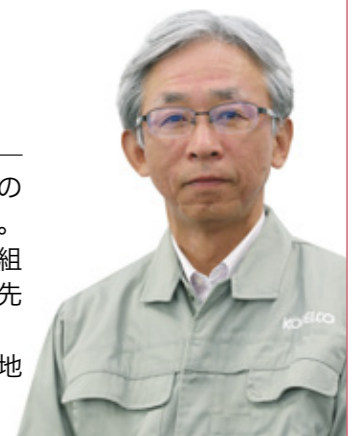


▲左：東京本社帰宅訓練 右：神戸本社災害時帰宅支援マップ

地域・社会から信頼される企業グループを目指して、防災活動を推進していきます。

全社防災統括責任者（執行役員） 柴田 耕一郎

神戸製鋼グループは、防災関係法令の遵守、設備事故撲滅に向けた管理体制の強化、自然災害への確実なる備えを念頭に地道な防災管理活動を継続しています。2012年度は、他社や過去の災害事例を参考に災害発生リスクを低減する取り組みを行いました。また、大規模地震・津波など自然災害への備えとして、人命最優先の観点からソフト+ハード対策を推進しております。防災・減災に終わりはありません。今後も地道かつ着実な防災活動を展開し、地域社会から信頼される、災害に強い企業グループを目指していきます。



各事業所の環境保全への取り組み

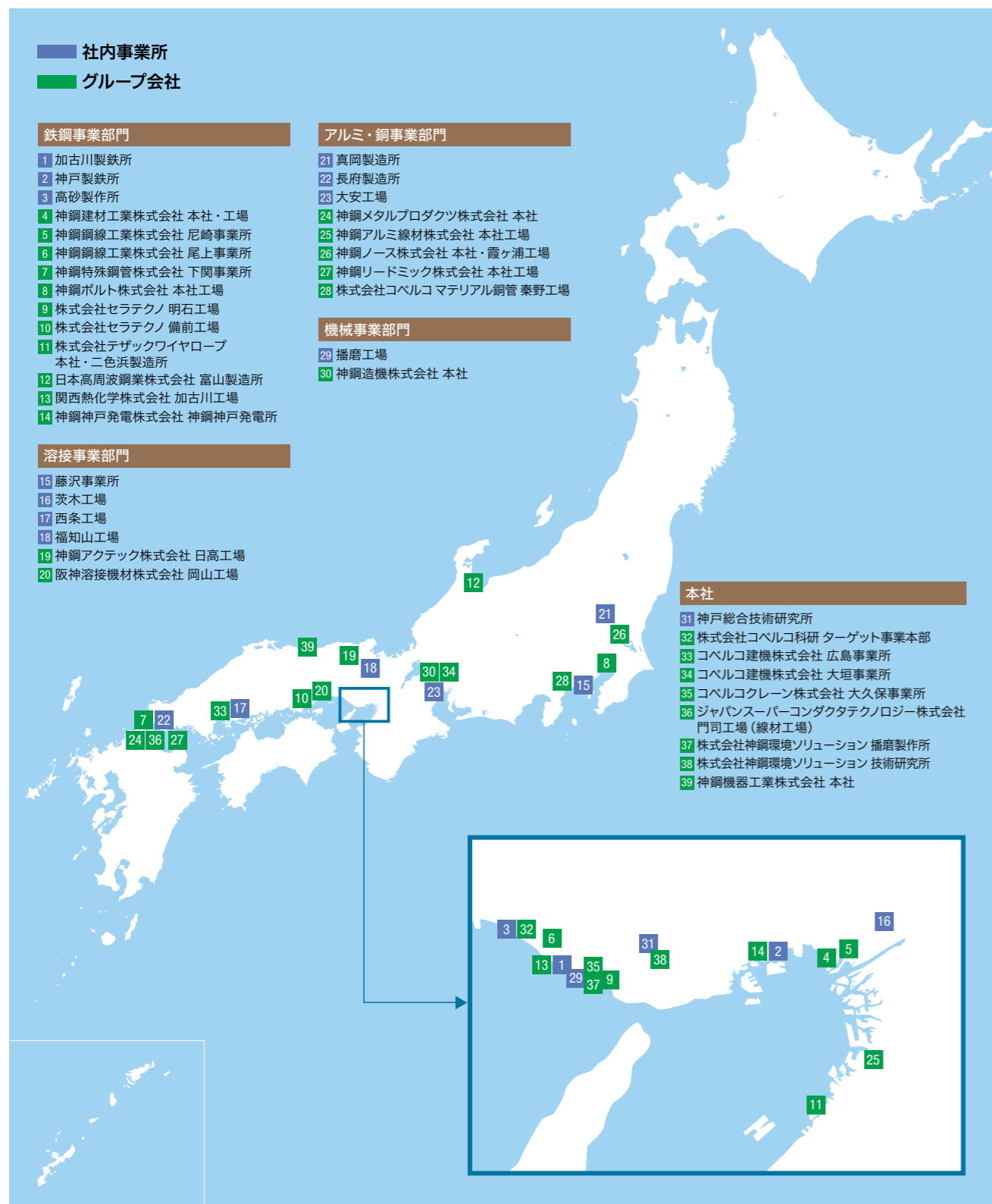
神戸製鋼の全事業所および主なグループ会社の事業所における環境保全の取り組みについて、各事業所の責任者よりご報告します。一つひとつの現場の努力から、神戸製鋼グループの環境保全活動は始まります。

1 事業所名・グループ会社名

- 所在地
- 主要製品

事業所長・環境責任者からのコメント

氏名



鉄鋼事業部門

1 加古川製鉄所

■ 所在地：〒675-0137 兵庫県加古川市金沢町1
 TEL：079-436-1111 / FAX：079-436-1400
 ■ 主要製品：厚板、熱延鋼板、冷延鋼板、表面処理鋼板、線材

「安全・環境・防災」の生産基盤をより強固なものとすると共に、社会環境や事業環境の変化に対応し、省エネルギー、廃棄物削減などに取り組んでいます。高品質な特徴ある製品の提供により社会に貢献すると共に、環境負荷低減活動や各種コミュニケーションを通じ、地域の皆様との共生を図ってまいります。

所長 尾上 善則

2 神戸製鉄所

■ 所在地：〒657-0863 兵庫県神戸市灘区灘浜東町2
 TEL：078-882-8030 / FAX：078-882-8290
 ■ 主要製品：線材、棒鋼

常に地域の皆様とのコミュニケーションを図りながら、神戸に生まれ育った都市型製鉄所として、環境保全活動に取り組んでいます。世界No.1の特殊鋼製鉄所を目指して、今後とも、所員全員の安全・環境・防災意識の維持・向上を図ってまいります。

所長 藤井 晃二

3 高砂製作所

■ 所在地：〒676-8670 兵庫県高砂市荒井町新浜2-3-1
 TEL：079-445-7111 / FAX：079-445-7231
 ■ 主要製品：鋳鍛鋼製品、チタン、鉄粉、産業機械、圧縮機、エネルギー・原子力機器

高砂製作所は、鋳鍛鋼、チタン、鉄粉から産業機械、エネルギー・原子力関連機器まで、特色あるオンリーワン製品を世界中に提供し、社会に貢献しています。また、昨今の電力状況もふまえ、所内の省エネルギーの推進など環境負荷の継続的改善を進めています。

所長 竹内 正道

4 神鋼建材工業株式会社 本社・工場

■ 所在地：〒660-0086 兵庫県尼崎市丸島町46番地
 TEL：06-6418-2621 / FAX：06-6418-6701
 ■ 主要製品：ガードフェンス、高欄、グレーチング、アンチスリップ鋼板、アルミ道路路材

2013年で6年目を迎えた「エコアクション21」の活動は、2012年度から全支店営業所に活動範囲を広げ、2013年度は、製販一体でモーダルシフト、エコカー導入など環境負荷低減を進めています。加えて環境製品の拡販に軸足を置き、環境活動を展開していきます。

製造副本部長 梶原 政徳

5 神鋼鋼線工業株式会社 尼崎事業所

■ 所在地：〒660-0091 兵庫県尼崎市中浜町10番地1
 TEL：06-6411-1071 / FAX：06-6411-9644
 ■ 主要製品：PC鋼材、PC鋼材加工品、めっき鋼線、ばね用鋼線

2007年に「エコアクション21」を登録後、工場だけでなく各営業支店も加え、全員参加で活動を継続展開しております。すでに6年を経過し、3回目となる更新審査を控え、なお一層の活性化を図っております。これまでの間、CO₂・廃棄物・総排水量などの削減を目標に挙げ、確実に成果につなげております。加えて、東日本大震災後、今もって先の見通せない電力供給不足不安を受けての省エネルギー活動についても、設備更新を中心に高効率生産のための聖域を設けない諸活動を継続し、環境負荷低減を推進します。

尼崎事業所長 橋本 力男

6 神鋼鋼線工業株式会社 尾上事業所

■ 所在地：〒675-0027 兵庫県加古川市尾上町今福128番地
 TEL：079-424-2681 / FAX：079-424-2686
 ■ 主要製品：一般ワイヤーロープ、特殊ワイヤーロープ、ロープ加工品、その他線材二次製品

昨今の緊迫した電力需給の中、当事業所では省エネルギー・省資源の推進を環境方針に定め、種々の活動を展開しています。地球環境、地域環境の保全により一層貢献できる事業所を目指し、2013年度も邁進いたします。

事業所長 前田 真一

7 神鋼特殊鋼管株式会社 下関事業所

■ 所在地：〒752-0953 山口県下関市長府港町13-1
 TEL：0832-46-3781 / FAX：0832-45-1092
 ■ 主要製品：縦目無ステンレス鋼管、精密細管、特殊管、チタン管

当社は持続可能な発展を目的として環境負荷低減活動に取り組む、2012年度は酸原単位改善や省エネルギーで成果を得ると共に、緊急事態対応のための予防処置に積極的に取り組みました。今後も継続的な改善活動に取り組む所存です。

取締役 下関事業所長 尾島 義憲

8 神鋼ボルト株式会社 本社工場

■ 所在地：〒272-0002 千葉県市川市二保新町17番地
 TEL：047-328-6551 / FAX：047-328-6558
 ■ 主要製品：高力ボルト(トルコン、ハイテン)

2012年は新しい設備を稼働させ線材の表面処理の内製化を始めました。約150km離れた外注先への往復輸送が不要となります。今年は月間約千トン进行处理する計画ですので非常に大きなエネルギーの削減が達成できる予定です。

取締役 生産部部長 吉野 信一郎

9 株式会社セラテックノ 明石工場

■ 所在地：〒673-0037 兵庫県明石市貴島5丁目11番70号
 TEL：078-923-8678 / FAX：078-923-8397
 ■ 主要製品：耐火レンガ、各種不定形耐火物

省エネルギー、廃棄物削減、有害物質の使用低減を中心に各職場で「エコアクション21」活動を実施しています。特に節電要請に対し、省電力、ピーク電力低減に積極的に取り組んでいます。今後も環境負荷低減、地域社会の環境保全を目的に継続的な改善に努めてまいります。

工場長 多田 秀徳

10 株式会社セラテックノ 備前工場

■ 所在地：〒705-0033 岡山県備前市穂浪2835番地の7
 TEL：0869-67-0011 / FAX：0869-67-1346
 ■ 主要製品：耐火レンガ、各種不定形耐火物

「エコアクション21」を認証取得して5年が経過しました。この間に、省エネルギー・節水・産業廃棄物の削減・有害物質の低減などに積極的に取り組み環境への負荷の低減に努めてきました。これからも、生活環境保全のために継続的改善を従業員一丸となって実施していきます。

工場長 中野 豊

11 株式会社テザックワイヤロープ 本社・二色浜製造所

■ 所在地：〒597-8501 大阪府貝塚市二色中町11番1
 TEL：072-432-9251 / FAX：072-432-2339
 ■ 主要製品：鋼索、鋼線

当製造所は海水浴場が隣接しており、工場排水に最大の注意を払って管理しております。2012年度は、PCB廃棄物を全量処分しました。また、産廃汚泥を路盤材として再利用しました。2013年度は、工場内照明のLED化など、省エネルギー活動に特に注力いたします。

製造所長 村上 弘樹

12 日本高周波鋼業株式会社 富山製造所

■ 所在地：〒934-8502 富山県射水市八幡町3丁目10番15号
 TEL：0766-84-3181 / FAX：0766-84-3468
 ■ 主要製品：特殊鋼鍛鋼品(ダイス鋼・プラスチック成型用鋼・その他精密鍛造材)、特殊鋼圧延鋼材

海に近い製造所であり、恵まれた自然環境を守るため特に排水改善に取り組んでいます。また、地域との会合・美化運動への参加など、コミュニケーションをさらに深め周辺の皆様に理解される製造所となるよう努めています。

常務取締役 富山製造所長 久留島 靖章

13 関西熱化学株式会社 加古川工場

■ 所在地：〒675-0137 兵庫県加古川市金沢町7番地
 TEL：079-436-1500 / FAX：079-435-1626
 ■ 主要製品：コークス、コークス炉ガス、化成品

加古川工場は、地域社会から信頼される企業として、「安全で安心な工場づくり」をスローガンに、製鉄所と一体となって、大気汚染・水質汚濁の防止はもとより、廃棄物の再生利用や省エネルギー活動など、環境負荷低減に努めています。

工場長 石川 邦夫

14 神鋼神戸発電株式会社 神鋼神戸発電所

■ 所在地：〒657-0863 兵庫県神戸市灘区灘浜東町2番地
 TEL：078-882-8036 / FAX：078-882-8037
 ■ 主要製品：電力供給事業

神戸の美しい山並と港に囲まれた都市型石炭火力発電所として、環境保全と設備の安定稼働に従業員一丸となって取り組んでいます。エネルギーの安定供給を通じて、皆様から信頼される発電所を目指しています。

取締役 北川 二郎

神戸製鋼グループについて

環境報告

社会性報告

各事業所の環境保全への取り組み

神戸製鋼グループについて

環境報告

社会性報告


各事業所の環境保全への取り組み

15 藤沢事業所*

■所在地: 〒251-8551 神奈川県藤沢市宮前100-1
 TEL: 0466-20-3111 / FAX: 0466-20-3115
 ■主要製品: フラックス入りワイヤ、溶接ロボットシステム

2012年度に引き続き、省エネルギー活動、最終埋立処分産業廃棄物の減量化、化学物質の適正管理などを重点実施事項として推進します。また全員参加による事業所周辺清掃活動など地域との共生・協働を通じて、EMS(環境マネジメントシステム)に対する意識の向上を目指します。

※生産センター 藤沢工場、技術センター、グループ会社拠点の総称




工場長
長谷川 章

16 茨木工場

■所在地: 〒567-0879 大阪府茨木市東宇野町2-19
 TEL: 072-621-2111 / FAX: 072-621-2015
 ■主要製品: 被覆アーク溶接棒、フラックス入りワイヤ、配合溶剤

廃棄物の発生量抑制・有価物化、粉じんに関する環境対策に継続して取り組んでいます。2013年度は工場排水管理の向上に努め、リスクの低減に向けた活動を展開していきます。また、化学物質の適正管理に向けた活動も推進していきます。




工場長
樋田 幸雄

17 西条工場

■所在地: 〒739-0024 広島県東広島市西条町御籠宇6400-1
 TEL: 082-423-3311 / FAX: 082-420-0038
 ■主要製品: 被覆アーク溶接棒

環境負荷の少ない事業活動を目指して、「エコアクション21」を活用しながら環境経営を推進しています。2013年度は自立型環境管理体制を構築すべく、内部監査の強化や人材育成に注力していきます。




工場長
池上 浩司

18 福知山工場

■所在地: 〒620-0853 京都府福知山市長田野町3-36
 TEL: 0773-27-2131 / FAX: 0773-27-6358
 ■主要製品: ソリッドワイヤ

2012年度は、夏季電力使用量10%以上の節電(2010年度比)や工場外への化学物質漏えい防止強化実施など環境負荷低減に取り組んできました。これからも、繰り返し教育を通じて、従業員への環境に対する意識向上に努め、廃棄物量の削減、再資源化に対して、あらゆる策を実行し、環境負荷低減に取り組んでいきます。




工場長
迫 勝幸

19 神鋼アクテック株式会社 日高工場

■所在地: 〒669-5302 兵庫県豊岡市日高町岩中682
 TEL: 0796-42-1212 / FAX: 0796-42-1218
 ■主要製品: 高機能脱臭フィルター・厨房排気用脱臭フィルター

「エコアクション21」で「炭酸ガス・水・廃棄物削減」などに工場全員で取り組んでいましたが、2012年度下期から新たに本社・営業部門も加わり全社員が環境活動を展開中です。




工場長
村田 忠博

20 阪神溶接機材株式会社 岡山工場

■所在地: 〒709-2105 岡山県岡山市北区御津伊田1028-12
 TEL: 0867-24-4181 / FAX: 0867-24-4340
 ■主要製品: 自動溶接用溶剤

2013年度末「ゴミゼロ」が目標です。キメ細かな発生源対策と発生部署別の分別を進めることにより、廃棄物の再資源化が徐々に進んでいます。ゴミゼロ実現に向けて全員参加でがんばっています。




代表取締役社長
山本 英樹

21 真岡製造所

■所在地: 〒321-4367 栃木県真岡市鬼怒ヶ丘15(第2工業団地)
 TEL: 0285-82-4111 / FAX: 0285-84-0231
 ■主要製品: アルミ板・条

2012年度は設備改善によるエネルギー転換を進めCO₂排出量を削減し、産業廃棄物については再資源化活動によりリサイクル率は過去最高となりました。2013年度は設備の稼働体制の最適化によりさらなる省エネルギーを推進し、引き続き環境との共生・調和・社会貢献に努めていきます。




所長
藤井 拓己

22 長府製造所

■所在地: 〒752-0953 山口県下関市長府港町14-1
 TEL: 083-246-1211 / FAX: 083-246-1271
 ■主要製品: アルミ押出材、アルミ加工品、伸縮板・条

山口県エコファクトリー認定事業所として、ISO14001をベースにした法令遵守、環境負荷低減活動、および地域との協働・共生に取り組んでいます。2013年度は、省エネルギーと産業廃棄物削減を重点的に推進していきます。




所長
磯野 誠昭

23 大安工場

■所在地: 〒511-0284 三重県いなべ市大安町梅戸1100
 TEL: 0594-77-0330 / FAX: 0594-77-2249
 ■主要製品: アルミ・マグネシウム鋳造品、アルミ・マグネシウム鍛造品

大安工場では、廃棄物削減、コストダウン活動の推進により、廃油などの産業廃棄物の有効利用を実現しました。製品においては、アルミサスペンション部品が自動車軽量化によるCO₂削減に貢献しています。今後も「環境との調和」を基本理念とし、環境へ配慮した生産活動を行ってまいります。




工場長
桂 俊弘

24 神鋼メタルプロダクツ株式会社 本社

■所在地: 〒800-0007 福岡県北九州市門司区小森江2丁目2番1号
 TEL: 093-381-1331 / FAX: 093-381-3833
 ■主要製品: 復水管、銅合金管、複合材、熱加工品

2012年度は照明のLED化、湯洗槽の保温など地道な省エネルギー活動、夏場のピーク電力を抑制するため操業調整日の拡大に取り組まれました。2013年度はめっき廃液の削減をはじめとする廃棄物の削減を重点的に進めます。




取締役 工場長
行壽 啓之

25 神鋼アルミ線材株式会社 本社工場

■所在地: 〒593-8315 大阪府堺市西区菱木2丁目2153番地の1
 TEL: 072-271-1481 / FAX: 072-271-1486
 ■主要製品: アルミ合金線・棒、アルミ線棒加工品

2012年度は照明のLED化などの他省エネルギー活動と共に熱間圧延モーターなどの防音対策を行いました。また、夏季休日振替を行い電力需要のピーク削減にも参加しました。お客様、地域社会の皆様からお認めいただけるよう2013年度も環境負荷低減活動に積極的に取り組んでまいります。




取締役社長
河野 克彦

26 神鋼ノース株式会社 本社・霞ヶ浦工場

■所在地: 〒315-8523 茨城県かすみがうら市上福吉1758-1
 TEL: 0299-59-4111 / FAX: 0299-59-4597
 ■主要製品: 建設仮設材・自動車部材などアルミ加工品

2011年度より実施の環境関連活動(①省エネルギー、②省資源、③生活化、④品質歩留、⑤棚卸削減)を継続的かつ積極的に推進中です。2013年度はこの活動を各部門横断のチーム活動へと展開し、さらにブラッシュアップしてまいります。




社長
遠山 茂幸

27 神鋼リードミック株式会社 本社工場

■所在地: 〒800-0007 福岡県北九州市門司区小森江2丁目2番1号
 TEL: 093-381-1337 / FAX: 093-381-3352
 ■主要製品: 電子部品・半導体・集積回路部品

2012年度は、省エネルギー・省資源活動に取り組み、電力削減や工場排水のリサイクル化で大きな成果を得ることができました。2013年度も全員参加の「地球にやさしい会社」を基本理念として、省エネルギー、特管廃棄物の削減を重点的に推進します。




社長
貝賀 史幸

28 株式会社コベルコ マテリアル銅管 秦野工場

■所在地: 〒257-0015 神奈川県秦野市平沢65番地
 TEL: 0463-82-3111 / FAX: 0463-83-1920
 ■主要製品: 空調用、給水・給湯用銅管および銅合金管

当工場では銅管のトップメーカーとして、省エネルギーについても重点課題として取り組んでいます。2013年度は、さらなる歩留向上を柱としてエネルギー原単位向上や産業廃棄物削減を図ると共に、新冷媒対応の高性能小径伝熱管の開発などを通じて、社会に貢献してまいります。




工場長
田口 昌利

29 播磨工場

■所在地: 〒675-0155 兵庫県加古郡播磨町新島41
 TEL: 079-436-2101 / FAX: 079-436-2199
 ■主要製品: 空気圧縮機、冷凍機および蒸気関連商品

環境先進企業として、「環境に配慮した生産活動」「製品・技術・サービスでの環境への貢献」「社会との共生・協調」を実現することにより、社会的責任を果たすと共に事業収益の最大化を図り、世界トップクラスの圧縮機メーカーを目指します。




工場長
新村 剛

30 神鋼造機株式会社 本社

■所在地: 〒503-8505 岐阜県大垣市本町1682番地の2
 TEL: 0584-89-3121 / FAX: 0584-87-0020
 ■主要製品: 試験機、動力伝達装置、発電装置

世界に通じる第一級のQCDC工場に向け、環境に配慮した生産活動を進め、世界の需要動向に「高い技術の独自性」と「一貫生産のものづくり」で応え、「人と地球と環境との共生」を実践するグローバル企業として、社会に貢献してまいります。




代表取締役社長
米谷 剛人

31 神戸総合技術研究所

■所在地: 〒651-2271 兵庫県神戸市西区高塚台1丁目5-5
 TEL: 078-992-5600 / FAX: 078-992-5532
 ■主要製品: -

研究開発活動における環境法令遵守ツールとして、「エコアクション21」を活用しながら、CO₂・上水・廃棄物排出量の削減に全員参加で取り組んでいます。神戸総合技術研究所は省エネルギー、省資源など、環境に配慮した新製品・新技術の研究開発を通じて、社会に貢献してまいります。




開発業務部長
佐伯 公三

32 株式会社コベルコ科研 ターゲット事業本部

■所在地: 〒676-8670 兵庫県高砂市荒井町新浜2丁目3番1号
 TEL: 079-445-9020 / FAX: 079-445-9025
 ■主要製品: スパッタリングターゲット材

当事業本部は、フラットディスプレイ、光記録、薄膜2次電池などの分野向けに独自の商品を提供し、製品製造時の「環境に優しいものづくり」はもちろん、当社材使用によりお客様での工程省略や材料使用削減などを実現することで環境改善に貢献していくことを目指します。




ターゲット事業本部長
小宮 幸久

33 コベルコ建機株式会社 広島事業所

■所在地: 〒731-5161 広島県広島市佐伯区五日市港2丁目2番1号
 TEL: 082-943-5321 / FAX: 082-943-5322
 ■主要製品: 建設機械、運搬機械、自動車、自動車関連機械器具・部品

新工場への移転後、取り組んできた生産性向上や物流面の効率化に目途が立ち、有機溶剤の使用量も半減できました。製品では、20Tのハイブリッドショベルを上市しました。2013年度は、有機溶剤などのさらなる削減とリサイクル分野の製品強化に引き続き取り組んでいきます。




生産本部長
平山 正史

34 コベルコ建機株式会社 大垣事業所

■所在地: 〒503-0932 岐阜県大垣市本町1682番7号
 TEL: 0584-89-3104 / FAX: 0584-87-0014
 ■主要製品: 建設機械

当事業所では、現在、競争力強化プロジェクトを推進中で、その中で生産効率向上による使用電力、CO₂発生量の削減、ならびに塗着効率向上による廃塗料の削減に努めると共に、地域の皆様との共生を目指し環境保護、汚染防止に努めてまいります。




事業所長
瀧川 晋

35 コベルコクレーン株式会社 大久保事業所

■所在地: 〒674-0063 兵庫県明石市大久保町八木740
 TEL: 078-936-1331 / FAX: 078-938-2015
 ■主要製品: クレーン等土木建設機械、その他諸機械

「環境を築き上げるものが、環境を損なうものではない」というこのスローガンのもと、当事業所では、生産性向上による電力・燃料の効率的な使用や廃棄物発生量削減、グリーン調達などの環境負荷低減に取り組んでいます。これからは、低燃費、低騒音、軽量化に関する技術を駆使し、排ガス規制や省エネルギーに対応したクレーンづくりを通じ、エコで快適な社会基盤の構築に貢献してまいります。




人事総務部長
杉浦 正裕

36 ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー株式会社 門司工場(線材工場)

■所在地: 〒800-0007 福岡県北九州市門司区小森江2-2-1
 TEL: 093-391-2835 / FAX: 093-391-2847
 ■主要製品: 超電導線材

当工場で生産する超電導線材は、電気抵抗がゼロで、次世代の発電用途として期待されています。また、「エコアクション21」活動を通じて、CO₂排出量、水使用量、廃棄物排出量の削減に、現場、スタッフ一同で取り組んでおります。




線材工場長
池谷 大

37 株式会社神鋼環境ソリューション 播磨製作所

■所在地: 〒675-0155 兵庫県加古郡播磨町新島19番地
 TEL: 079-436-2500 / FAX: 079-436-2506
 ■主要製品: プロセス機器

2013年度より播磨製作所を担当することになりました今中です。今年度もコンプライアンスを徹底すると共に所員全員で安全で働きやすい職場環境の構築を目指します。省エネルギー活動についても地道な活動を展開し、電力、燃料などの省エネルギーを推進していきます。




所長
今中 照雄

38 株式会社神鋼環境ソリューション 技術研究所

■所在地: 〒651-2241 兵庫県神戸市西区室谷1丁目1番4号
 TEL: 078-992-6500 / FAX: 078-997-0550
 ■主要製品: -

技術研究所では、廃棄物の発生量削減や再資源化量向上の推進に取り組んでおります。また、排水基準遵守に対して、巡回点検などによる適正管理の遂行、全所員での緊急事態対応訓練などを実施してまいります。環境関連企業として、地域の環境保全に配慮した運営に努めております。




所長
高橋 正光

39 神鋼機器工業株式会社 本社

■所在地: 〒682-0014 鳥取県倉吉市海田町112番地
 TEL: 0858-26-8111 / FAX: 0858-48-1077
 ■主要製品: 高圧ガス容器などのプレス加工品・製品

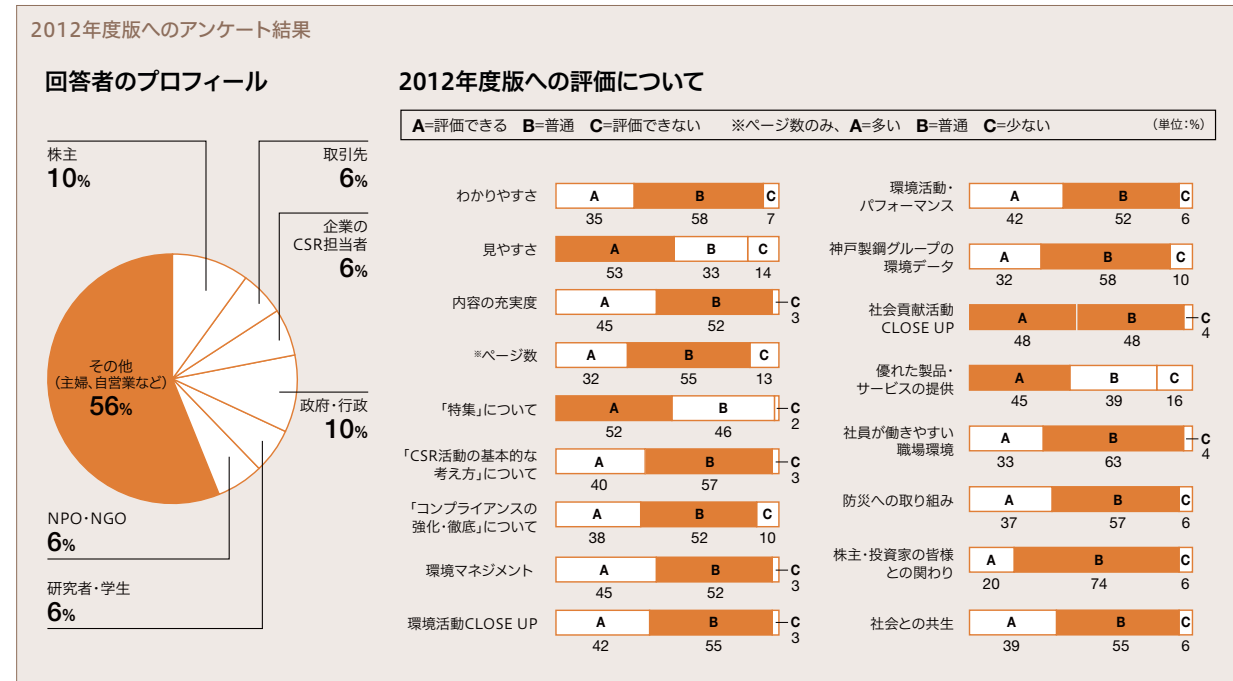
海、山に囲まれた倉吉の自然豊かな地域との共存を目指し、特に工場排水に注力すると共に、密接した地域の皆様へ配慮した操業を心掛けております。また、2012年度より各職場で取り組みを設定し、従業員の環境への意識高揚に努めています。



常務取締役
中井 芳秀

読者の皆様からの評価

神戸製鋼グループは、ステークホルダーとの対話に基づき環境・社会貢献活動を行います。その一環として、環境・社会報告書の発行にあたり、毎年、読者の皆様にアンケートを実施しています。2012年度版に関しても、幅広い皆様から以下のようなご意見・ご感想をいただきました。今後も、読者の皆様一人ひとりの「声」を活かした、双方向の環境・社会報告書づくりを進めてまいります。



特に興味を持った、または印象に残った内容

- エネルギーを創るものづくり。再生可能エネルギーの確保に腐心している現在、その分野で「創造」が行われていることに感動しました。
- 高伝熱タン板。これからの海洋温度差発電への期待が広がります。
- 東京スカイツリーの頂点にコベルコ製品が使われているなんて。Wonderful!
- 人を守るものづくり。災害の減少に対する考え方がわかりやすく、効果的。
- 日経地球環境技術賞を受賞した新製鉄法「ITmk3」。未利用の資源を有効活用するためのイノベーションを、どんどん広げてほしい。
- 鉄鋼スラグを使った魚礁の開発。リサイクルと自然保護の連携がおもしろい。
- グローバルな社会貢献活動。地球レベルで地域社会との共生を進めているんですね。NPOとの協働の接点にも興味があります。
- ハラスメント防止の取り組み。特にパワハラについて取り組んでいるのはすばらしいです。安全衛生管理の考え方も参考になりました。

次回の報告書で知りたいこと

- 製品に関して技術的にもう少し深く紹介してほしい。日本の工業技術力の高さや信頼性の高さについて、貴社を通じてもっと知りたいです。
- 蒸気動力のコンプレッサをもっと詳しく知りたい。発電もできれば、究極の蒸気機関車やクルマを生み出す可能性を感じます。
- 大震災に対するリスクマネジメントについて。防災に対する取り組みとは別に、災害時のBCP(事業継続計画)をどう考えているのでしょうか？
- バリアフリーに基づく風通しの良い社風について、もっとPRに力を入れてほしいのではと思った。また、社員が働きやすい職場という点でもっとたくさんの人を取り上げてほしい。
- 国際的な社会貢献に取り組む御社の姿勢について。
- 産業や暮らしの場で、コベルコの製品がどのように役立っているか？私たちの仕事や生活と、コベルコの接点をもっと知りたいです。

その他のご意見・ご感想

- 編集方針が最初に明記されていたため、読み進めやすかった。
- 温泉熱を活かすバイナリー発電を、日本中の温泉地に普及させてください。
- 日本で開催されるラグビーW杯に、コベルコスティーラーズの選手がたくさん選ばれますように。トップリーグでいい成績を残してください。
- 環境や地域社会への貢献が、企業活動と不可分のものになっていることがよくわかった。特に各拠点で清掃活動が継続されていることが共感できます。
- 移動電源車が貴社の製品とは知りませんでした。自然災害でのインフラ復旧のため大変社会に貢献していると思いました。
- 誠実に記載された良いCSR報告書だと感じました。ただ、情報量が多いが故に、読みにくさも感じました。もったいないと思います。
- 日本有数の企業としてふさわしい活動をしていると思いました。国内の大学教育や研究への支援も充実してほしいです。

編集後記

「環境・社会報告書2013」の発行にあたっては、製造業ならではの「ものづくり」を通じた環境と社会への貢献活動について、幅広いステークホルダーの皆様により詳しくお伝えすることを意識しました。環境ページの特集では「KOBELCOのバリューチェーン」として、鉄鋼事業部門の原料の調達からお客様の使用段階にいたる全ての過程での環境負荷低減活動を紹介

しています。また、社会性ページの特集では「スポーツを通じた社会への貢献活動」をクローズアップしています。加えて、写真やグラフ、人の声などを積極的に掲載することで、当社グループの取り組みを端的にご理解いただけるよう、工夫を凝らしました。今後も読者の皆様から忌憚らないご意見を賜り、内容の充実に努めてまいります。

(株)神戸製鋼所 CSR委員会

COMMENT 第三者コメント



神戸製鋼グループ 「環境・社会報告書2013」を読んで

(株)日本政策投資銀行
環境・CSR部長 竹ヶ原 啓介

PROFILE

1989年、一橋大学法学部卒業。同年、日本開発銀行(現(株)日本政策投資銀行)入行。政策企画部・調査役(環境投融資の企画担当)、事業開発部・CSR推進室長などを経て、現職。東京大学大学院・非常勤講師、経済産業省「金融市場における『環境力』評価手法研究会」委員、環境省「環境ビジネス市場規模・雇用規模調査 対象業種・サービス検討委員会」委員などを歴任。2009年より、中央環境審議会・総合政策部会「環境と金融に関する専門委員会」委員を務める。

「環境・社会報告書2013」では、昨年度の報告書で明確化された「ものづくりを通じた社会貢献」というCSR経営のコンセプトを踏襲しながら、コミュニケーションの深化に向けた新たな工夫が凝らされています。

まず、巻頭の川崎社長によるトップメッセージでは、グループ経営の方向性を打ち出すとともに、個別技術への言及を介してCSRに関する様々な取り組みを俯瞰する新たな視点が加わりました。その上で、マテリアリティを踏まえた3つの視点から環境活動や社会貢献活動を紹介する展開は、全体的にコンパクト化されたことと相俟って、神戸製鋼グループのCSR経営像の統一性を強化してくれています。

個別項目では、わかりやすさを重視した体系を維持しつつ、環境・社会性ともに新たな情報を盛り込み、過年度からの読み手に対してもCSR経営への理解をより深める機会を提供している点が印象的です。環境報告ではバリューチェーンでの取り組みが初めて登場しました。高品質の鋼材はもとより、様々な素材やシステムを多方面で開発・投入し、社会において多様な価値を提供している神戸製鋼グループだけに、サプライチェーンの上流における取り組みを示すことは、その貢献度を一層明快に示すことにつながる重要な一歩といえるでしょう。

また、社会性報告では神戸製鋼ラグビー部によるスポーツを通じた社会への貢献が特集されています。世界各地の事業拠点での地域との調和など、昨年度

までの報告とは切り口を変え、選手による被災地支援やラグビー教室による次世代の選手の育成など神戸製鋼グループならではの個性にフォーカスしたことで、社会貢献活動の多様性を効果的に訴求できていると感じました。

独自のコンセプトに基づきCSR活動を多面的に整理した今年度の報告書も、高いレベルに仕上がっていると評価できます。今後は、各構成要素の関係性を深め、一貫性を更に強化することを期待したいと思います。例えば、新たに加わったバリューチェーンでの取り組みは、資源採掘や輸送など、本業と生物多様性との関係性をより具体的に示すことにつながります。生態系サービスに依存する一方、技術を通じて自然資本の保全にも多大な貢献を果たす姿をより明確に示すことが期待されます。また、社会性報告では、スポーツを通じた文化の伝承を打ち出した今号の流れを引き継ぎ、ものづくりの世界の伝承についての報告が期待されます。特に、昨今、製造業で多発する事故の原因の一つとして現場での技術やノウハウの共有不足が指摘されている現状に鑑みれば、「安全」や「事業継続力」をキーワードに本業のものづくりを支える次世代教育への姿勢を示すことは、極めて重要な社会的側面の報告であると考えられます。

完成度の高い体系を活かし、多様なステークホルダーとのコミュニケーションツールとして一層の充実を図られることを期待しています。